

あすまち [公共計画編]  
こおりやま

郡山市まちづくり基本指針

2018-2025  
The Plan for the Future of Koriyama





## 課題を解決し、未来(あす)へとつながる まちづくりの実現に向けて





地方自治の本旨とは、市民と行政が対等のパートナーシップの<sup>1</sup>下でまちづくりのビジョン<sup>2</sup>や方向性を決定し、市民自らの手でその実現を担っていくということです。2011（平成23）年に、地方自治法から市町村の基本構想<sup>3</sup>策定義務付けが撤廃されましたが、これは、全国一律な制度から脱却し、地域が主体的に自分たちの未来を創造する時代へと変わってきたことを意味しています。

このたびの、新たな「郡山市まちづくり基本指針」の策定過程において、小学生から80代の方まで多くの市民の皆さんにご参加いただき、地域に暮らす住民一人ひとりが、「自分事<sup>4</sup>」として主体的に未来を想い、そのために何をなすべきなのかを考えました。そこで描かれた将来像は、市民と行政が共有し、ともに目指す“未来ストーリー”となりました。その実現に向けて、本市は東日本大震災や原子力災害からの更なる復興を推進するとともに、少子高齢・人口減少問題への対策をはじめ、2018（平成30）年2月に認証取得したセーフ

コミュニティ<sup>5</sup>活動の一層の推進など、将来の市民生活に直結する様々な課題に積極的な対応を図って参ります。そしてまた、市民一人ひとりが地域づくりの担い手として、ともに想い描く生きいきとしたまちを実現するために、この基本指針が大きな柱となることを確信しています。

結びに、「郡山市まちづくり基本指針」策定にあたり、様々な観点から議論を尽くしていただいた審議会及び郡山市議会の皆様に感謝を申し上げます。そして市民会議「あすまち会議こおりやま」や地区懇談会「あすまちエリアディスカッション<sup>6</sup>」に参加し、地域の未来を描いていただいた市民の皆様には感謝を申し上げますとともに、今後、地域づくりの担い手として、自らの人生設計、企業においては経営方針を実現できる市民総活躍のもと、一層輝いていただくことをご期待申し上げます。

2018年4月 郡山市

1 パートナーシップ：複数の者が協働して事業を営む関係。

2 ビジョン：将来どのような成長・発展を遂げていきたいかなどの構想や未来像を描いたもの。

3 基本構想：施策や事業の基本概念として、将来像や目標の大綱を示すもの。

4 自分事：他人事ではなく、まさに自分に関わりのある事柄として当事者意識を持つこと。

5 セーフコミュニティ：地域社会全体で怪我や事故を予防する活動を行い、安全・安心と認められた地域。国際認証制度である。

6 エリアディスカッション：地区における懇談会の英訳。他自治体でも、「エリアミーティング」等と呼称することが多い。

# 目次

## プロローグ

「郡山市まちづくり基本指針」とは	01
1. プロローグ	02
2. 基本指針の特徴	04
3. 市民が描いた「公共計画 <sup>7</sup> 」としての共通指針	08

## 第1章

変化し続ける課題への対応	15
1. 郡山市の現状（市民の実感と第五次総合計画の評価）	16
2. 予見可能性の高い課題への対応（将来の年表）	24
2025年問題など予見可能性の高い課題からのバックキャスト <sup>8</sup>	

## 第2章

ともに目指す未来	27
1. 将来都市構想策定のコンセプト	28
2. 郡山市の目指す未来（将来都市構想）	29
3. 未来実現に向けた分野別将来構想	30
<b>大綱Ⅰ</b> 「産業・仕事の未来」 商業・工業・雇用・農林業分野	33
<b>大綱Ⅱ</b> 「交流・観光の未来」 交流・文化・観光・広聴広報・シティプロモーション分野	41
<b>大綱Ⅲ</b> 「学び育む子どもたちの未来」 子育て・教育・地域学習分野	49
<b>大綱Ⅳ</b> 「誰もが地域で輝く未来」 市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野	57
<b>大綱Ⅴ</b> 「暮らしやすいまちの未来」 環境・防災・市民安全・生活インフラ分野	65
横断的取組	72
基盤的取組	73

## 第3章

市民が描く市民のための基本指針	75
1. あすまち会議でのループ図 <sup>9</sup> 、マイ・プロジェクト <sup>10</sup> 一覧	77
2. あすまちエリアディスカッションでの意見一覧	100

## 資料集

資料集	107
-----	-----

7 公共計画：地域社会全体が策定主体として、地域が進むべき方向性などを示す官民共通の指針。

8 バックキャスト：将来構想や目標から振り返って何をすべきか考える手法。未来からの発想法。

9 ループ図：目標達成までの因果関係を整理し、今何をすべきかを明確にするもの。

10 マイ・プロジェクト：個人の想いと社会課題解決を結びつけ、「自分事化」する手法。

プロローグ

**「郡山市まちづくり基本指針」とは**



プロローグ

## 「郡山市まちづくり基本指針」とは



喜久田地区から見た安達太良山

## 「まちづくりに正しい答えはない。楽しい答えを描こう」 「未来を知りたければ自ら未来を創ろう」

2016（平成28）年10月に開催した市民会議「あすまち会議こおりやま」で、私たち行政から参加者である市民の皆さんにお送りしたメッセージです。この想いに呼応するかのようになり、「誰も一人ぼっちにならないまち」「学びたいことを思いっきり学べるまち」といった、心を強く打つようなリアルで共感できる将来構想が市民の皆さんによって語られました。そして、その将来構想を実現するために、市民一人ひとりの「想い」や「願い」に根ざした力強いアクションを考え、小さな一歩をともに踏み出しました。

地域づくりに関係の無い市民はいません。同じ未来を目指す市民一人ひとりの小さなアクションが理想の未来を生み出していくのです。

「一尺を開けば一尺の仕合わせあり、一寸を墾すれば一寸の幸あり」  
先人の鍬の一振りが未開の安積原野を切り拓いたように、明日の郡山を創り出すのはフロンティア・スピリット<sup>11</sup>にあふれた私たち郡山市民です。

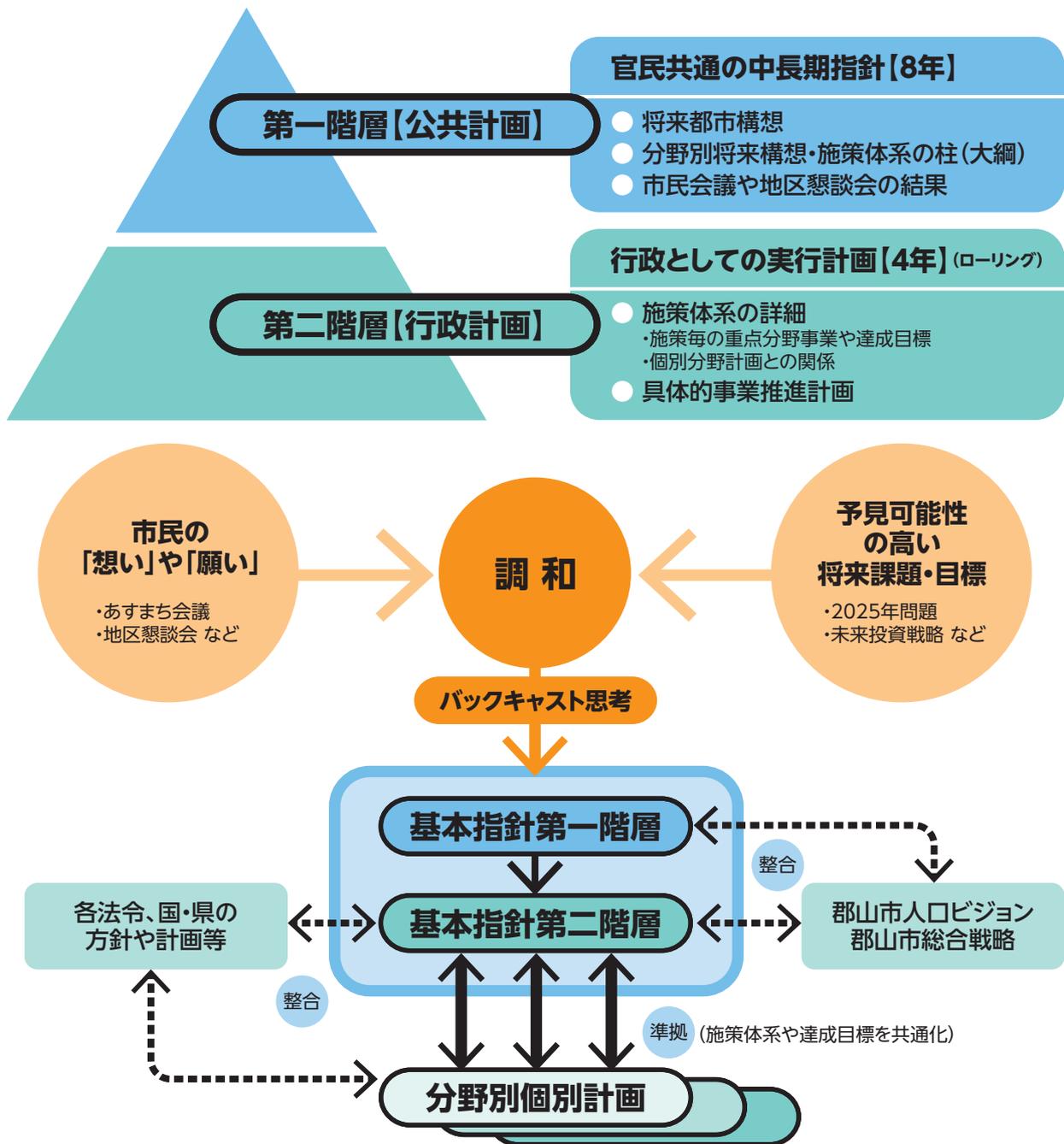
11 フロンティア・スピリット：進取、自由の精神。開拓者魂。安積原野を切り拓いた郡山市民に脈々と息づいている気性。

## 2. 基本指針の特徴

### (1) 郡山市まちづくり基本指針 全体構成

本基本指針は、市民や事業者も含めた郡山市全体が目指すべき将来都市構想やそのために必要な分野別の方向性を示す第一階層（公共計画）と、その将来都市構想実現のために行政が取り組むべき事業や各分野別計画などを示す第二階層（行政計画<sup>12</sup>）で構成されていま

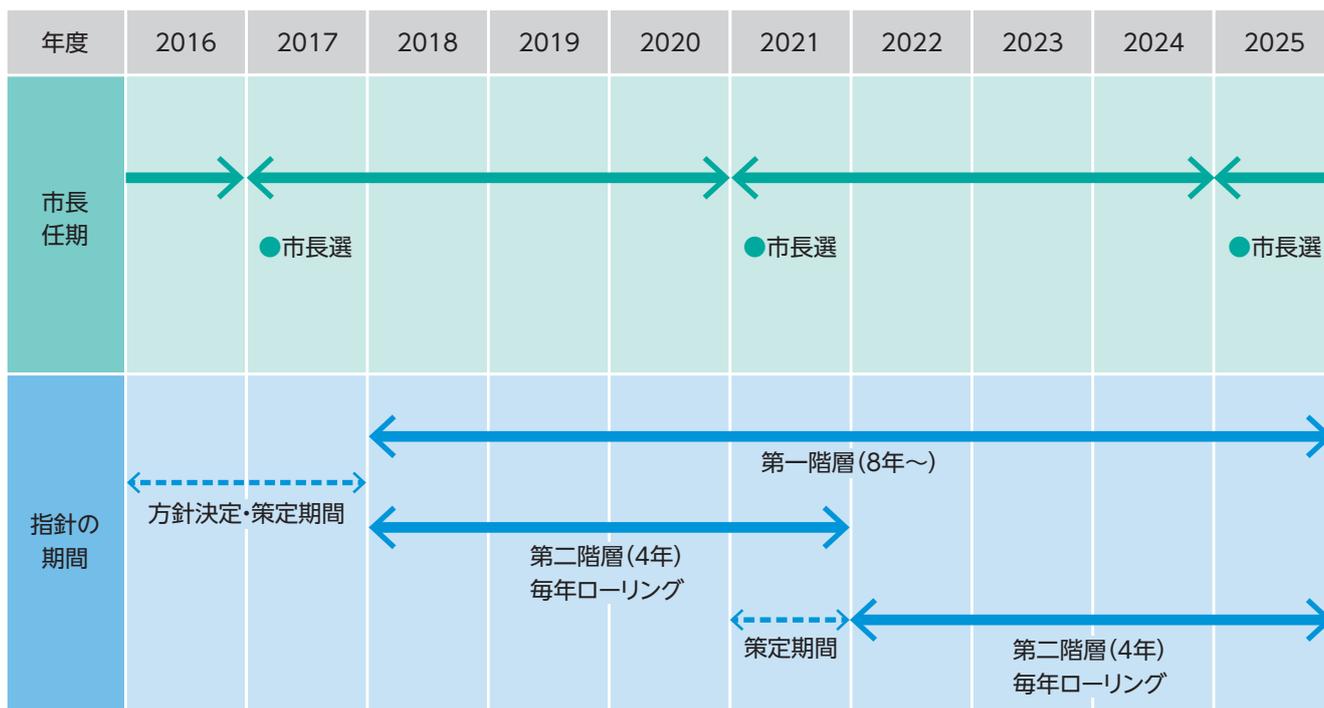
す。基本指針の期間は4年を基礎単位として、第一階層は8年間（目標年度：2025年度）、第二階層は4年間の計画期間とします。なお、第二階層は社会経済情勢の変化や国の新たな制度等にも柔軟に対応するため、毎年のローリング<sup>13</sup>により見直します。



12 行政計画：行政が計画の策定主体として定める、将来像実現に向けた具体的な取り組みのロードマップ。

13 ローリング：中長期的な計画を作成した後、社会経済情勢など環境変化に対応して計画内容を定期的に見直すこと。

## (2) 郡山市まちづくり基本指針の計画期間



## (3) 郡山市まちづくり基本指針策定における3つのポイント

①構成を簡素化・明快化 (公共計画と行政計画の2階層に区分)

②実効性の強化・機動性の確保 (市長任期に合わせた4年単位)

③公平な市民参加 (無作為抽出による選定等新たな市民参加手法)

### ①簡素で分かりやすい2階層の構成

基本指針の構成については、その目的や性質から、市民の声を直接反映させ、行政だけではなく、市民や事業者も含めた本市全体の将来都市構想を示す、最上位の「公共計画」と、行政として将来目標実現のために展開する各種施策、事務事業やその達成目標を示す、ロードマップ<sup>14</sup>としての「行政計画」の二階層とし、市民にとって分かりやすく使いやすい構成とします。

### ②安定性と機動性の絶妙なバランス

基本的な姿勢として、地域としての揺ぎない長期的な将来都市構想を定めることはもちろん重要なことではありますが、その一方で、人口動態や社会経済情勢に応じて重点化する事業や将来の達成目標などを適切に判断することや、国の法令改正や新たに創設された制度などへの対応など、柔軟性を兼ね備えたしなやかな基本指針とする必要があります。また、市長が選挙の際に市民に対して示す公約についても速やかに反映させるため、市長任期である4年を基本に定期的な見直しを図り、安定性と機動性を兼ね備えたバランスの良い基本指針とします。

14 ロードマップ：事業の推進など物事を展開させていく過程を示した行程表。

### ③市民参加機会を拡充し、ともに未来を創造

地方自治法の規定により基本構想の策定が義務付けられていた時代には、「地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想」と定められており、条文どおり「行政の運営」のためのものでした。2011（平成23）年に地方自治法が改正され、この条文が削除されました。もちろん、根拠法令が無くとも、これまでどおりの内容で総合計画を継続していくことも可能です。しかし、私たちはこの地方自治法改正の趣旨を、自治体が「自由と責任」「自立と連携」の理念により、上意下達ではなく住民本位による行政運営を一層推進するチャンスであると捉えています。

そのため、今回の基本指針策定にあたっては、従来の市民意識調査やパブリックコメント<sup>15</sup>はもとより、普段なかなか行政と関わりを持っていない大多数の市民の皆さん（サイレント・マジョリティ<sup>16</sup>）にも積極的に参加していただくため、無作為抽出した市民3,000名に直接通知をお送りして参加いただいた市民会議「あすまち会議こおりやま」や、地域住民同士が地域資源や将来に向けた展望を議論し合う場としての地区懇談会「あすまちエリアディスカッション」を開催するなど、市民の「想い」や「願い」を何よりも大切に基本指針策定を心掛けてきました。



15 パブリックコメント：国や地方自治体などが規則あるいは計画等を策定する際、広く公表した上で意見を求める手続き。

16 サイレント・マジョリティ：物言わぬ多数派。公の場で声高に発言することは無いが、実は世論の多数を占める勢力。

#### (4) 市民が関わり続け、使い続けられる基本指針として

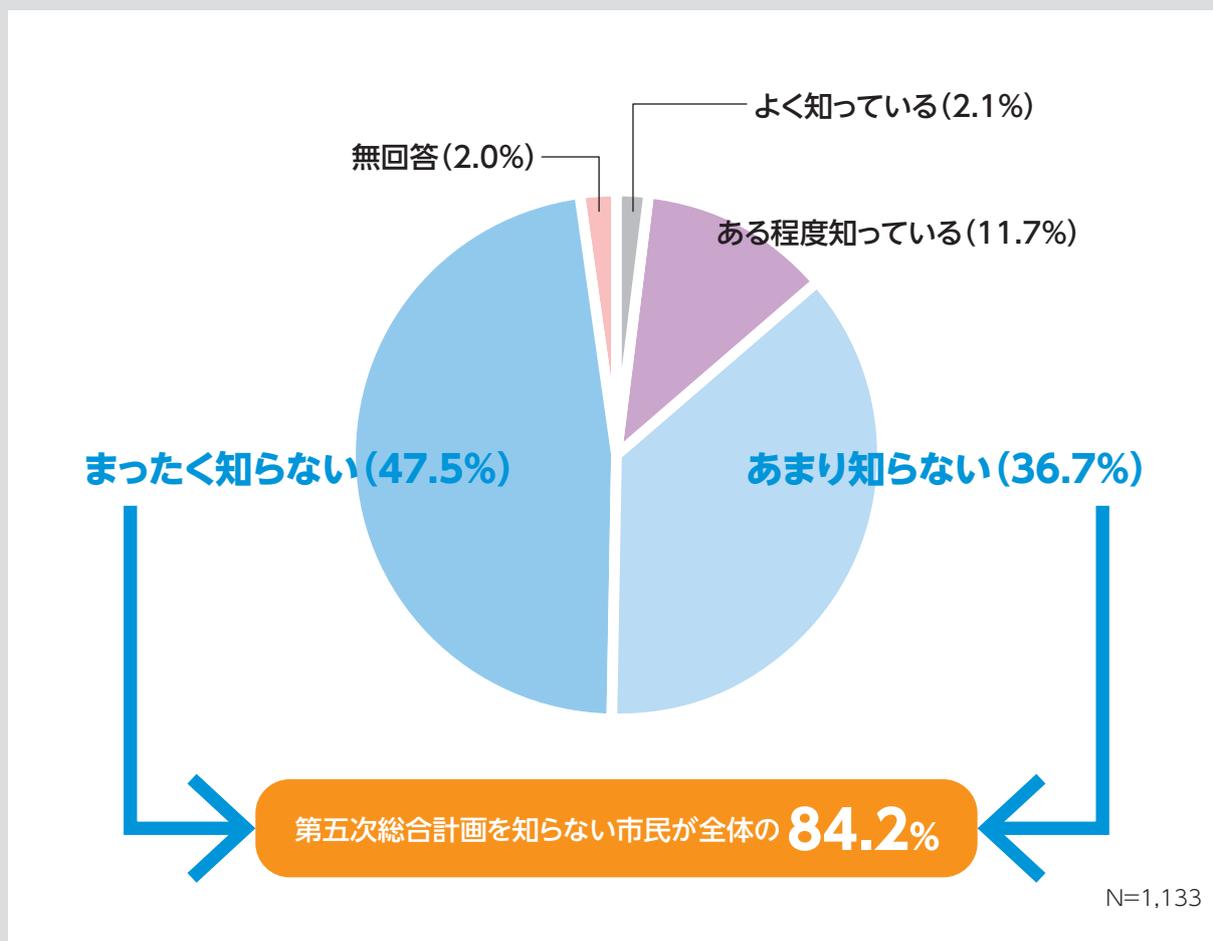
2016（平成28）年度に実施した市民意識調査で、市民の皆さんが2017（平成29）年度までの本市最上位計画であった「郡山市第五次総合計画」を知っているかどうか伺ったところ、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせても13.8%にとどまり、「まったく知らない」が47.5%、「あまり知らない」と合わせると実に84.2%にもなることが分かりました。行政が「市政運営の最上位計画」と位置付けていても、市民にとっては自分たちと関わりが無いものと感じられているのかもしれませんが、それは行政にとっても市民にとっても幸せなことではありません。

今回の基本指針では、全体の構成や計画期間などを見直していますが、それは市民とともに策定する第一階

層と行政の事業を整理する第二階層に分けることで、市民が関与できる範囲を明確にし、また、市長の任期と合わせることで、市政に対する関心が高まるタイミングで基本指針の見直しができるように考えた結果です。小さな変化かもしれませんが、基本指針が「絵に描いた餅」ではなく、まちづくりにとって真に有用なツールになるための基本的な機能を備えることとしました。

そして何よりも策定したあとが重要であり、これまで以上に市民参加の機会を拡充する必要があります。それは定期的な見直しのタイミングだけではなく、策定過程で参加者一人ひとりが考えた「将来構想実現のための小さなアクション」を市民が広く共有し、日々実践するための基本指針として機能させていくということです。

#### ■ 郡山市第五次総合計画の認知度



平成28年度 市民意識調査報告書

### 3. 市民が描いた「公共計画」としての共通指針

この「郡山市まちづくり基本指針」第一階層では、2016（平成28）年度から2017（平成29）年度にかけて開催した市民会議「あすまち会議こおりやま」、「あすまち会議こおりやま2」や地区懇談会「あすまちエリアディスカッション」において、市民同士が話し合ってきた経緯を振り返り、そこで語られた「市民がともに目指す

未来」を描きます。行政だけでは発想できないような豊かなイメージと市民一人ひとりの「想い」や「願い」が詰まった生きいきとした未来を描き、その未来を実現するために、行政だけではなく、市民それぞれが担い手として積極的に関与する「コレクティブ・インパクト<sup>17</sup>」を誘発する基本指針とすることを目指しています。

#### 郡山市まちづくり基本指針策定経緯

2016（平成28）年度		
4月	基本指針策定方針決定	
5月～	市民会議開催準備	
9月	平成28年度わかもの創生会議	
10月	市民会議「あすまち会議こおりやま」	分野別将来構想検討
11月	平成28年度市民意識調査	市民意向調査
2月	地区懇談会「あすまちエリアディスカッション」	地域課題分析
3月	《（仮称）郡山市まちづくり基本指針骨子（案）作成》	
2017（平成29）年度		
4月～	市民会議開催準備	
7月	市民会議「あすまち会議こおりやま2」	将来構想の具体化
8月	第五次総合計画の評価と検証	取り組みのレビュー
	平成29年度わかもの創生会議	
9月	《（仮称）郡山市まちづくり基本指針素案作成》	
10月～	郡山市まちづくり基本指針審議会	素案の精査
12月～1月	パブリックコメント	
2月	《郡山市まちづくり基本指針策定》	

- ※ 庁内会議「（仮称）郡山市まちづくり基本指針策定委員会」等を随時開催
- ※ 議会への説明会等についても適宜開催
- ※ チャレンジ市役所「新発想」研究塾、こおりやま広域圏幹事会等についても反映

17 コレクティブ・インパクト：集合知による課題解決。様々な主体がお互いの強みを出し合い社会的課題の解決を目指す手法。

## (1) 市民会議「あすまち会議こおりやま」〈2016（平成28）年10月～11月〉



市民会議「あすまち会議こおりやま」では、いわゆる「サイレント・マジョリティ」にも配慮した公平な市民会議の手法である「市民討議会<sup>18)</sup>」の手法を参考としながら、18歳以上の市民から無作為抽出した3,000人に開催通知を送付し、市民同士の討議によって話し合いを進めました。会議には18歳から80代まで、のべ200名を超える市民の皆さんが参加し、年齢も立場も関係なく対等な議論をしていただきました。

また、短時間で効率的に話し合いを進めるため、誰もがバックキャストして考えられるよう、システム思考<sup>19)</sup>の手法である「ループ図」を作成することで、将来構想と具体的な手法を関連付けながら整理しました。また、担い手意識を醸成し、具体的なアクションに結びつけるため「マイ・プロジェクト」の手法により一人ひとりの「想い」や「願い」、そして「未来」を結びつけながら勇気ある一歩を考えました。



18 市民討議会：ドイツで考案された手法「プランungsk・ツェレ」を準用。無作為抽出、少人数討議などの特徴がある。

19 システム思考：問題を構造を持ったシステムとして捉え、要素間の因果関係に着目して原因究明を行うもの。

① キックオフミーティング<sup>20</sup> 2016 (平成28) 年10月2日 (日)

② 市民ワークショップ 2016 (平成28) 年10月6日 (木) ~10月30日 (日) 全5回



「産業・仕事の未来」「交流・観光の未来」「学び育む子どもたちの未来」「誰もが地域で輝く未来」及び「暮らしやすいまちの未来」の5つの分野別ワークショップにより、市民が描く理想の将来構想と、その実現のためのアクションを考え、全ての意見を一つも無駄にすることなくループ図としてまとめました。

③ ラップアップミーティング<sup>21</sup> 2016 (平成28) 年11月6日 (日)

ラップアップミーティングでは5回の分野別ワークショップを振り返り、それぞれの「理想の将来構想」と1枚にまとめたループ図を「市民会議からの提言」として

市長に手渡しました。また、参加者相互インタビューにより、話し合いの成果と、それぞれの「想い」をお互いに確認しました。



20 キックオフミーティング：新たなプロジェクトを始動させる際、顔合わせや情報共有等のために行う最初の会議。

21 ラップアップミーティング：プロジェクトの最後の取りまとめのための会議。

## (2) 地区懇談会「あすまちエリアディスカッション」〈2017(平成29)年2月〉



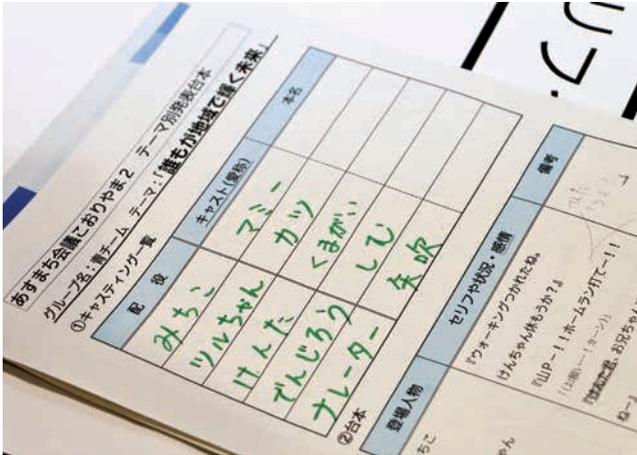
広大な市域を持つ本市では、人口が密集している市街地や、山林・田畑が広がる郊外部など、それぞれの地域が個性的で豊かな地理的・文化的特性を持つため、地域住民と行政が直接対話する地区別懇談会の開催が非常に重要なものとなります。本市では、平時から「町内会長等と市長との懇談会」により地域の課題・要望を伺っていたため、今回の基本指針策定にあたり開催する地区懇談会では、従来の手法とは違う視点で地域の皆さんの未来に向けた考え方を知る機会にしたいと考えました。

地区懇談会「あすまちエリアディスカッション」では、小学生や中学生も含む300名を超える皆さんに参加していただき、生まれ育った地域の歴史と思い出を振り返り、未来に残したい地域の宝を洗い出すとともに、子どもや孫の世代のためにより良くしたい地域の課題などについて話し合いました。懇談会は14の行政センター及び旧市内の全15地区で開催し、インターネットテレビ会議システム<sup>22</sup>により隣り合う3地区同士の意見を共有しながら進めました。共通する課題やそれに対する解決法など、互いに情報交換し刺激を受け合いながら自分たちの地域の未来を考えることで、自然と話し合いは住民である私たちに何ができるのかという視点になり、ポジティブで未来志向の懇談会となりました。



22 インターネットテレビ会議システム：遠隔地での対面コミュニケーションを可能とする情報システム。

### (3) 市民会議「あすまち会議こおりやま2」〈2017(平成29)年7月〉



基本指針スタートまで1年を切った2017(平成29)年夏、これまでの議論を具体的かつ明確な将来構想として結実させるため、「あすまち会議こおりやま2」を開催しました。

「あすまち会議こおりやま2」では、新たに公募により全市民から参加者を募り、のべ約260名の参加により開催しました。意見を出し合う段階から、将来構想として集約する段階に移る今回のワークショップでは、これまでの市民会議等で話し合われた分野別の将来構想を「素案」として取りまとめ、市に提言する必要性がありました。提言にあたり、市民の「想い」や「願い」に基づく将来構想を、単なる「提言書」として市長に手渡すだけでなく、市民が主体的に策定過程を歩んできたこの1年余りの集大成として、参加した市民自らが分野別将来構想を演じ、表現する機会とすることにしました。

まずは、分野別将来構想を具体的な登場人物による生きいきとしたストーリーとして描きました。ワークショップでは、吉本興業の福島県住みます芸人である「ぺんぎんナッツ」のお二人に実演指導をいただきながら、参加者がストーリーの中に入り込んで未来の市民のセリフや心の動きを体感しながら考えました。そして、あえて今の自分とは全く異なる立場の登場人物を演じることで、様々な主体が同じ未来を実現するために、それぞれの持ち味を発揮する「コレクティブ・インパクト」への理解を深めました。



## ① キックオフミーティング 2017 (平成29) 年7月1日 (土)



キックオフミーティングでは、島根県立隠岐島前高校魅力化プロジェクトをはじめとする地域活性化の取り組みを実践する藤岡慎二氏の特別講義により、市民それぞれが地域の未来をプロデュースする楽しさやコツを学びました。特に、市民が主役の地域づくりを進めるためには、現場での課題発見から課題解決まで、自ら考え動ける人材が必要となっており、実行し学び続けることが何よりも大事であることや、ストーリーづくりのポイントは「共感」と「共有」にあることなど、多くのヒントをいただきました。

## ② 市民ワークショップ 2017 (平成29) 年7月8日 (土) ~7月14日 (金) 全3回



前回の「あすまち会議こおりやま」で作成したループ図を各グループで読み解き、具体的なストーリー作りの材料となる理想のまちの姿を分野別に考えました。

また、「ぺんぎんナッツ」による漫才教室形式での実演指導により、楽しく、そして真剣にストーリーづくりとステージでの演技方を学び、「理想の将来構想」が実現された郡山市での暮らしをみんなで話し合いました。回を重ねる毎にグループの団結力も強まり、ワークショップ終了後にも会場に残って熱心に議論をする姿が見られました。



### ③ ラップアップミーティング 2017 (平成29) 年7月22日 (土)

ラップアップミーティングには、市長、副市長をはじめとする郡山市職員や市議会議員のほか、参加者の家族や友人、その他多くの市民の皆さんにご来場いただき、堂々と誇らしげに未来の郡山の姿を演じる参加者の姿

がとても印象的でした。言葉や文章だけではなく、参加した市民自らが体当たりで理想の姿を語り演じた今回の「あすまち会議こおりやま2」は、いつまでも市民一人ひとりの心に残るものとなりました。



## 第1章

# 変化し続ける課題への対応

# 1. 郡山市の現状（市民の実感と第五次総合計画の評価）

## (1) 郡山市の現在の姿

### ①市民が感じる地域の変化と誇り

「あすまちエリアディスカッション」では、過去と現在を比べた地域の変化と、未来に残したい地域の誇りを改めて考えていただき、未来の郡山市を考えるうえでの我々の立ち位置を確認しました。

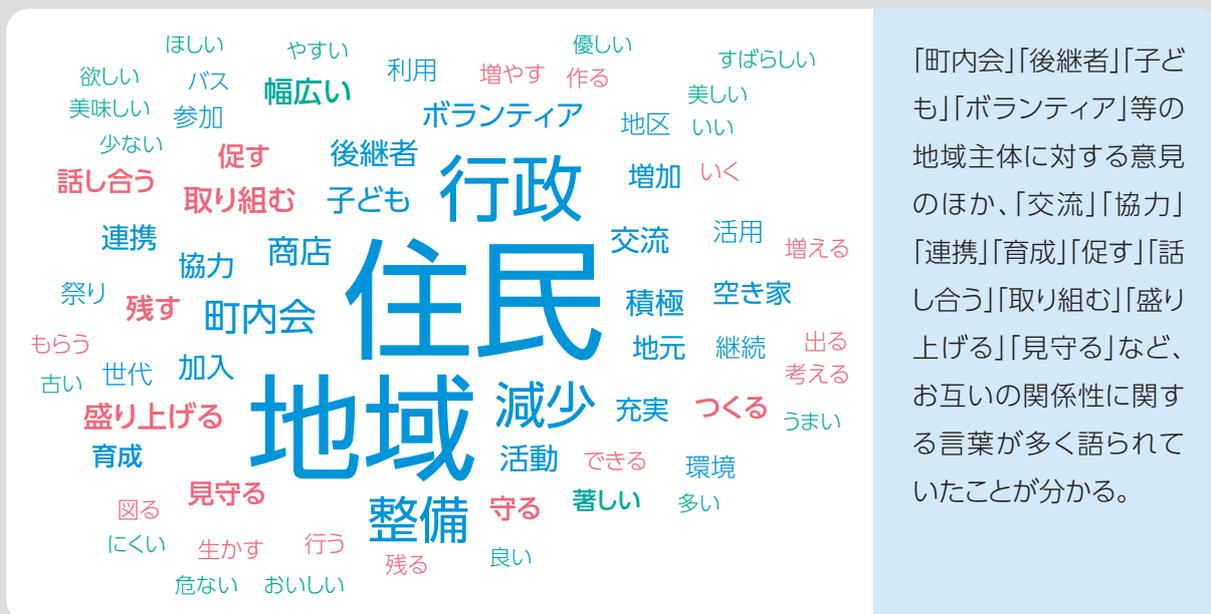
各地区に共通する望ましい変化として、幹線道路や生活道路の整備により交通網が発達し、通勤や地域間の移動が便利になりました。それに伴い、道路沿線に新たな商業施設などが立地し、買物の利便性も向上しています。また、地域の公園や遊び場が充実し、子どもたちが安全に遊ぶ環境整備も進んでいます。その他、地域によっては区画整理や民間の宅地開発により、良好な住環境の整備が進んでいることも市民の皆さんが実感されています。

一方で、幹線道路整備により子どもたちの通学路が

寸断され、危険な箇所が増えてしまったという意見もありました。また全市的に少子化の影響が見られており、特に地域の皆さんは育成会の行事や地域の祭りなどにおいて、子どもの声が聞こえなくなったことでそのことを実感しています。その他にも、農家の減少により耕作放棄地が増えていること、近所同士の付き合いが希薄になってきていて、顔も分からない人が増えていることに不安を感じている方も多くなっています。

地域の誇りとして、伝統的な祭りや子ども神輿が地域の人達の手で守り伝えられていることや、各地に点在する桜の名所などの豊かな自然に親しみを覚えています。また、消防団や町内会など地域住民の活躍や連帯感を誇りに思うなど、今を生きる住民同士がお互いを尊重し合う素晴らしい関係が見られます。

## ■ あすまちエリアディスカッションにおける意見の頻出用語分析<sup>23</sup>



株式会社ユーザーローカル「テキストマイニングツール」

23 頻出用語分析：会議等での発言のうち、どのような言葉が多く語られていたかを分析する手法。

## ②郡山市の現状を知る

市民の皆さんの実感としてもあったとおり、既に日本は少子高齢・人口減少社会に突入しています。郡山市でも2015（平成27）年度に「郡山市人口ビジョン<sup>24</sup>」「郡山市総合戦略<sup>25</sup>」を定め、将来人口推計に基づいた様々な対策を講じています。また、市民の皆さんが生まれ

育った地域で安心して生活できるためには地域経済を支える産業構造や、教育・子育て・医療福祉や安全・安心の取り組みといった市民生活の現状を正しく理解することも重要です。

### ア 人口動態

本市の人口は、2004（平成16）年の339,248人をピークに、東日本大震災直後の人口急減からしばらくは回復基調にありましたが2016（平成28）年度から再び減少傾向となっており、震災の影響を踏まえた将来人口推計として、2040年には281,147人となると予測しています。特に若年層の転出と出生率の低下が顕著であり、安定した雇用の確保や地域経済活動等に与える影響が懸念されています。そのため、郡山市人口ビジョンでは、「子育て世代の純移動率<sup>26</sup>」及び「合計特殊出生率<sup>27</sup>」の改善により、将来的にも人口30万人規模を維持することが福島県の中核都市である本市の使命であると考えており、本基本指針の目標年度である2025年においては、推計人口315,503人に対し、将来展望人口として320,225人を目指しています。

特に、生産年齢人口（15～64歳）及び年少人口（0～14歳）については、全国的な少子化、首都圏等への人口流出の影響により長期的な減少が予測されており、現実的には、こうした社会情勢に対応した、持続可能な地域社会の構築に向けた施策の展開が求められておりますが、郡山市人口ビジョンに掲げた、「子育て世代の純移動率」及び「合計特殊出生率」の段階的改善に向けた取り組みも合わせて推進していく必要があります。



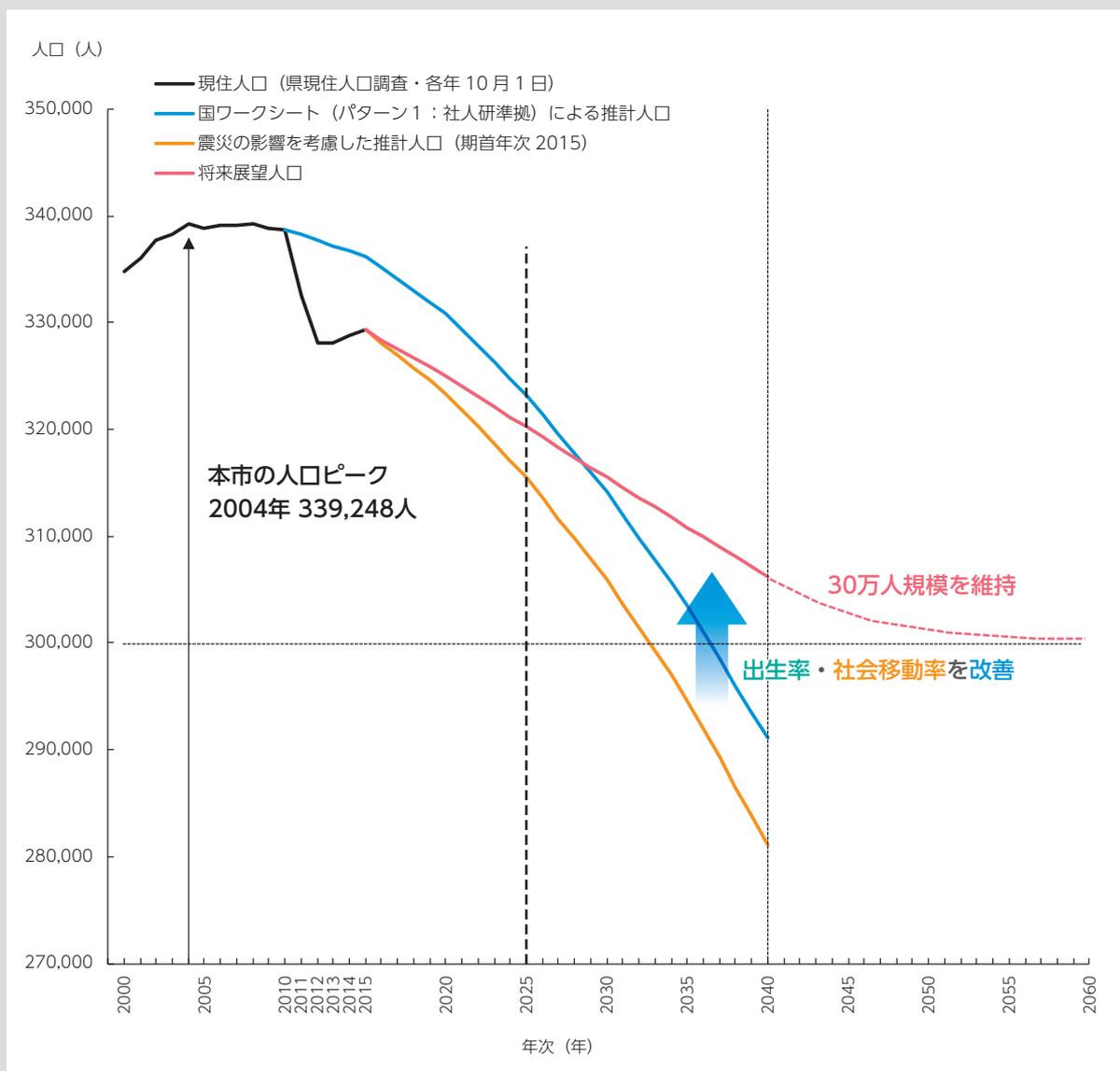
24 郡山市人口ビジョン：2040年度を目標とする本市人口の将来展望及びその実現のための方向性などを示すもの。

25 郡山市総合戦略：2015年度から5年間ににおける本市の「まち・ひと・しごと創生」の方向性などを示すもの。

26 純移動率：特定の時期、場所における移入民と移出民の差を表す人口統計学の用語。

27 合計特殊出生率：15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。

## 郡山市の将来推計人口と将来展望人口の比較



単位：人

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
国ワークシート(パターン1:社人研準拠)による推計人口	338,712	336,217	330,824	<b>323,241</b>	314,131	303,492	291,079
震災の影響を踏まえた推計人口	338,712	329,270	323,368	<b>315,503</b>	305,956	294,668	281,147
将来展望人口	338,712	329,270	324,948	<b>320,225</b>	315,491	310,859	306,226

郡山市人口ビジョン(H28)

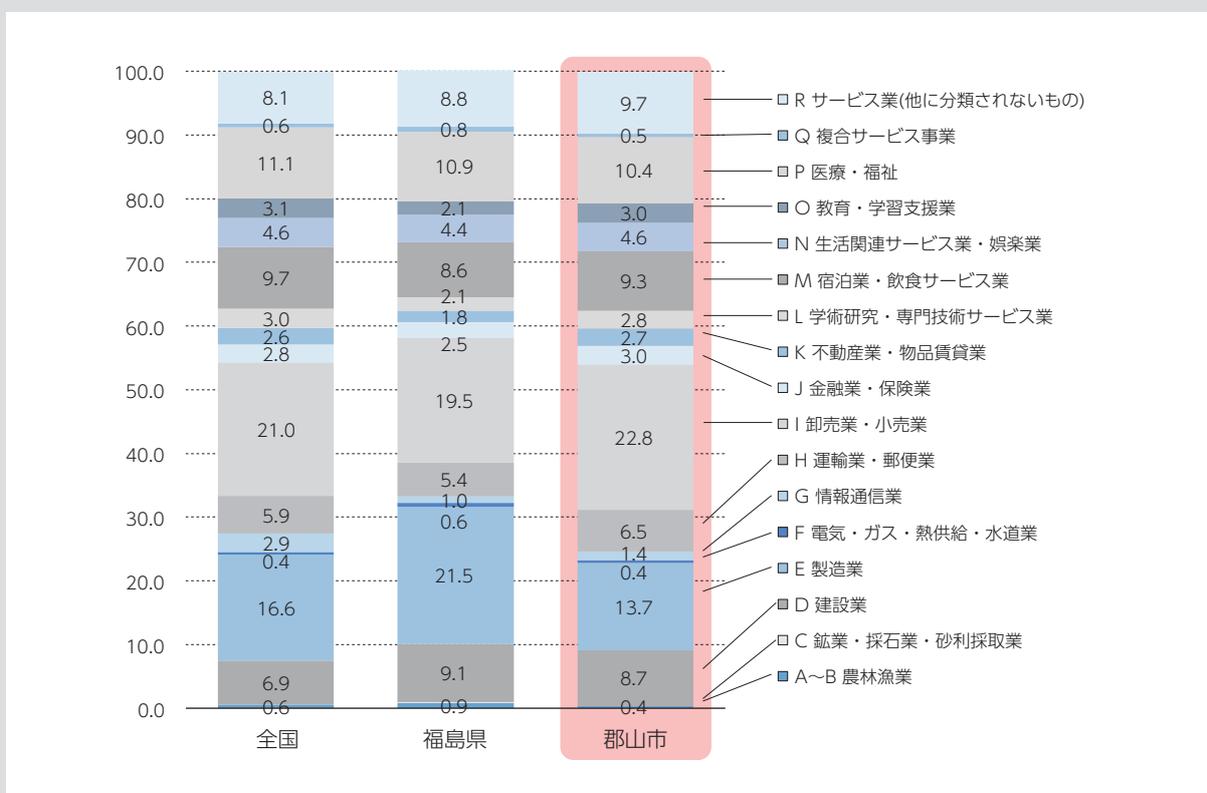
## イ 産業構造

本市の産業別従業者数の構成としては、卸売業・小売業が22.8%と最も高く、次いで製造業、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業等となっています。また、その他サービス業の比率も福島県や全国と比べて高くなっており、住民生活を豊かで快適にするための多様な業種が発展する都市的な産業構造となっています。

また、付加価値額<sup>28</sup>としても飲・食料品小売業、医

療業、飲食サービス業、その他小売業、娯楽業などの内需産業が上位を占めており、成熟した消費生活の実態が垣間見られる一方、インバウンド<sup>29</sup>につながる宿泊業や、外部マーケットに対して付加価値の高い製造業や情報通信業、農林業等での「稼ぐ力」が比較的弱く、これらを向上させることが求められています。

### ■ 産業別従業者数構成比の比較



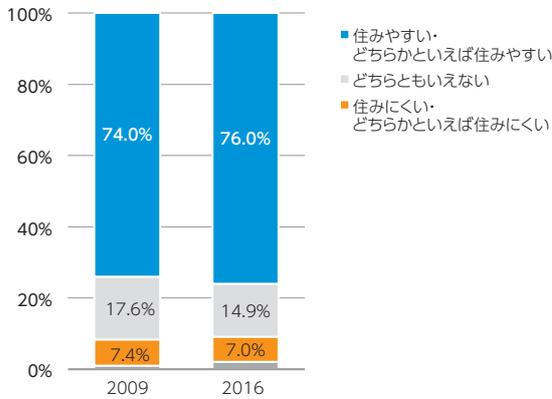
郡山市新たな広域連携促進事業成果報告書(2016.2)

28 付加価値額：企業等の事業活動によってどれだけ新しい価値が生み出されたかを表す指標。

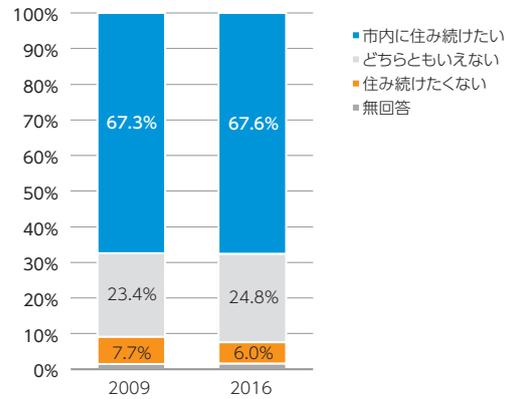
29 インバウンド：入ってくるものという意味から転じて外国（区域外）から訪れる旅行を指す。

## ■ 市民意識調査による郡山市の住みやすさ評価

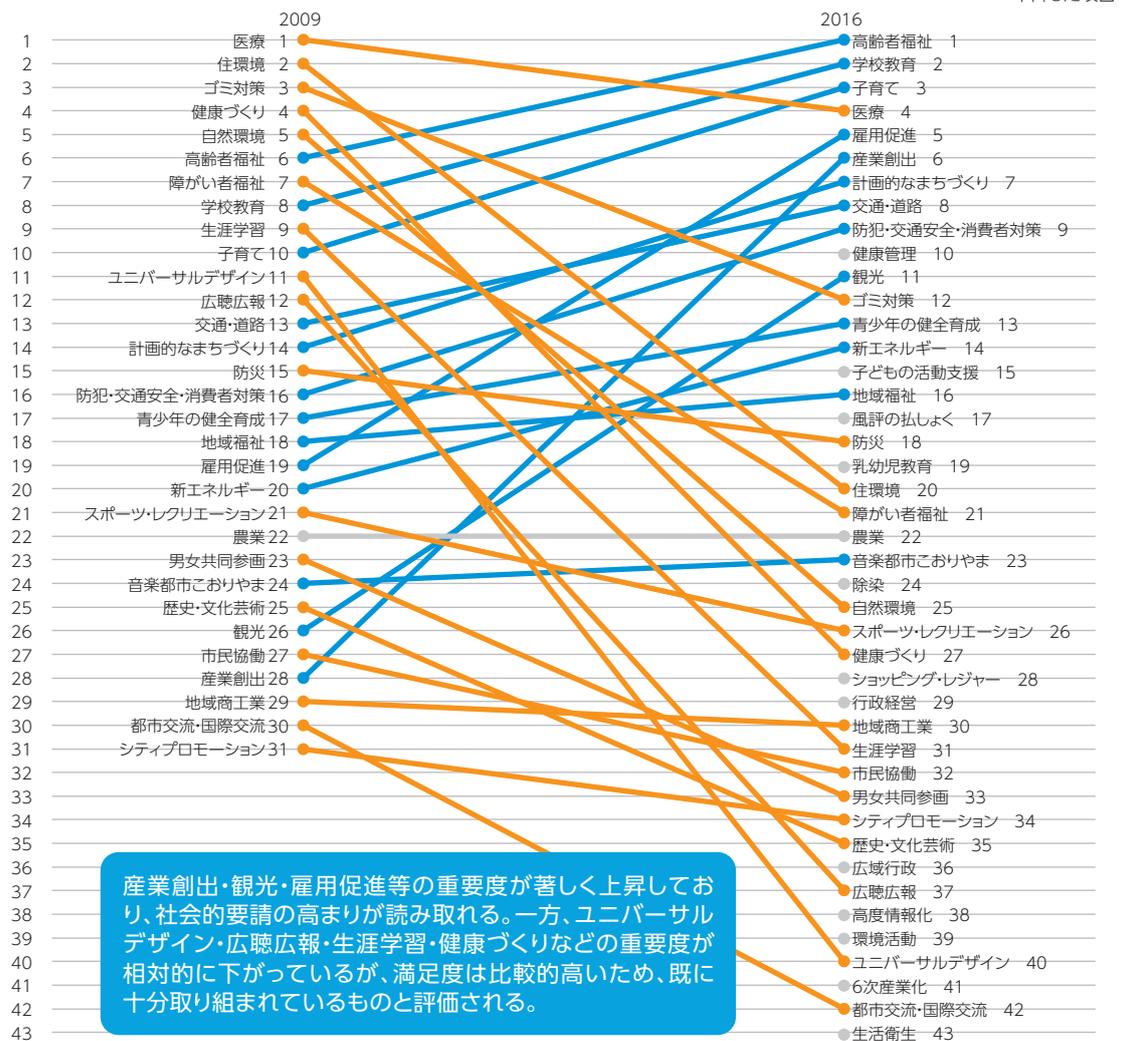
郡山市は住みやすいまちか？



郡山市に今後も住みたいか？



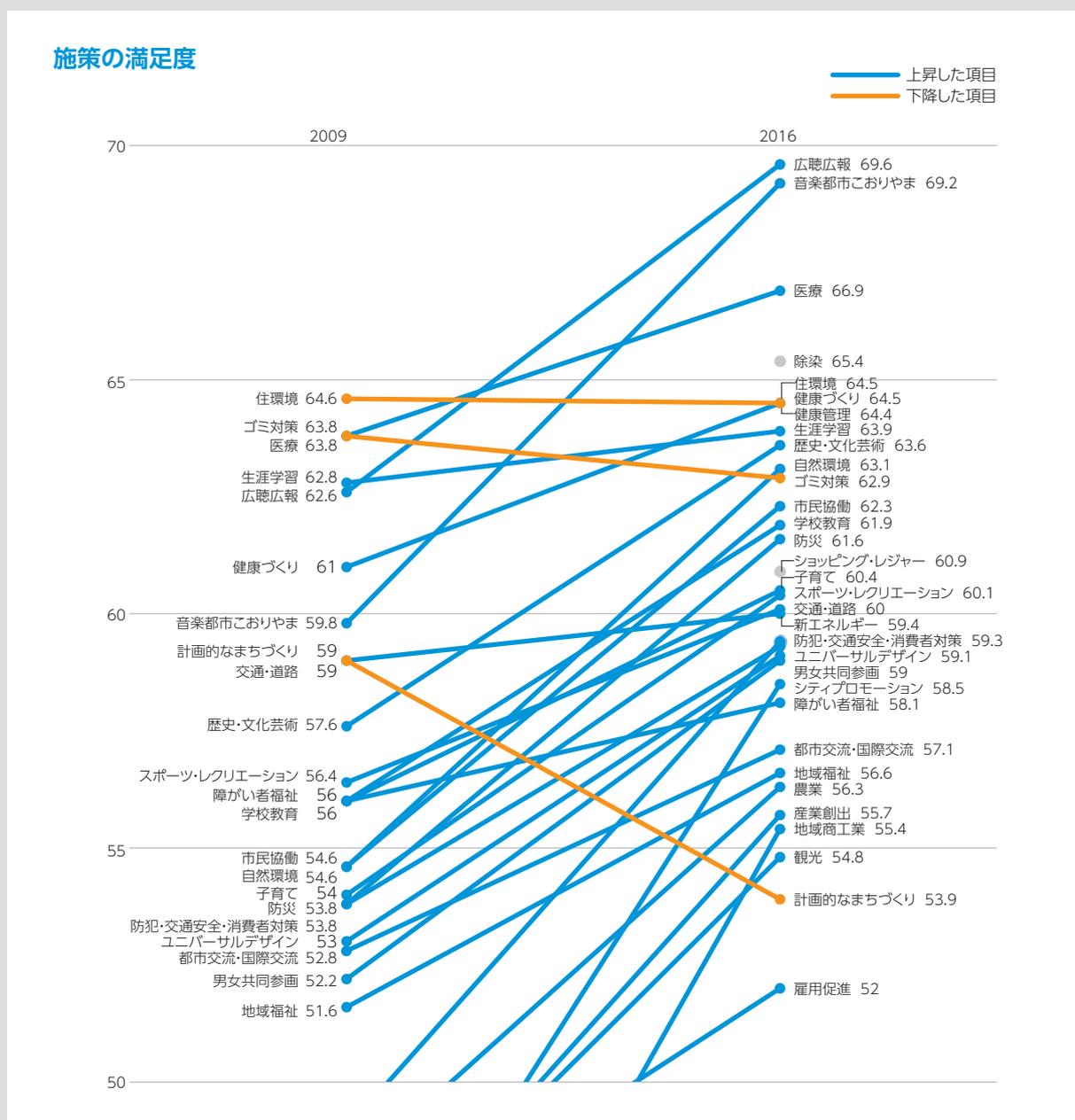
施策の重要度（優先順位）



2009 (平成21) 年度から本市が実施している市民意識調査によると、郡山市を「住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」と評価している市民は74%~76%程度でこの8年間ほぼ変化がありません。また、今後も郡山市に住みたいかという設問では、「ずっと住み続けたい」、「市内の別の地域に住みたい」を合わせたポイントも概ね66~70%程度で、こちらもこの8年間ほぼ増減がなく、郡山市にお住まいの皆さんからは比較的高い評価を維持していると思われます。

施策別の満足度調査については、8年前に「やや低い(30点~50点)」と評価されていた「地域商工業」「シテイセールス」「企業誘致」、「観光振興」、「農業振興」などが2016 (平成28) 年度の調査では「普通(50点~70点)」になるなど、産業・商工振興分野での評価が向上したほか、「雇用促進」、「産業創出」、「子育て」、「学校教育」の重要度が向上するなど、市民ニーズの変化も読み取ることができます。

## ■ 市民意識調査による郡山市の住みやすさ評価 (続き)



平成28年度 市民意識調査報告書

## エ 市の財政状況

本市の財政状況については、2015（平成27）年度の決算状況において、東洋経済新報社調査の都市データパック「財政健全度ランキング」で全791市中124位と評価されるなど、比較的良好な状態となっています。特に一般会計等が負担する借入金（地方債<sup>30</sup>）返済の比率を指標化し、資金繰りの状況を示す「実質公債費比率」や、将来に渡る地方公共団体の財政負担を示す「将来負担比率」が類似団体等と比較しても低い状態を保っており、計画的な地方債償還や、積極的な特定財源<sup>31</sup>活用の効果によるものと考えられます。

しかしながら、全国的な少子高齢化による労働力人口の減少と社会保障費の増大が進展するなか、国

としても経済・財政一体改革の推進を掲げているものの、少子高齢・人口減少社会という我が国の構造的課題の克服が前提となっており、特にその課題が顕著な地方において、これらの構造的な諸課題を解決し、将来にわたる成長力確保を目指すため、一層の地方創生、持続可能な地方財政基盤の構築が求められています。

2017（平成29）年度は、地方自治法が制定されてから70周年にあたる年であり、地方における自主的かつ先駆的な取り組みが地域経済・日本経済の再生につながるものと認識し、一層の財政健全化に努める必要があります。

項目	平成30年度	平成29年度
収得税交付金	9,100,000	568,432
交付税	65,197	2,682,380
重安全対策特別交付金	656,440	16,386,663
負担金及び手数料	2,689,653	23,038,958
国庫支出金	18,794,233	126,126
7県支出金	19,694,039	22,107
8財産収入	142,241	6,477,511
19寄附金	22,106	1,200,000
20繰入金	8,065,712	3,573,838
繰越金	1,200,000	8,945,600

## (2) 第五次総合計画の評価と検証

2008（平成20）年度から始まった「郡山市第五次総合計画」では、「人と環境のハーモニー 魅力あるまち郡山」を将来都市像に掲げ、8つの戦略行動プロジェクトなどにより各事業の推進を図ってきました。

新たな「郡山市まちづくり基本指針」策定にあたり、これまでの総合計画による施策推進を検証し、今後の

まちづくりに向けた現在の立ち位置を確認しました。

第五次総合計画に基づくこの10年間の施策推進のうち、特に、後期基本計画（2013（平成25）年度～2017（平成29）年度）においては、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故からの復興に向け、市民生活を第一に考えた新たな課題への対応に積極的に取り組む

30 地方債：都道府県、市町村などの普通地方公共団体が発行する公債。

31 特定財源：用途について制限が設けられる財源。国庫支出金など。

ため、新たな大綱を追加するなど、施策体系の見直しを図ってまいりました。また、少子高齢・人口減少社会の到来を向かえ、国を挙げて取り組む「地方創生」の動きにも迅速に対応するため、2016（平成28）年2月に定めた「郡山市人口ビジョン」及び「郡山市総合戦略」と併せた施策の推進を図るなど、社会情勢の変化も第五次総合計画の推進に影響を与えてきました。

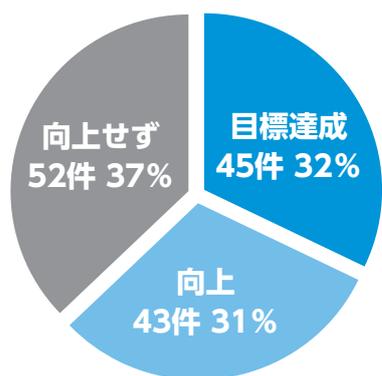
このような大きな環境の変化があった10年間ではありますが、前述のとおり、「市民意識調査」が始まった2009（平成21）年度以降、郡山市を「住みやすいまち」として評価している市民は概ね74～76%を堅持しており、市民の生活実感としては大きな変動は無いものと評価できます。

また、数値目標として各大綱の基本指標を定め、目標値に対する達成状況を評価しており、全140指標のうち約32%にあたる45指標が目標値を達成、目標は

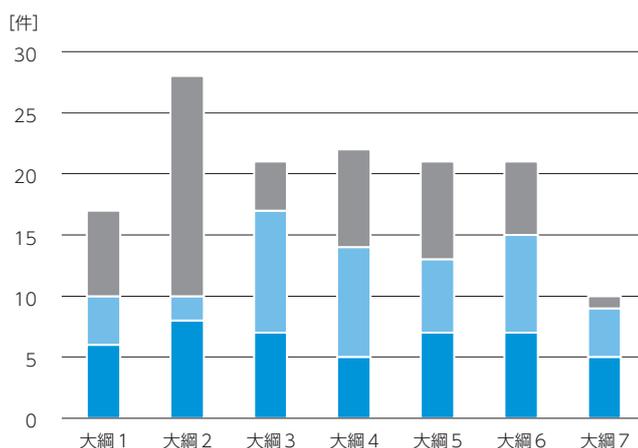
達成しないものの成果が向上した指標も含めると、全体の約63%にあたる88件の指標が第五次総合計画の開始時点である2006（平成18）年度と比べて向上するなど各分野での事業推進の成果がある程度見られたものと評価できます。しかしながら、少子高齢・人口減少社会の進展の影響もあり、各分野での市主催事業や商店街でのイベント等の参加者数に減少傾向が見られたほか、小売業・卸売業等の商品販売額といった本市の経済活動を示す指標や、ボランティア活動団体数、町内会加入率などコミュニティの結びつきを示す指標に減少傾向が見られるなど、今後の取組に向けた課題も見られました。

本基本指針の策定にあたっては、第五次総合計画の評価と検証も踏まえながら、本市の強みを生かした特色ある地域づくりを進め、市民満足度の向上のため更なる取り組みが求められています。

## ■ 第五次総合計画基本指標の進捗率



向上または  
目標達成した指標  
**約63%**



大綱3(子育て・福祉)、大綱6(インフラ・防災・市民安全)、大綱7(復旧復興)の指標において進捗率が特に高い。大綱2(教育・文化・スポーツ)については教育分野の進捗率は高い傾向が見られた。

第五次総合計画の評価と検証

## 2. 予見可能性の高い課題への対応 (将来の年表)

### (1) 予見可能性の高い課題への積極的対応

既に到来している少子高齢・人口減少社会を背景として、将来的に起こり得る予見可能性の高い課題が既に多く指摘されています。本基本指針の目標年度である2025年度にも、団塊の世代が全て75歳に達し医療費や社会保障費の急増が見込まれる、いわゆる「2025

年問題」が大きな課題となることが予想されており、その他にも、様々な将来課題が予測されています。そのため、これらの課題に対して今できることを考えるバックキャストの手法により様々な取り組みを打ち出すことが求められています。

#### ① 主に人口減少に起因する課題

※2017 (平成29) 年時点での見込みを記載しており、不確定の項目もあります。

年度	項目名
2018	18歳人口の急激な減少により大学の倒産件数が増加
2019	2019年度の5,307万世帯をピークに日本の総世帯数が減少局面に入る
2020	50歳以上の女性人口が49歳以下を上回り、出産可能な年齢人口が激減 東京都の人口がピークを迎え、全ての都道府県で人口減少局面に突入
2021	団塊ジュニア世代 <sup>32</sup> 高齢化による介護離職等に伴い企業の人材不足が深刻化
2022	独居高齢者世帯が増加し、全世帯の1/3超がひとり暮らし世帯となる
2023	団塊ジュニア世代が50代となり企業の人件費負担がピークとなる 空き家率が全国で21.1%程度に上昇
2024	死亡者数が年間150万人を超え、死亡者数が出生者数の倍になる
2025	2024年度までに団塊の世代 <sup>33</sup> が全て後期高齢者になり社会保障財政負担が増大

32 団塊ジュニア世代：1971 (昭和46) 年から1974 (昭和49) 年までに生まれた世代。第二次ベビーブーム世代とも呼ばれる。

33 団塊の世代：1947 (昭和22) 年から1949 (昭和24) 年に生まれた世代。

## ② 各省庁等が掲げる年次目標及び直接的な人口減少以外の課題など

※2017(平成29)年時点での見込みを記載しており、不確定の項目もあります。

年度	項目名
2018	国民健康保険財政運営を市町村から都道府県に移管[厚生労働省]
	国民投票の投票権年齢が「満18歳以上」に[総務省]
	学校休業日の分散等を目的とした「キッズウィーク」を設定[未来投資戦略]
	新幼稚園教育要領、新保育所保育指針、新幼保連携型認定こども園教育・保育要領施行[文部科学省] コメの生産調整(減反政策)廃止[農林水産省]
2019	消費税率10%に引き上げ[国税庁]
	下水道及び簡易水道事業を重点事業とした公営企業会計適用の推進[地方行政サービス改革の推進に関する留意事項]
2020	世界に先駆けた5G <sup>34</sup> の商用サービス開始[経済産業省]
	指導的地位の女性の割合30%目標[内閣府男女共同参画局]
	訪日外国人旅行者数4,000万人など観光ビジョンの目標[観光庁]
	公共データオープン化 <sup>35</sup> の集中取り組み期間終了[内閣官房]
	東京オリンピック・パラリンピック開催
	小学校新学習指導要領施行[文部科学省]
	大学入試制度改革[文部科学省]
	行政手続コスト2割削減目標[未来投資戦略]
復興庁の廃止[復興庁]	
2021	温室効果ガス排出量を2005年度比で3.8%削減[環境省]
	障がい者の地域生活支援拠点等を各市町村または各圏域に1件以上整備[厚生労働省]
2021	中学校新学習指導要領施行[文部科学省]
2022	高校新学習指導要領施行[文部科学省]
	PPP/PFI <sup>36</sup> 事業規模21兆円目標[未来投資戦略] ベンチャーキャピタル投資額対名目GDP比を2015年度比で倍増[未来投資戦略]
2023	コメ生産コスト2013年度比で4割削減目標[未来投資戦略]
	農業法人経営体数5万件目標[未来投資戦略]
2024	年金受給年齢の段階的引き上げ[厚生労働省]
2025	厚生年金支給開始年齢の引き上げ(男性) ※女性は2030年[厚生労働省]
	ICT <sup>37</sup> 等の活用により建設現場の生産性を2割向上[未来投資戦略]
	大学等への企業からの投資額をOECD諸国平均以上目標[未来投資戦略]
	水素ステーションを全国に320箇所程度整備[環境省]

34 5G:第5世代(次世代)の移動通信システム。IoT時代に対応した高速で遅延の少ない方式。

35 公共データオープン化:行政が有するビッグデータを二次利用可能なルールで公開すること。

36 PPP/PFI:公共サービスを提供する際、官民の連携により提供を担う手法。

37 ICT:情報処理や通信に関する技術、サービス等の総称。

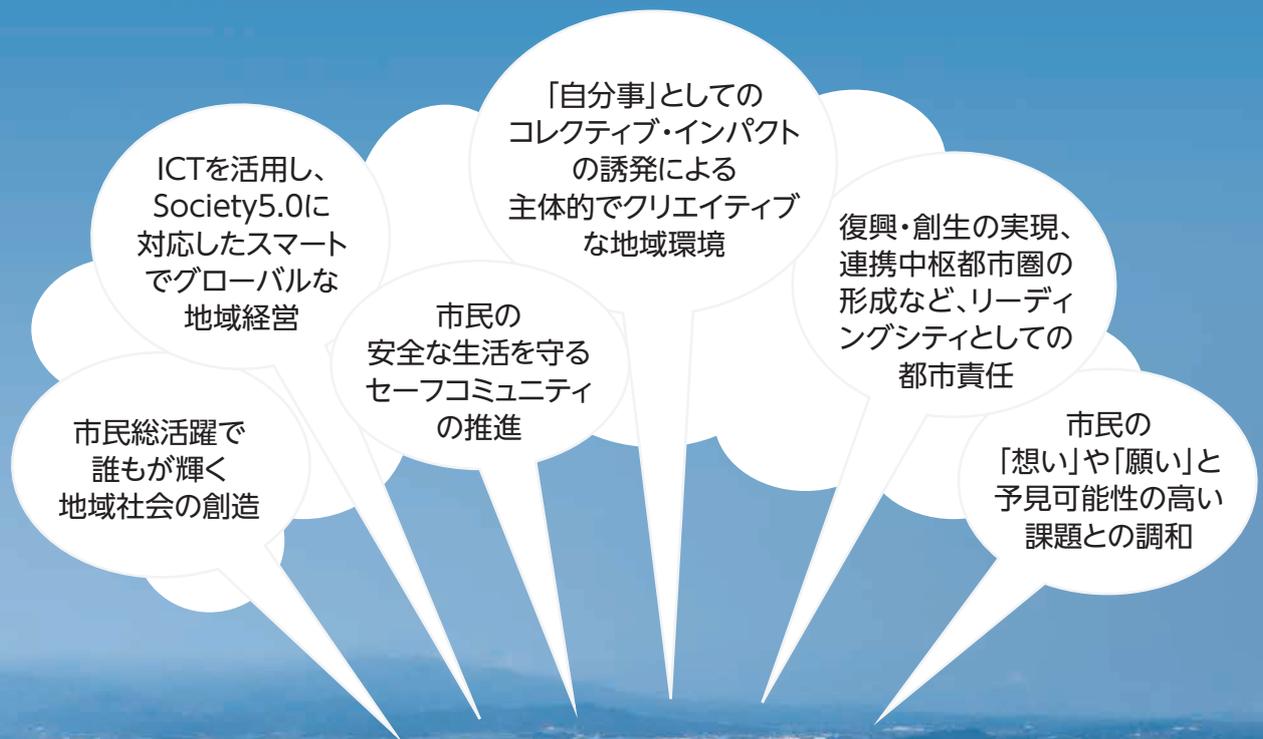


## 第2章

# ともに目指す未来

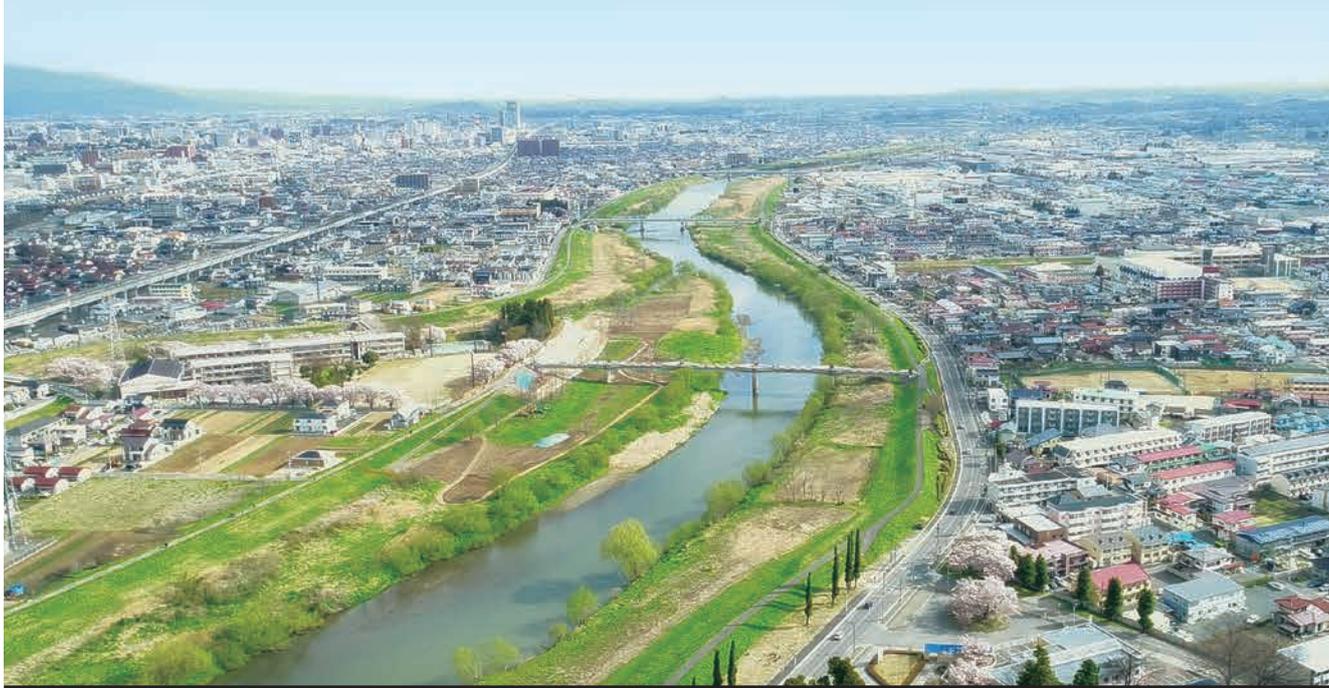
# 1. 将来都市構想策定のコンセプト

「共有」・「共感」・「共奏」で多様な 人とつながるまち  
 一人ひとりの「想い」や「願い」が 未来とつながるまち  
 「魅力」と「活力」で 世界とつながるまち  
 希望を紡ぎ 次の世代とつながるまち



## 2. 郡山市の目指す未来 (将来都市構想)

「みんなの想いや願いを結び、  
未来(あす)へとつながるまち 郡山」  
～課題解決先進都市 郡山～



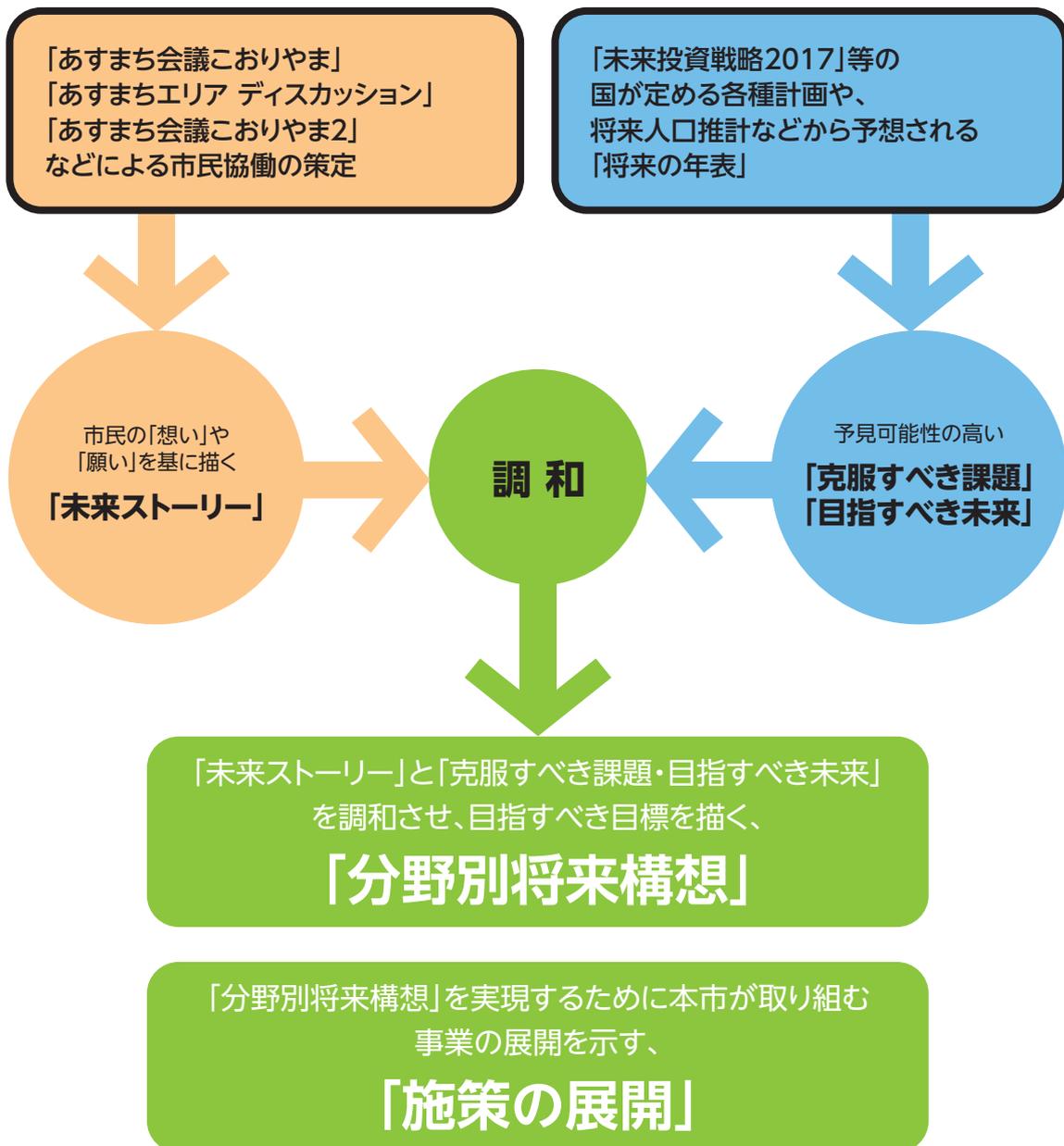
### 3. 未来実現に向けた分野別将来構想

将来都市構想「みんなの想いや願いを結び、未来(あす)へとつながるまち 郡山」の実現に向けて、各分野における具体的な取組項目と達成目標を定め、スピード感を持って取り組んでいきます。

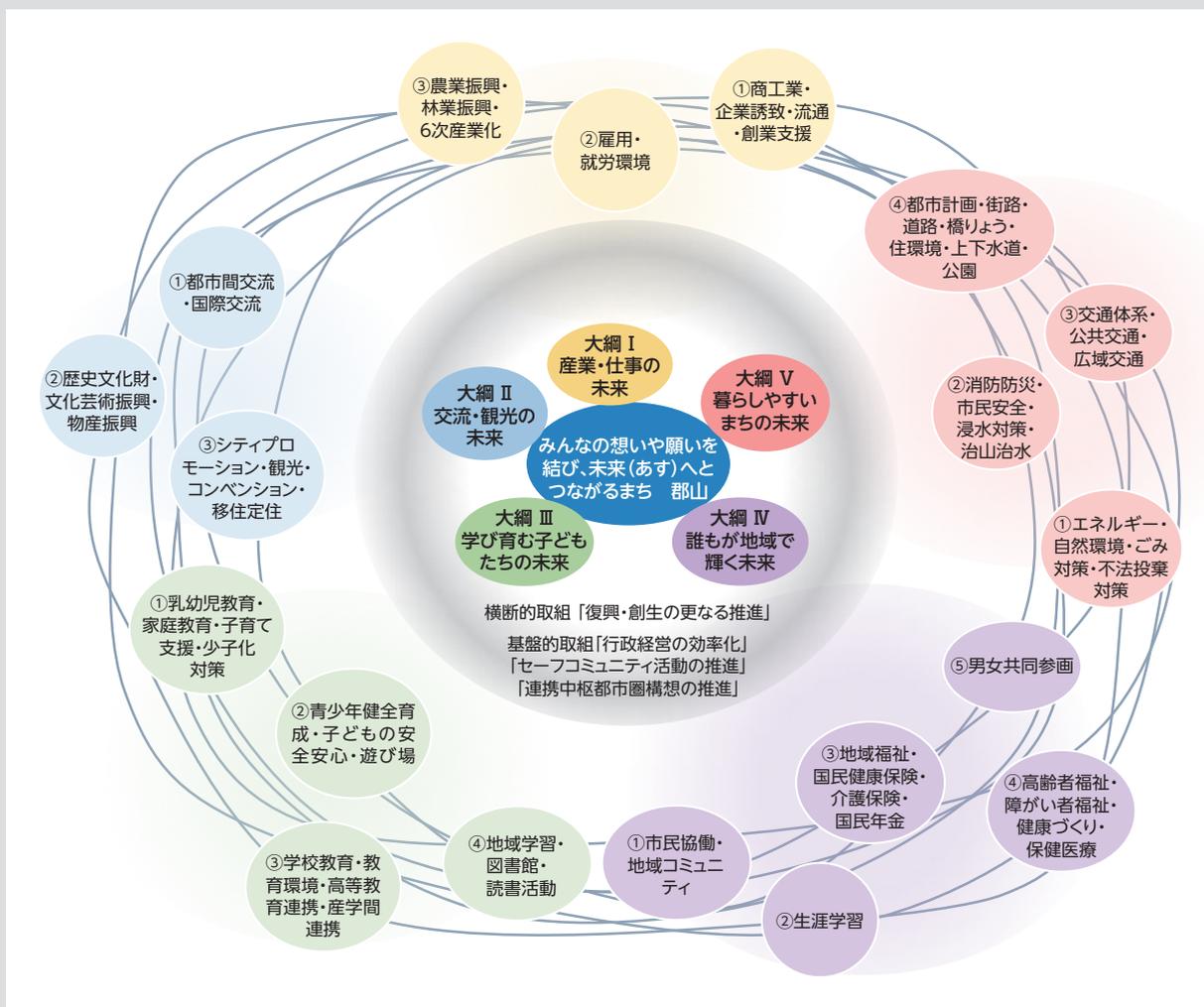
分野別将来構想については、2016(平成28)年度から2017(平成29)年度にかけて開催した市民会議「あ

すまち会議こおりやま」、「あすまち会議こおりやま2」での市民による話し合いをベースとしています。まさに「自分事」として思い描いた、8年後の郡山市のストーリー(未来ストーリー2025)と、市民生活の実感に直結した生きいきとした政策体系として整理しました。

#### ■ 分野別将来構想の構成



## ■ 施策体系全体図



将来都市構想を実現するため、5つの大綱と横断的取組・基盤的取組を整理し、分野別将来構想を定めました。

各分野は、それぞれ大綱で定める未来を実現する重要な要素であるとともに、大綱を越えて有機的に関連し合い、相乗効果を発現することで、効果的・効率的な将来都市構想実現を目指します。

### 郡山市の目指す未来(将来都市構想)



### 横断的取組：復興・創生の更なる推進

#### 基盤的取組

行政経営効率化(カイゼン、ICT・DG推進《スマート市役所》) セーフコミュニティ活動の推進、連携中枢都市圏構想の推進



## 第2章 ともに目指す未来

未来実現に向けた分野別将来構想

### 大綱 I

「産業・仕事の未来」

商業・工業・雇用・農林業分野



## 第2章-大綱 I

# 「産業・仕事の未来」

商業・工業・雇用・農林業分野

市民の「想い」や「願い」を基に描く **「未来ストーリー 2025」**



※未来ストーリー2025は「あすまち会議」で市民が描き、演じたストーリーです。

パソコンと工作好きの小学五年生「イチロー」。勉強はあまり得意ではないけれど学校の発明工夫コンテストでは何度も賞をもらっています。

夏休みに大好きな祖父の家に行き、祖父が手塩にかけて育てた大きなスイカを食べるのを毎年楽しみにしています。しかし、高齢と人手不足のためスイカ栽培をやめざるを得ないという話を聞き、イチローは自分の特技を生かして何とかできないかを考えようと思い、夏休みが終わり、学校の先生にも相談しながら考えた、高齢者や障がい者をサポートするロボットを、市が主催する「あすまちビジネスコンテスト 2025」に出展することを決めます。このビジネスコンテスト<sup>38</sup>は、年齢に関係なく市民であれば誰でも提案することができ、市内外の企業や金融機関とマッチングできる

イベントとして注目を集めていました。精一杯プレゼンするイチローのビジネスプランに大手IT企業が興味を示し、事業化に向けた支援と融資を決定、郡山市初の小学生社長が誕生することになります。

さらに、民間人材登用が一般的となった郡山市役所では、長年農業に携わってきたイチローの祖父もアドバイザーとして就任、イチローのアイデアは日本大学工学部との共同研究により製品化され、クールな農業として若手就農者の増加や食料需給問題解決の一助となります。

ビジネスコンテストで得られた市内外とのネットワークは、鯉料理の開発など、今後の産業振興にもどんどん発展していきそうです。

38 ビジネスコンテスト：参加者が新たなビジネスのモデルを考案し、その完成度などを競うコンテスト。新規事業創出や起業支援の一環として開催される。

## 産業・仕事の未来

## ● 克服すべき課題・目指すべき未来

国が示す「未来投資戦略」でも、ベンチャーキャピタル<sup>39</sup>への投資額対名目GDP比率を2015（平成27）年度比で倍増させるといった目標が掲げられており、少子高齢・人口減少社会という課題先進地である地方都市においてこそ、地域課題を解決し、さらにグローバルに事業展開し得る先進的な起業家育成・支援に注力する必要があります。そして、IoT<sup>40</sup>やAI<sup>41</sup>、ビッグデータ<sup>42</sup>等による第4次産業革命<sup>43</sup>のイノベーション<sup>44</sup>をあらゆる産業や社会生活に取り入れることで実現される、サイバー空間とフィジカル空間<sup>45</sup>が高度に融合した「Society5.0<sup>46</sup>」に対応し得る国際競争力のある魅力的な産業振興を図ることが本市においても課題となります。

加えて、人口減少に伴う地域全体の所得減少、消費額

減少により、本市の基幹産業である小売販売業の縮小にもつながることが懸念されています。

また、本市においても、高等教育課程への進学や就職を契機とした東京圏（東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県）への人材流出による生産年齢人口の更なる減少が大きな課題であり、本市で学び育った若者が、その知識を地域社会に還元するとともに、自己実現を果たすことができる魅力ある就業環境の整備が必要です。併せて、「働き方改革<sup>47</sup>」のもと、自立した個人が多様な価値観を持って自由に働く社会では、これまで以上に人材の流動化が進むことが予想され、広域的な人材還流のなかで存在感を発揮できる魅力ある雇用環境の充実を目指す必要があります。



39 ベンチャーキャピタル：未上場企業等に投資を行い、投資先企業の成長、価値向上を図るもの。

40 IoT：モノがインターネットにつながり、相互に制御する仕組み。

41 AI：人工知能。コンピュータ上で人間と同様の知能を実現させるための技術。

42 ビッグデータ：従来のソフト等では処理不可能なほど膨大なデータ。総務省では特に事業に役立つデータとしている。

43 第4次産業革命：インターネットやAIによる産業構造変革を目指すもの。

44 イノベーション：社会的意義のある新たな価値を生み出し、経済発展をもたらす社会変革。

45 サイバー空間とフィジカル空間：コンピュータやネットワーク内に広がるデータ領域と現実空間。

46 Society5.0：第4次産業革命を経て実現される超スマート社会。狩猟・農耕・工業・情報に続く新しい社会。

47 働き方改革：一億総活躍社会の実現に向け、誰もが納得できる働き方を実現するもの。

## ● 分野別将来構想

1. みんなが誇れる「郡山といえばこれ!」という産業があるまち
2. 楽しくてやりがいのある満足できる仕事のあるまち
3. 農林業が盛んで、市民の身近な産業となるまち



住民生活を支える多様な産業を未来に繋ぎ、一人ひとりのやる気と期待に応える地域産業・雇用環境の充実を目指します。

県内随一を誇る商業分野においては、ICTを活用しつつ、リアル（現実）店舗の強みを生かしたインターネット時代の商業振興を図ります。

そのため、国を挙げて取り組む「Society5.0」など、

新たな時代の到来に対応した、未来を生き抜く力を持つ産業育成及び人材育成に率先して取り組むとともに、そのトレンド<sup>48</sup>を本市の産業活性化に結びつけるため、地域社会全体での人材還流を引き起こすエコシステム<sup>49</sup>形成に挑戦するとともに、商業・工業・農林業などがバランスよく発展した本市の強みを生かし、積極的に対外的にその魅力を打ち出していきます。

48 トренд：次代の趨勢、潮流。

49 エコシステム：元々は「生態系」を示す言葉だが、比喩的に、社会経済が循環し、共存共栄していく仕組みを示す。

また、産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所や、ふくしま医療機器開発支援センターの立地を契機とした、再生可能エネルギー<sup>50</sup>分野や医療機器関連分野の集積が進展する本市産業の強みを、本市に立地する日本大学工学部や奥羽大学などの高等教育機関との産学官連携や、中小企業等の知的財産権利化及び活用により引き出し、市民が誇れる魅力ある産業づくりに官民一体となって取り組むとともに、豊かな水や自然環境、交通・物流の要衝として発展してきた本市産業の歴史と特性を市民一人ひとりが熟知し、「郡山といえばこれ!」という産業づくりを推進します。

併せて、本市産業の強みや地理的特性などの優位性を生かすとともに、新たな産業や人材を柔軟に受け入れる寛容さと未来志向の精神を持った郡山市民の気質を生かし、既存工業団地への産業集積や新たな受け皿である西部第一工業団地への外資系企業等も含む戦略的な企業誘致活動や海外の企業等との技術交流、製品の販路拡大に取り組み、本市経済の更なる活性化と外部からの人材還流も含めた魅力的な雇用の創出を図り、郡山で学んだ人、郡山で働きたい人が楽しくてやりがいのある、満足できる仕事をする事ができるまちを目指します。さらには、ICT、AIの発展により産業構造、就労

形態等にも大きな変化が訪れることが予想され、新たな技術や環境にも柔軟に対応し得る人材育成・産業育成にも積極的に取り組むとともに、健康寿命<sup>51</sup>の延伸により豊かな経験と幅広い知識を有する高齢者についても、その能力を社会に還元できるよう、生涯活躍のまちづくりを推進します。

農林水産業分野においては、安全・安心な食料の安定供給と消費拡大のため、関係機関・団体との連携を図り、様々な消費者ニーズに対応するとともに、食の安全など消費者の信頼確保に向けた情報発信に努めます。また、担い手の育成や農業経営の法人化・組織化の推進により農林水産業の持続的発展を図るとともに、農業者によるアグリテック<sup>52</sup>を活用した生産性の向上や生産コストの削減、農産物等の高品質化・高付加価値化及び6次産業化<sup>53</sup>を支援することにより、「稼げる農業」の確立を目指します。

さらに、農用地の有効活用や森林保全等を通じて農業・農村の有する多面的機能の維持に努めるとともに、福島大学や郡山女子大学など、地域の教育機関との連携を図り、農林水産業が市民にとって身近な産業となることを目指します。



50 再生可能エネルギー：太陽光、地熱、水力など自然界のサイクルにより循環補充されるエネルギー。  
 51 健康寿命：健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。  
 52 アグリテック：農業における課題をIoTやAIにより解決しようとする取り組み。  
 53 6次産業化：農業や水産業等の第一次産業が加工・流通への展開により付加価値を図るもの。

● 施策の展開

I 産業・仕事の未来

1 みんなが誇れる「郡山といえばこれ!」という産業があるまち  
(商工業振興・企業誘致・流通・起業支援)

「オール郡山」と呼べる産業や名産品がある

市民が市の産業や物産を熟知し、誇りを持つことができる

市民生活に寄り添った身近な商業が発展している

世界に通用する産業技術が発展・集積している

自己実現を果たすことのできる魅力ある企業がある

市民一人ひとりのアイデアを具体化できる機会がある

2 楽しくてやりがいのある満足できる仕事のあるまち  
(雇用・就労環境)

郡山で学んだ人、郡山で働きたい人が希望の仕事に就職できる

よりよい労働環境のもと、誰もが楽しく、気持ちよく仕事することができる

市民が誇りにできる地元産業が活性化している

新しい技術や社会の変化に対応できる人材育成が図られている

3 農林業が盛んで、市民の身近な産業となるまち  
(農業振興・林業振興・6次産業化)

農林業が快適で魅力的なものとなる

農林業の高付加価値化、効率化が図られている

若い農業従事者や後継者など次の世代の担い手が増える

日常生活や学校などで地域の農林業に親しむ機会がたくさんある



## 第2章 ともに目指す未来

### 未来実現に向けた分野別将来構想

#### 大綱 II

### 「交流・観光の未来」

交流・文化・観光・広聴広報・シティプロモーション分野



## 第2章-大綱Ⅱ

### 「交流・観光の未来」

交流・文化・観光・広聴広報・シティプロモーション分野

市民の「想い」や「願い」を基に描く 「未来ストーリー 2025」



※未来ストーリー2025は「あすまち会議」で市民が描き、演じたストーリーです。

JR郡山駅前で姉と買物をする5歳児「しおのすけ」。そこに、道に迷った外国人「アリー」が現われます。その日は「音楽のまち」として世界的に有名になった郡山市が開催する大規模な音楽フェスが開成山公園で開催され、国の内外から多くの人が集まってきていました。

二人は普段から学校などで、地域の歴史や郡山の観光振興に向けた取り組みを学んでおり、市民観光コンシェルジュとしての腕前を試そうと、アリーを開成山公園まで案内しながら、郡山市の観光について説明することにします。

街並みは沿道の店舗や市民たちの手によって季節の花々が咲き乱れ、また、街の雰囲気や歩行者の交通量などを感知して、イメージに合った音楽が流れるなど、気持ちよく街歩きができる環境が整備されていてアリーは驚き喜びます。2025年

には、郡山市はセーフコミュニティの取り組みも進み、日本一きれいで安全なまちになっています。

開成山公園に向かう途中には「しおのすけ」の祖母が働く地元スイーツの店があり、クリームボックスや郡山産食材を使った特産品を味わうことができます。開成山公園の周辺には安積疏水の歴史を伝える水路などがあり、観光検定を毎年受けている「しおのすけ」は、アリーに安積開拓の歴史や今も息づく安積疏水の恵みについて紹介します。

無事に開成山公園に着いたアリーは、楽しく歩いて移動できる美しい街並みや、子どもたちがまちの歴史や観光物産に詳しい市民観光コンシェルジュとして活躍するなど、おもてなしの心に満ち、また、市内外から文化が集まり交流するまちに発展した郡山市をSNSなどでさらにPRし、世界に発信していくのです。

## 交流・観光の未来

### ● 克服すべき課題・目指すべき未来

既に本格的な人口減少社会が到来している地方都市を中心に、海外からのインバウンド観光に活路を見出し、国の基幹産業へと成長させ、「観光先進国」となることを目指しています。そのためには、本市においても、豊富で多様な観光資源に誇りを持ち一層磨き上げ、その魅力や価値を国内外の皆さんに分かりやすく伝える必要があります。また、観光を中心とした国際競争力のある地域産業の育成や雇用の創出につなげるとともに、交通、宿泊、決済システムなどグローバルスタンダード<sup>54</sup>な受け入れ態勢への対応が早急に求められています。

また、国としても通訳案内士や旅行業を取り巻く制度

改革を進め、新たな民泊<sup>55</sup>ルールの整備、宿泊業の生産性向上に取り組むほか、海外の富裕層など新たなターゲットの開拓、ビザ緩和など訪日環境の充実を推進するとともに、地方に対しても2020年度までに世界水準のDMO<sup>56</sup>形成や観光地再生ファンド<sup>57</sup>など民間資金・民間活力を活用した「観光まちづくり」に取り組むものとしています。そのため、本市においても日本遺産などの強みを最大限に活用した戦略的な観光誘客と、地域の中核都市として広域交流の拠点としての役割が強く求められています。



54 グローバルスタンダード：世界標準。国際的に共通している理念やルール。

55 民泊：旅行者が一般の民家に対価を支払って宿泊すること。

56 DMO：デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション。地域との協働による観光振興法人。

57 観光地再生ファンド：観光産業の成長に向けた取り組みを支援するためのファンド。

## 分野別将来構想

1. 人が交流し、明るい声が聞こえるまち
2. 国内外に発信できる、自慢の地域資源があるまち
3. たくさんの人が「また来たい」、「住んでみたい」と思えるまち



地域の歴史と風土、そして人に育まれた豊かな地域資源を市民総ぐるみで守り育て、住む人にも訪れる人にも新たな感動を与え、多様な人が交流し、明るい声が聞こえるまちを目指します。

2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックを一つの大きな契機とした観光立国の推進に対応し、地域におけるプロスポーツや、日本遺産にも認定された安積疏水など豊かな歴史に根ざした本市の地域資源を活用した積極的なインバウンド観光への対応を推進し、民

間資金・民間活力を活用した「観光まちづくり」に取り組むものとします。

多様化・細分化する観光ニーズへの対応を官民連携で進めるとともに、本市単独ではなく、「連携中枢都市圏構想」の関係市町村などと連携した広域的な周遊ルートなど観光資源の魅力向上や、歴史や伝統文化、伝統産業を活用した滞在型コンテンツ<sup>58</sup>の開発に取り組むなど、全国に自慢できる地域資源を市民全体で共有し、福島県のリーディングシティとして地域の起爆剤

58 コンテンツ：いわゆる中身のこと

となるようなインバウンド観光の拠点整備を図ります。  
また、産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所や、ふくしま医療機器開発支援センターの立地を契機とした産業集積が進展する本市の強みを生かし、産業・医療・スポーツなど多様なコンベンション<sup>59</sup>の誘致、さらにはこれらを起点としたアフターコンベンション<sup>60</sup>にも積極的に取り組みます。

また、たくさんの方が「また来たい」、「住んでみたい」と思える地域を目指し、移住希望者にとっても訴求力の

高い、豊かな環境と人の魅力に一層磨きをかけていきます。

併せて、基本指針を市民とともに推進するため、市政情報の積極的な公開や広聴広報機能の更なる拡充を図るほか、地域資源コンテンツの性質やターゲットに応じた、分かりやすく、きめ細かなシティプロモーション<sup>61</sup>により、世界も視野に入れた積極的な本市の魅力発信に努めます。



59 コンベンション：企業の展示会や学会等の学術会議、国内外の研究者が集う国際会議等。

60 アフターコンベンション：コンベンション終了後の行事。個人的な観光等も含める。

61 シティプロモーション：地域のイメージを高め、知名度の向上や地域への愛着を醸成する手法。

## ● 施策の展開

## II 交流・観光の未来

### 1 人が交流し、明るい声が聞こえるまち (都市間交流・国際交流)

みんなが集まれる場所が様々な地域にある

様々な世代、地域の人と訪れる人との交流が盛んである

生きいきとしたまちの雰囲気がある

広域的で円滑な人の移動が可能であり、目的地に快適にアクセスできる

住む人や訪れる人にとって魅力的な街並みと人の生活がある

### 2 国内外に発信できる、自慢の地域資源があるまち (歴史・文化財・文化芸術振興・物産振興・地域の誇り)

まちの歴史や文化を市民がよく理解し、親しみを持っている

音楽のまちにふさわしい音にあふれたまちになる

子どもたちが、自分たちのまちに誇りと愛着を持つ

地域の食や農を生かした魅力ある産品がある

### 3 たくさんの人が「また来たい」、「住んでみたい」と思えるまち (シティプロモーション・観光・コンベンション・広域観光・移住促進)

期待した以上のちょっとした感動やおもてなしがある

各地域の資源を生かした、きれいで出かけたくなる観光地が増える

地域の産業等を生かした先進的なコンベンションが多く開催される

インバウンドにも対応した、市民やまちのおもてなしレベルが向上している

移住希望者にとって魅力的な人が暮らし、快適な環境が整っている

便利で安全、そして快適な広域交通の拠点となっている

多様な観光ニーズに対応し、近隣市町村と連携した広域的な観光戦略がある



## 第2章 ともに目指す未来

未来実現に向けた分野別将来構想

### 大綱 Ⅲ

「学び育む子どもたちの未来」

子育て・教育・地域学習分野



## 第2章-大綱Ⅲ

# 「学び育む子どもたちの未来」

子育て・教育・地域学習分野

市民の「想い」や「願い」を基に描く **「未来ストーリー 2025」**



※未来ストーリー2025は「あすまち会議」で市民が描き、演じたストーリーです。

大学進学と音楽の道、いずれの進路にも関心はあるが、それぞれに課題があり悩む女子高生「しずく」。目指す大学は学費が高額であり、地元で音楽を学ぼうにも専門的に教えてくれる人は不足していて、誰に相談すればいいかも分かりません。

ある日、開成山公園でバイオリンの練習をするおじいちゃんに出会い、進路に悩んでいる話をします。その時は何も答えることができなかつたおじいちゃんですが、数日後、市内のNPO法人が主催する「郡山の未来を創る交流会」に参加し、地域の若者が直面する課題として、その時に聞いた内容を参加者たちに話してみました。すると参加者の中から、市が最近設立した奨学基金の情報が出されるなど、具体的な支援に向けた議論が活発化します。基金に対して寄付を申し出る地元企業経営者や、若者に音楽などを教えるための民間人材バン

クの設定など、参加者たちが共同で支援をすることに。

後日、また開成山公園で再会した「しずく」とバイオリン弾きのおじいちゃん。奨学金制度の拡充が図られたことや、音楽を地元の人に教えてもらえるようになったことを喜び「しずく」に、実は自分も子どもたちにバイオリンを教えるようになったことを明かすおじいちゃん。

子どもたちがそれぞれの興味・関心を伸ばし、やりたいことを諦めることなく挑戦できるよう、社会全体で応援し、大人たちも自分の特技や学んできたことを社会や若者に還元できる、そんな「知」の好循環が2025年の郡山市では当たり前ものとなっています。

# 学び育む子どもたちの未来

## ●克服すべき課題・目指すべき未来

加速化するICT社会の進展とグローバル化は、我々の生活に、かつて想像することもできなかった利便性と多様性をもたらしていますが、その一方で、将来の変化を予測することが困難な時代を迎えているとも言えます。既に2011（平成23）年には、アメリカにおいて小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業時に今は存在していない職業に就くだろうと予測され、世界中に大きな衝撃を与えました。

また、少子化の波は、我が国の成長戦略にも多大な影響を与えており、これまでのように労働力人口を確保することで経済成長につなげることは不可能となっており、高度な教育により得られる一人ひとりの高い生産性により、労働力人口の減少を補わなければなりません。そのため、産業界においても、教育に対して「付加価値の高い人材」の育成を求めており、教育再生による経済成長を成し遂げるためには、基礎的な教養教育を基盤とした論理的思考力や課題解決能力を高めるとともに、早期のキャリア教育<sup>62</sup>、社会体験活動の充実により実社会におけるイノベーション創出やグローバル化を担う人材の育成が求められています。また、国の「働き

方改革」でも、「誰にでもチャンスのある教育環境の整備」として誰もが希望すれば進学できる環境を整えるものとしています。本市においても、学校教育へのタブレット端末活用や英語教育の早期導入など対応を進めていますが、今後も常に次の時代を見据えた教育の充実が課題となってきます。

子育て環境についても、将来的に生産年齢人口の減少が予測され、AIなどによる自動化やICTを活用した省力化は進んでいるものの、働きながら子育てをする世帯の負担が重くならないよう社会全体で支える体制が一層必要となります。厚生労働省でも、女性の継続就業率や男性の育児休業取得率の向上に向けて、希望する全ての方が子育て等をしながら安心して働くことができる社会の実現を目指しており、本市においても「郡山市人口ビジョン」で定める「子育て世代の社会移動率」及び「合計特殊出生率」の段階的改善に向けた率優先的な取り組みが求められています。特に、昼間人口が多く、近隣自治体からの雇用の受け皿ともなっている本市においては、広域的な雇用確保、子育て支援の観点からも子育てと仕事の両立は大きな課題となっています。



62 キャリア教育：学校教育において、職業観や職業に関する知識・技能を身に付け、主体的に進路選択する能力を育てる教育

## ● 分野別将来構想

1. 人と人がつながり、みんなで子どもたちを育むまち
2. 笑顔があふれ、未来への夢を育むまち
3. 一人ひとりの個性を伸ばし、すべての子どもが輝くまち
4. 子どもたちが学びたいことを楽しく学び、地域で活躍できるまち



地域の継続的発展の基盤である出生率を改善させ、希望と幸せに満ちた子育てを社会全体で支え合い、子どもたち一人ひとりの多様性と個性を未来に向かって羽ばたかせる子育て・教育環境の整備に取り組みます。

特に地方都市においては、生産年齢人口及び年少人口の減少が大きな課題となっており、本市においても、郡山市人口ビジョンに掲げる社会移動率及び合計特殊

出生率の改善に向けた取り組みにより、子どもを産みやすく育てやすいまちづくりを推進し、少子化・人口減少の歯止めとなることを目指します。また、子どもたちは、身近な人との触れ合いの中で、社会に求められるコミュニケーション能力や社会性などの豊かな人間性を育むことができます。そのため、家庭や地域が乳幼児教育や学校教育等と連携するとともに、郡山女子大学など

地域の教育機関とも協働しながら学び合い交流し、地域全体が「自分事」として子どもたちや子育て世代を支え、未来の郡山へ夢をつなげる子育て施策を推進する社会システムに参画する必要があります。

今後、子どもたちが、一層必要とされるイノベーション創出やグローバル化に対応し、地域社会の継続的発展を担うため、学校教育においても専門的な外部人材の活用に取り組む必要があります。また、一人ひとりの興味・関心や適性を大切にしたい、思い切り学べる環境整備に努めます。そのため、特に小・中・高等学校では、大学等

高等教育機関や企業、地域人材等とも連携しながら、ICTの活用等により、次代のニーズに応じた教育を推進します。また、「主体的・対話的で深い学び<sup>63</sup>」や「キャリア教育」の充実、乳幼児教育と学校教育との連携などにより、子どもたちが力強く生き抜く力を育みます。

子どもたちが、生まれ育った地域に誇りを持てるよう、安積開拓や安積疏水をはじめとした本市の歴史や、各地区に残る祭り・伝統芸能など地域の文化を学ぶ機会を充実させるため、地域人材の活用も積極的に推進します。



63 主体的・対話的で深い学び：子どもたちの興味や関心に応じ、他者との協働により課題発見・解決に至る学習。

● 施策の展開

Ⅲ 学び育む子どもたちの未来

1 人と人がつながり、みんなで子どもたちを育むまち  
(乳幼児教育・家庭教育・子育て支援・少子化対策)

子どもたちの未来を育む多様で充実した乳幼児教育ができる

家庭、地域、企業、そして子育て・教育機関が連携し、子育てや教育を学びあう

すべての人が安心して仕事と子育ての両立ができる

地域社会全体が安全・安心な環境で教育や子育てに関われる

子育て世代の仕事や収入が安定し、安心して結婚、出産ができる

2 笑顔があふれ、未来への夢を育むまち  
(青少年健全育成・子どもの安全・安心・遊び場)

子どもたちが地域で安心して元気に遊ぶことができる

明るい雰囲気のみちで、子どもたちが健全に伸び伸びと育っている

子どもたちが学校や地域で夢中になれるものを見つけることができる

3 一人ひとりの個性を伸ばし、すべての子どもが輝くまち  
(学校教育・教育環境・高等教育連携・産学官連携)

子どもたちが興味あることを自ら学び伸ばすことができる

子どもたちの個性を伸ばす質の高い学校教育が整っている

身近に高等教育機関との連携による高度な教育環境が整っている

地域人材等の活用により、社会全体でスポーツや芸術文化活動などの専門指導ができる

4 子どもたちが学びたいことを楽しく学び、地域で活躍できるまち  
(地域学習・図書館・読書活動)

子どもたちが学んだことを地域の課題解決に生かし活躍できる

地域の産業、生活・文化的環境、歴史、自然環境などを学べる場がある

子どもたちが地域への愛着や一体感を感じることができる



## 第2章 ともに目指す未来

### 未来実現に向けた分野別将来構想

#### 大綱 IV

## 「誰もが地域で輝く未来」

市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野



## 第2章-大綱Ⅳ

# 「誰もが地域で輝く未来」

市民協働・生涯学習・保健福祉・男女共同参画分野

市民の「想い」や「願い」を基に描く 「未来ストーリー2025」

# ソン大会



※未来ストーリー-2025は「あすまち会議」で市民が描き、演じたストーリーです。

ヨーク開成山スタジアムで高校野球が繰り広げられる暑い夏の日、体を動かすことが大好きで、毎日ウォーキングを楽しむおばあちゃん「みちこ」は、孫と一緒にスタジアムで一休みしています。

飛んできたファールボールで「みちこ」は軽い怪我をしますが、普段から運動をしているため、周囲の心配をものともしない健康ぶりでみんなを圧倒します。スタジアムに野球の応援に来ていた女子高生や、偶然居合わせた鍼灸師の青年たちは、その元気の秘密に興味津々です。「みちこ」はダイエットに興味のある女子高生や、普段から室内での仕事が多く、趣味も運動ではなく機械いじりだという鍼灸師の青年も半ば強引に誘い、2ヵ月後に郡山市主催で開催されるウォーキング大会に出ることを約束しました。

2ヵ月後、大会会場で再会した面々は、ウォーキングコースの整備や市民クラブの存在など、市民の健康促進に対する取り組みが思ったより充実している現状を知り、楽しく体力づくりに励んできた結果、全員が無事に完走しました。趣味の機械いじりを我慢してきたという青年ですが、運動だけではなく、それぞれの趣味や特技を生かした様々な市民講座が開催されており、講師として人に教えることもできるということを知り、あらゆる分野での生涯学習が盛んで市民が輝けるまちになっていることを実感しました。

市内各地で様々なスポーツイベントや文化活動が開催され、地域や世代を超えて人のつながりができ、老若男女がいつまでも健康で生きいきと暮らせる取り組みがどんどん広がっていきます。

## 誰もが地域で輝く未来

### ● 克服すべき課題・目指すべき未来

2016（平成28）年の日本人の平均寿命は男性が80.98歳、女性が87.14歳となっており、過去4年間にわたり記録が伸び続ける、世界でもトップクラスの長寿大国となっており、本市における平均寿命についても、2014（平成26）年時点で男性が80.16歳、女性が86.49歳と高齢化が進んでいる状況となっています。同時に、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間である「健康寿命」も伸び続けており、誰もが健康に過ごせる環境づくりが求められています。本市においても、高齢者の生きがいづくりと、雇用や地域での活躍の場を提供することが重要な課題となっています。

また、国が定める「健康日本21」では、健康寿命の延伸及び健康格差の縮小を目指し、メタボリックシンドローム<sup>64</sup>予防として、日常生活における運動習慣や食生活改善を提言しており、厚生労働省による「保健医療2035提言書」では、健やかな社会「健康先進国」の実現に向けて、日本の保健医療体制が世界の模範となることを目指しています。特に地方においては、医療体制の確保が大きな課題となっており、本市の医療体制においても、県中地域の医療拠点としての対策が求められているものの、医師・看護師はじめ医療従事者の確保が難しい状況が続いています。

一方、少子高齢化、人口減少の急激な進展により、年

金・医療費等の社会保障給付費が今後も継続的に増加することが見込まれており、社会保障・税一体改革による社会保障制度全般の見直しが不可避となっています。少子高齢化は財政規模の増大と税収の減、そして公債費の増大を引き起こしており、次の世代に過重な負担を先送りしない財政健全化のためにも、効率的かつ効果的な子育て支援、医療介護サービス、社会保険制度など一体的な制度改革が求められています。

既に人口減少が始まっているにも関わらず総世帯数は2019年度まで増加を続けるなど、世帯人員の減少は一人暮らし社会の本格的な到来を示しています。本市においても単身世帯及び二人世帯は増加傾向にあるものの、三人以上の世帯は減少傾向にあり、特に単身世帯のうち65歳以上の割合が大きく増加するなど、独居高齢者の増加は大きな社会問題となります。また、家族が社会の基本的な単位であるという前提が成立しなくなるということは、地域の共同社会にも大きな影響を与え、町内会活動など地域コミュニティの存続も危ぶまれる重要な課題となります。

また、国が推進する「働き方改革」を地方においても力強く推進するため、結婚や出産などを理由とした離職を抑制し、男女間の収入格差是正やDV<sup>65</sup>、パワーハラスメント<sup>66</sup>などの人権問題解消への取り組みも求められています。



64 メタボリックシンドローム：内臓脂肪型肥満に高血糖・高血圧・脂質異常症のうち2つ以上が一度に生じている状態。

65 DV：ドメスティックバイオレンス。配偶者などの間で起こる家庭内暴力。

66 パワーハラスメント：職場における権力を利用した嫌がらせ。パワハラ。

## ● 分野別将来構想

1. 市民生活に活気があり、地域で楽しく元気に暮らせるまち
2. 好きなこと、得意なことを地域で学び生かせるまち
3. 市民が互いに支えあい、一人ぼっちにならないまち
4. 誰もが健康で生きいきと暮らせるまち
5. 女性が元気で活躍できるまち



日常生活で人と人がつながりあい、生涯を通して誰もが住み慣れた地域で、健康で豊かに暮らせる生活環境の実現に取り組みます。

そのため、既存の地縁関係だけではなく、個人の趣味や趣向に基づく多様な人とのつながりを誰もが選択でき、それぞれの個性や事情に応じた多様な社会参加ができる柔軟で包摂的な地域の共助社会を構築します。

特に音楽などをはじめとする文化活動や、健康寿命延伸への効果も期待されるスポーツ・レクリエーション分野など、世代や地域にとらわれない緩やかなつながりの形成により、誰もが地域で楽しく元気に暮らせるまちを目指します。

また、高齢者や障がい者も住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる環境づくりを地域全体で

支援するとともに、地域の各関係機関が連携し、切れ目無く適切な支援サービスが一体的に提供できる体制整備を目指します。

そして、市民一人ひとりの多様性を認め合い、DVなどの暴力やパワーハラスメントなどによる人権問題解消にも積極的に取り組み、男女がともに活躍できる環境整備を推進します。また、好きなこと、得意なことを、生涯を通じて楽しむことができ、地域に貢献できる社会の

実現のため、地域全体の課題を他人事ではなく自分自身にとってのものとして捉え、全体の調和を目指す、「我が事・丸ごと」の考え方でともに支え合い、一人ひとりの人生を社会全体で支え合える医療福祉体制の構築、健康増進の取り組み等により、誰もが健康で生きいきと暮らせる「地域共生社会<sup>67</sup>」の構築を推進する必要があります。



67 地域共生社会：公的な福祉だけでなく、地域の多様な主体が「我が事」として参画し互いに支え合う社会。

## IV 誰もが地域で輝く未来

### 1 市民生活に活気があり、地域で楽しく元気に暮らせるまち (市民協働・地域コミュニティ)

一人ひとりの知識や経験、個性に応じた、多様な社会参加ができる

様々な世代、地域の人が交流する場所や機会がある

やりたいことを地域の仲間と交流しながら楽しめる

### 2 好きなこと、得意なことを地域で学び生かせるまち (生涯学習)

生涯を通じて、様々な音楽やスポーツを楽しめる環境がある

自己実現を促す集まりがたくさんあり、お互いに学び教えあうことができる

様々な文化・スポーツ活動を許容する自由な雰囲気がある

### 3 市民が互いに支えあい、一人ぼっちにならないまち (地域福祉・国民健康保険・介護保険・国民年金)

日常生活のなかで人とのつながりがあり、不安なく暮らすことができる

住み慣れたまちでずっと暮らすことができる

地域で支えあえる社会保障制度が構築されている

### 4 誰もが健康で生きいきと暮らせるまち (高齢者福祉・障がい者福祉・健康づくり・保健医療)

誰もが無理せず、お互いに支えあうことができる

お年寄りや障がい者、子どもに優しい文化が育まれている

健康づくりに必要な情報や活動が身近にあふれている

多様なニーズに適確に応えられる地域医療が整っている

### 5 女性が元気で活躍できるまち (男女共同参画)

女性リーダーを発掘、育成する体制がある

男女問わず参加できる学習機会やイベントがある

結婚や出産後も継続して就業できるなど、男女格差の是正が図られている

DVやパワーハラスメントなど人権問題の解消が図られている



## 第2章 ともに目指す未来

### 未来実現に向けた分野別将来構想

#### 大綱 V

### 「暮らしやすいまちの未来」

環境・防災・市民安全・生活インフラ分野



## 第2章-大綱V

# 「暮らしやすいまちの未来」

環境・防災・市民安全・生活インフラ分野

市民の「想い」や「願い」を基に描く **「未来ストーリー 2025」**



※未来ストーリー-2025は「あすまち会議」で市民が描き、演じたストーリーです。

JR郡山駅前にランニングシューズを買いに来た熱海町在住の85歳のおばあちゃん。買物も終わり、帰ろうとすると急に激しい雨が降ってきます。急いで屋根のある駅前バスターミナルに駆け込みますが、雷まで鳴り出し、公共交通機関の状況が心配です。空を見上げていると、孫が通う小学校に勤めるAETの先生と出会います。

災害情報や交通情報を知りたい二人は、市内各所に配置されている情報ロボット「ロボガクト」を見つけます。ロボガクトは行政や民間事業者、市民団体などが持つ、郡山市に関するあらゆる情報を提供しながら、道路の清掃活動や治安維持のための監視活動などもこなすマルチロボットです。二人が天候やバスの運行情報をロボガクトに尋ねると、もうすぐ雨はやみ、目的地行きのバスも多少の遅れはあるものの、あと10分ほどで到着すると回答します。しばらくすると雨

もやみ、別の場所で雨宿りをしていたおばあちゃんの子と孫も合流します。ゴミを捨てようとゴミ箱を探すと、素早くロボガクトが回収し、さりげなく郡山がリサイクル率全国1位の環境先進都市であることをアピールします。他にも、市内のイベント情報やサークル活動情報など市民が必要な情報がいつでも手に入ります。

バスも到着し、家路へと向かう一行ですが、息子と孫がバスに乗ろうとすると、おばあちゃんは新しいランニングシューズで熱海町の自宅まで走って帰ると言い出します。郡山市は超高齢化社会の到来に備え、段差が無く、歩行者に優しい道路整備を市内全域で進めてきました。その結果、2025年には、市内全域がマラソンやサイクリングに適した、歩行者や環境に優しいまちとして、世界的なマラソン大会も開催されるなど、移動しやすく、災害にも強いまちになっているのです。

## 暮らしやすいまちの未来

## ● 克服すべき課題・目指すべき未来

我が国においては、人口減少社会の到来により、これまでの人口増加、都市圏拡大を前提とした人口フレーム方式<sup>68</sup>の見直しが求められ、2014（平成26）年の都市再生特別措置法及び地域公共交通活性化再生法の一部改正により、既存の交通・都市フレームを見直し、集約型都市構造<sup>69</sup>への移行、拠点間を公共交通ネットワークで結ぶコンパクトシティ・プラス・ネットワーク<sup>70</sup>の実現等、新たなまちづくりに向けた検討が全国的な潮流となっています。広い市域を持ち、近隣市町村も含めた地域の拠点都市である本市についても、各地域の文化や歴史を守り、そこに住む市民の生活を支えるため、コンパクトシティ・プラス・ネットワークへの取り組みが課題となります。

また、従来の日常生活圏である「集落生活圏<sup>71</sup>」を維持し、将来にわたり地域住民が暮らし続けることができるよう、「小さな拠点<sup>72</sup>」の形成も重要な取り組みとなってきます。将来的には2019年を境に全国の世帯数が減少し、2033年には3戸に1戸が空き家となることが予想されるなど、都市部においても空地、空き家問題が顕在

化することが予測されています。本市においても、空き家バンクとの連携などにより、安全・安心なまちづくりに取り組むことが課題となっています。

国土交通省の「国土のグランドデザイン2050<sup>73</sup>」においても、2033年には国土交通省が所管する全国の老朽化したインフラの維持管理経費が現在の約4兆円から最大6兆円に増加するなど、現在と同規模の都市を支えることは財政的にもほぼ不可能となる見込みが示されています。

また、地球温暖化の進行や生物多様性の危機など、地球環境問題はさらに深刻な状況であり、CO2削減に資する様々な取り組みを積極的に展開するとともに、食料・エネルギーの地産地消により自給可能な循環型社会<sup>74</sup>の構築が求められています。本市においても、東日本大震災、福島第一原子力発電所事故を契機に、安全なエネルギーに対する関心は高まっており、行政の率先的な事業推進はもとより、企業や市民生活への更なる普及啓発が課題となります。



68 人口フレーム方式：市街化区域面積の設定において人口、世帯数や産業活動の将来見通しを根拠とする方式。

69 集約型都市構造：市街地の無秩序な拡大を抑制し、公共交通と連携した生活サービス機能を集積させる都市構造。

70 コンパクトシティ・プラス・ネットワーク：地域の生活機能を確認し、地域公共交通と連携したコンパクトなまちづくり。

71 集落生活圏：一体的な日常生活圏を構成していると認められる集落及びその周辺地域。

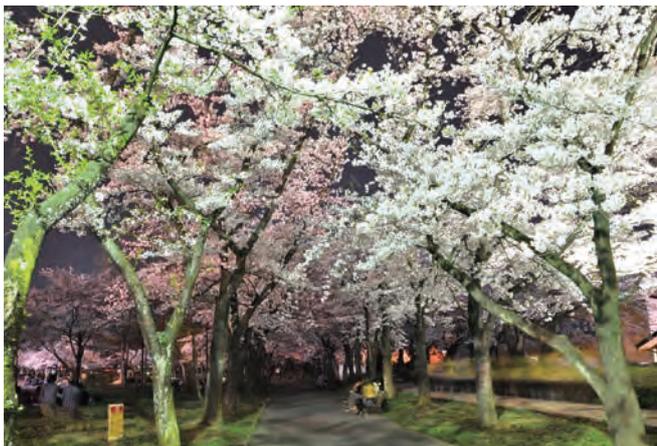
72 小さな拠点：複数の集落が散在する地域で、生活機能を歩いて動ける範囲に集めた拠点。

73 国土のグランドデザイン2050：国土交通省が定める2050年度を目標とした国土作りの理念等を示すもの。

74 循環型社会：製品等の廃棄抑制、適正な循環的利用等により資源の消費を抑制し環境負荷低減が図られている社会。

## ● 分野別将来構想

1. 環境にやさしく自然豊かな、住んでいてよかったなと思えるまち
2. 誰もが安心して快適に暮らせるまち
3. すべての人が安心して円滑に移動できるまち
4. 豊かなまちなみがあり、誇りと魅力あふれるまち



将来の人口フレームや社会構造変化を見据え、多様なライフスタイルに対応した自由で利便性が高く、安全・安心で清潔な生活環境を守ります。

そのため、地方中核都市として、また東北地方の物流・交通の玄関口及び結節点として、高速交通網及び域内外を結ぶ道路網の整備や農地、商用地、工業用地、

住宅等の均衡ある都市整備により発展してきた本市においても、産業発展を下支えする都市機能の維持と、少子高齢社会に対応した道路環境の整備や公共交通ネットワークの構築など効率的で暮らしやすいまちづくりの両立を目指します。そして、日本遺産としても認定された安積開拓の歴史や、全国に誇る音楽によるまちづくり

など、本市独自の文化を守り育む「品格」ある街並みの形成を推進します。

併せて、少子化の進展に対応した快適で持続可能な住環境・生活環境のため、積極的な空き家対策に取り組むとともに、コンパクトシティ・プラス・ネットワークにも対応した経済的にも環境的にも負荷の低いまちづくりを推進します。

また、誰もが安心して快適に暮らすため、ユニバーサルデザインを推進するとともに、自然災害をはじめとした防災体制の整備や交通事故、犯罪抑止など市民総く

るみで地域の安全・安心に対する意識を高め、セーフコミュニティ活動の更なる推進を図ります。

そして、市民の暮らしに直結した大気・水等の環境監視やごみの減量化、資源循環に取り組むとともに、省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの積極的な導入を図るなど、低炭素で環境にやさしい持続可能な社会の構築を推し進めながら、多くの地域住民が誇りとする豊かな四季に囲まれた自然環境や、利便性と快適性を両立させた都市環境など、高品質で満足度の高い生活環境の確保に努めます。



● 施策の展開

V 暮らしやすいまちの未来

1 環境にやさしく自然豊かな、住んでいてよかったなと思えるまち  
(エネルギー・生活環境・自然環境・ごみ対策・不法投棄対策)

資源が循環する低炭素で持続可能なまちづくりに取り組んでいる

再生可能エネルギー、新エネルギー<sup>75</sup>を積極的に取り入れている

多様な動植物が生息できる自然環境が残っている

きれいで清々しい水や空気が守られている

まちと自然が共存し、環境を思いやる人がたくさんいる

2 誰もが安心して快適に暮らせるまち  
(消防・防災・市民安全・浸水対策・治山治水)

自然災害に強く防災体制が整っている

治安が良く犯罪防止に向けた市民の助け合いがある

市民誰もがセーフコミュニティ活動に取り組んでいる

ユニバーサルデザインに配慮された、身近な暮らしの環境が整っている

3 すべての人が安心して円滑に移動できるまち  
(交通体系・公共交通・広域交通)

地域に人が集まる場所があり自由に行き来できる

歩行者や自転車も含め、事故防止に向けてハード・ソフト両面で取り組んでいる

市民のニーズに応じた買物や通勤など交通の利便性が高い

4 豊かなまちなみがあり、誇りと魅力あふれるまち  
(都市計画・街路道路橋りょう・住環境・上下水道・公園)

郡山市のシンボルとなる「まちの顔」があり、活気があり人が集まっている

魅力的な景色や街並みが日常的にある

散歩したくなる安全で快適な道路や公園がある

中心市街地も周辺部もそれぞれ特色を生かして栄えている

75 新エネルギー：新エネルギー法に定められる、バイオマス、太陽熱、雪氷熱利用エネルギーなど。

# 横断的取組

## 復興・創生の更なる推進

### 【取組方針】

分野横断的な取り組みとして、東日本大震災からの復興及び原子力災害からの生活環境の回復を継続的に推進し、市民や避難者の生活や生業の再生、除染により生じた除去土壌等の中間貯蔵施設への輸送を計画的に推進します。併せて、市内の空間放射線量率の定期的な測定、内部被ばく検査や食品検査等、放射性物質に関する徹底した情報収集を図るとともに、「除染情報ステーション」などを利用した積極的な情報発信に努め、市民の不安解消を図ります。

また、農畜産物等や観光業をはじめとした本市産業への風評払しょくにも、引き続き、県及び近隣市町村等とも連携しながら取り組むとともに、本市に集積する医療機器関連産業などの強みを最大限に活かした競争力の高い産業の誘致・育成や、鯉などをはじめとした地域の独自性を生かし、産品の高付加価値化を図るなど、復興の先を見据えた先駆的な地方創生の取り組みを一層推進します。

### 【取組の展開】

- 除去土壌等の計画的な輸送に取り組めます。
- 放射線に関する徹底した情報収集と積極的な情報発信を図ります。
- 県や近隣市町村とも連携した本市産業への風評払しょくに取り組めます。
- 地域の強みを生かした先駆的な復興・創生の取り組みを推進します。







## 第3章

# 市民が描く市民のための基本指針

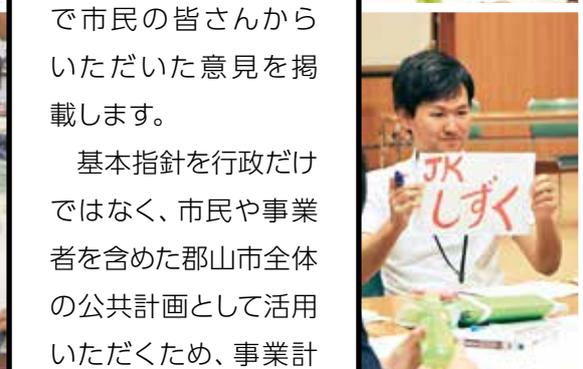
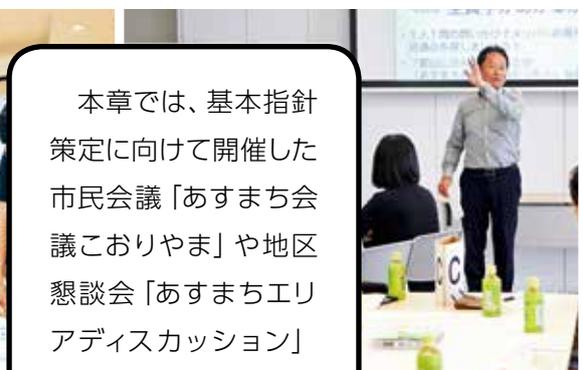
### 第3章

## 市民が描く市民のための基本指針



本章では、基本指針策定に向けて開催した市民会議「あすまち会議こおりやま」や地区懇談会「あすまちエリアディスカッション」で市民の皆さんからいただいた意見を掲載します。

基本指針を行政だけではなく、市民や事業者を含めた郡山市全体の公共計画として活用いただくため、事業計画や地域活動を進めるうえでのヒントとしてご活用ください。



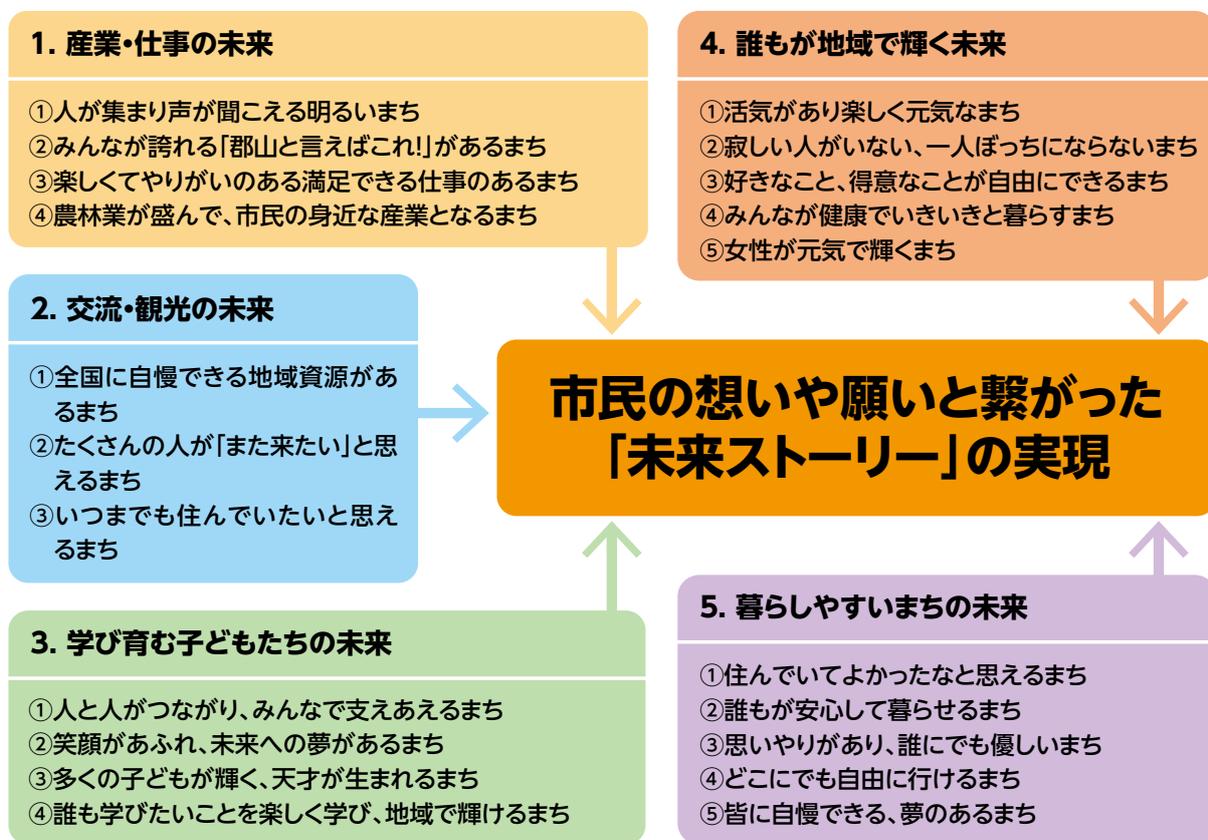
# 1.あすまち会議でのループ図、マイ・プロジェクト一覧

## (1) あすまち会議こおりやまで市民が描いた分野別ループ図及び意見一覧

ループ図とは、多くの要素が複雑に絡み合う現実を、原因と結果、さらにはその因果関係に着目し整理分析する手法であり、要素間のつながりを紐解くことで最終的な目的に至る道筋を論理的に整理するとともに、課題解決のポイントとなるレバレッジ・ポイント（作用点）や、目標達成のために今やるべきことを見つけ出すこと

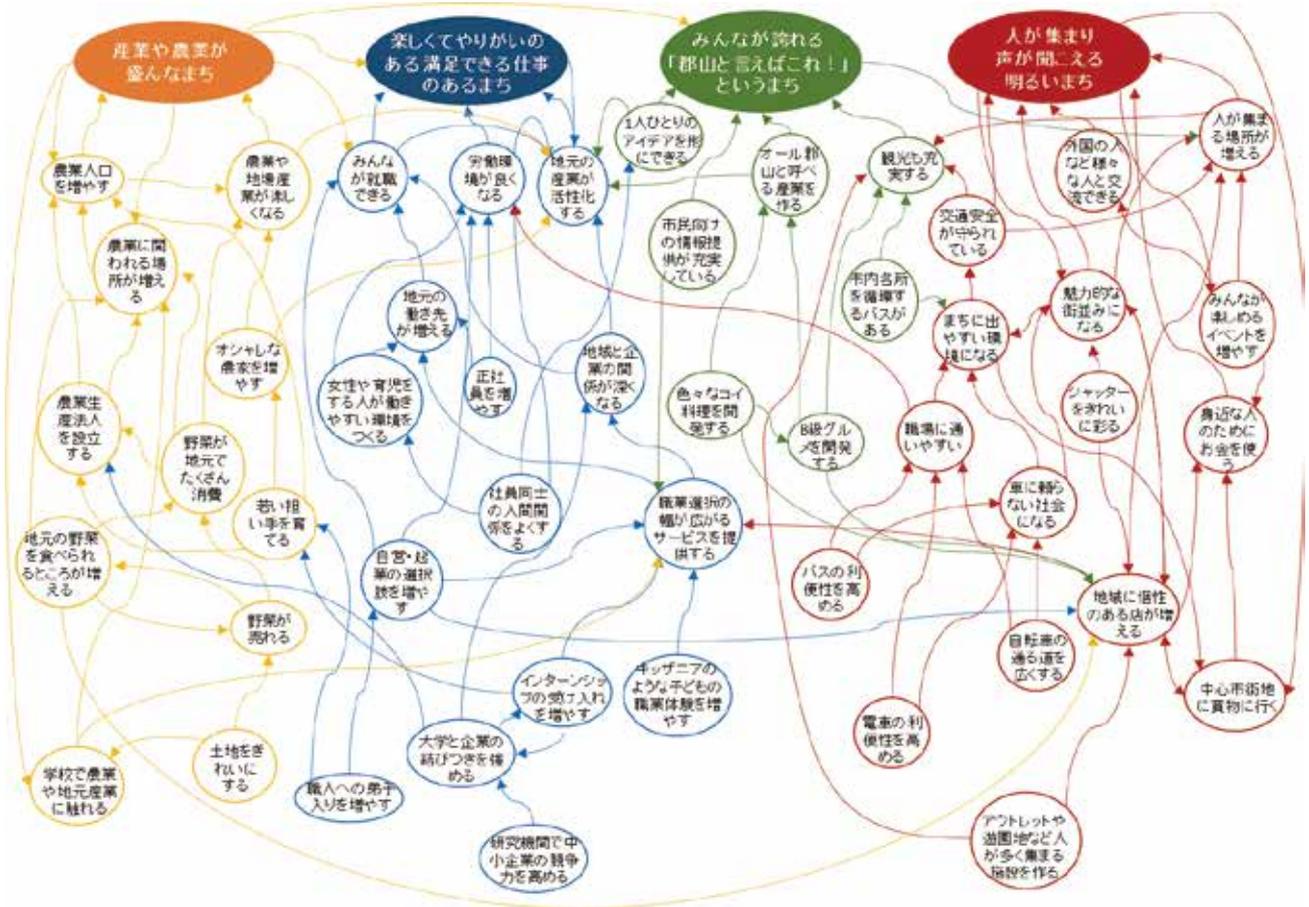
ができる手法です。

今回は各分野での「理想の将来構想」をはじめに話し合い、そこからバックキャストするかたちでループ図を作成しました。新しい「郡山市まちづくり基本指針」では、このループ図を政策体系として整理しています。



※本章で示すループ図及び意見一覧は市民からいただいた意見であり、基本指針本編で政策体系として整理した表現とは一部、文言や位置付けが異なりますが、参加者の生のご意見を尊重するため、原文のまま掲載しています。

# I 産業・仕事の未来



## 1 人が集まり、声がかえる明るいまち

みんなが集まる場所が様々な地域にある  
 様々な世代、地域の人と交流する機会がある  
 交通などまちの安全が守られている  
 住む人や訪れる人にとって魅力的な街並みがある  
 まちに出て行きやすい環境が整っている  
 みんなが楽しめるイベントがたくさんある  
 身近な人のために地元でお金を使う

中心市街地に買物に行く人が多い  
 シャッターをきれいに彩るなどまちがきれい  
 地域に個性のあるお店が増える  
 自家用車に頼らなくても行きたい場所に行ける  
 バスや電車の利便性が高まり職場にも通いやすくなる  
 自転車の通る道を広げて安全にする

## 2 みんなが誇れる「郡山といえばこれ!」という産業があるまち

オール郡山と呼べる産業や名物がある  
 市民が市の産業や物産を熟知している  
 市民一人ひとりのアイデアを具体化できる機会がある

充実した観光資源があり楽しい場所がたくさんある  
 市内各所を循環するバスがある  
 コイ料理やB級グルメなど地元の味がある

### 3 楽しくてやりがいのある満足できる仕事のあるまち

郡山で学んだ人が希望の仕事に就職できる  
よりよい労働環境のもと、  
誰もが気持ちよく仕事することができる  
市民が誇りに出来る地元産業が楽しく活性化する  
地元にも多様な働き先がある  
女性や育児をする人が働きやすい環境をつくる  
社員同士の人間関係をよくする  
一人ひとりのアイデアを形にできる (再)  
オール郡山と呼べる産業や名物をつくる (再)

地域と企業の関係性を深くする  
大学と企業の結びつきを強める  
自営・起業の選択肢を増やす  
インターンシップ<sup>78</sup>の地元企業受け入れを増やす  
職業選択の幅が広がるサービスを提供する  
子どもが職業体験をする機会を増やす  
研究機関で中小企業の競争力を高める  
地場産業を担う職人への弟子入りを増やす

### 4 農林業が盛んで、市民の身近な産業となるまち

農林業が快適で楽しいものとなる  
若い農業従事者や後継者が増える  
日常生活や学校などで農林業に触れる機会がある  
農業に関われる場所が増える  
オシャレな農家を増やす  
若い農業や産業の担い手を育てる  
農地所有適格法人<sup>79</sup>設立をサポートする  
地元の野菜を食べられるところが増える  
野菜が地元でたくさん消費される

学校で農業や地元産業に触れる機会が増える  
きれいな土地にする  
地場産業を担う職人への弟子入りを増やす (再)  
大学と企業との結びつきを強める (再)  
インターンシップの地元企業受け入れを増やす (再)



市民の皆さんの  
お一人おひとり  
のご意見

78 インターンシップ：特定の職の経験を積むため、企業や組織において労働に従事させる制度。

79 農地所有適格法人：農地法で規定された農地に関する権利の取得が可能な法人。



## 2 たくさんの人が「また来たい」と思えるまち

期待した以上のちょっとした感動がある(再)  
 各地域の資源を生かした観光地が増える  
 市民やまちのおもてなしレベルが向上する  
 便利で安全なまちなかの交通が整備されている  
 近隣市町村と連携した観光戦略がある  
 都会的な雰囲気のみちになる  
 まちなかのアーケードに人が集まる  
 各地で色々な分野のイベントが開催されている(再)  
 観光情報をどこでも調べられる  
 名物を食べられるところがたくさんある  
 観光地マップをつくる  
 祭りに愛着を持ち人が集まる  
 磐梯熱海が活性化している

ドラマやアニメの聖地になる(再)  
 有名人に訪問してもらう  
 映画のロケ地に誘致する  
 うねめまつりに市民みんなが参加し盛り上がる  
 伝統文化を大切にしている  
 SNSを使って情報収集と発信をする  
 出店などでも特産品が食べられる  
 地元の美味しい食べ物がある  
 郡山のよさを生かした特産品を作る  
 点在する観光地を結ぶ  
 水の美味しさをアピールする  
 放置自転車をなくすなどまちの美化を図る  
 観光地を巡るバスを走らせる

## 3 いつまでも住んでいたいと思えるまち

自然と共存した美しい環境になる  
 きれいで出掛けたくなる街並みが整備されている  
 大人が毎日楽しく生きいきと生活している  
 色々なアクティビティ<sup>80</sup>が充実している  
 まちに季節の花々が咲いている  
 駅前が楽しい

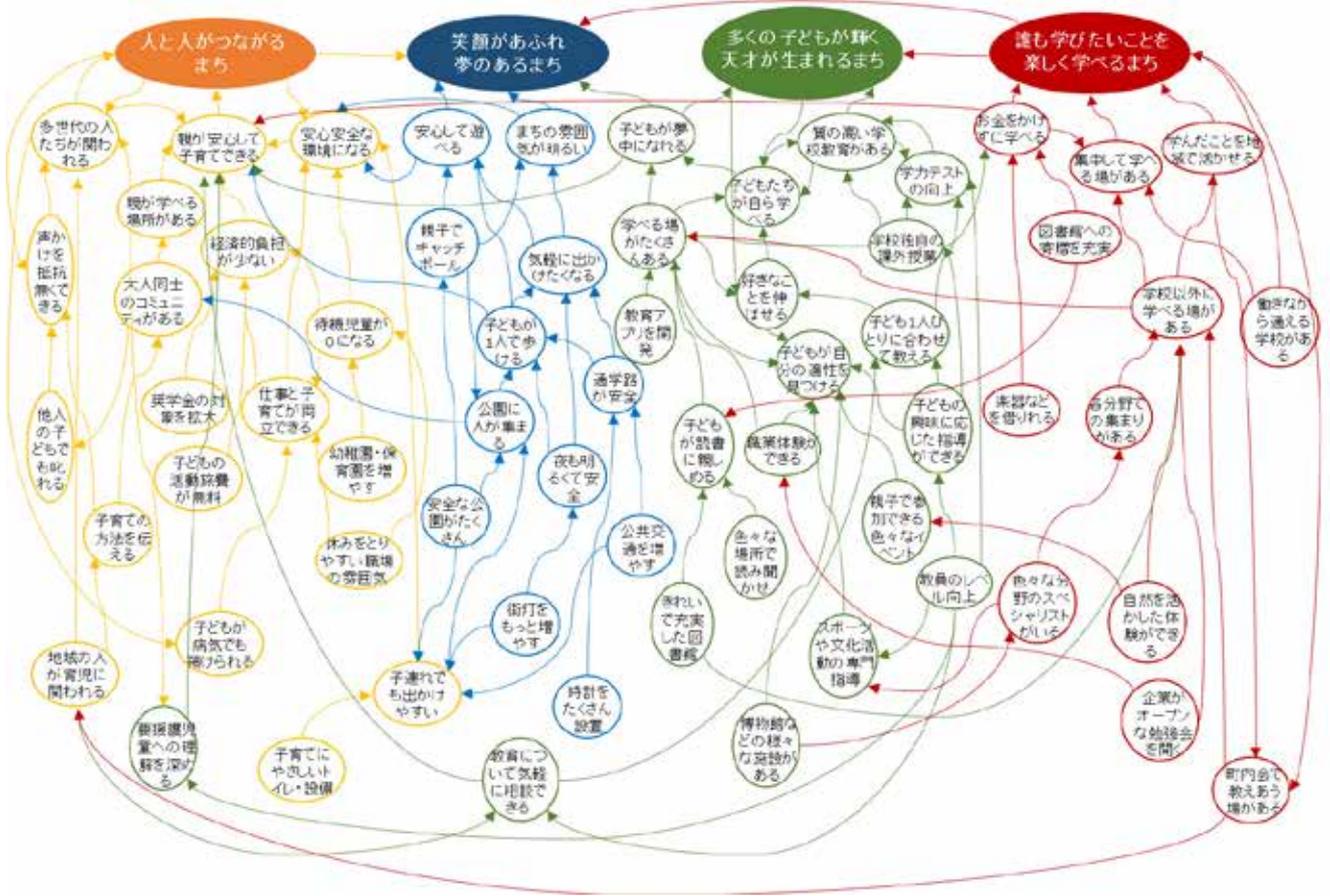
地下街など大人が楽しめる施設がある  
 ごみの無いきれいなまちにする  
 色々なところに花を植える  
 自然を観光資源にする  
 川をきれいにする



市民の皆さんの  
 お一人おひとりの  
 ご意見

80 アクティビティ:遊び、体験、レジャーなどのうち、特に体を動かすものを指すことが多い。

# Ⅲ 学び育む子どもたちの未来



## 1 人と人がつながり、みんなで支えあえるまち

多世代の人たちが教育や子育てに関われる  
 親が安心して仕事と子育ての両立をできる  
 安全・安心な環境で子育てができる  
 声かけを抵抗無くできる  
 他人の子どもでも叱れる  
 地域の人が育児に関われる  
 親が学べる場所がある  
 大人同士のコミュニティがある  
 子育ての方法を世代間で伝える  
 教育の経済的負担が少ない

仕事と子育てが両立できる  
 待機児童が0になる  
 幼稚園や保育園を増やす  
 奨学金の対象を拡大する  
 子どもの活動費が無料になる  
 子どもが病気の時に預けられる施設が多い  
 休暇を取りやすい職場の雰囲気になる  
 子連れでも出かけやすくなる (再)  
 子育てにやさしいトイレや設備が多くなる

## 2 笑顔があふれ、未来への夢があるまち

子どもたちがまちの中で安心して遊べる  
 まちの雰囲気明るくなっている  
 子どもが夢中になれるものを見つけられる  
 気軽に出掛けたいくなる  
 親子でキャッチボールをしている  
 子どもが1人で歩ける環境になる  
 通学路の安全が守られている  
 夜も明るくて安心して歩ける

公園に人が集まっている  
 安全な公園がたくさんある  
 街灯をもっと増やす  
 道を歩いていて時計が見える  
 公共交通を増やす  
 子連れでも出かけやすくなる (再)  
 学べる場所がたくさんある (再)  
 子どもたちが自ら学べる (再)

## 3 多くの子どもが輝く、天才が生まれるまち

子どもが夢中になれるものを見つけられる  
 質の高い学校教育が整っている  
 子どもたちが自ら学び育つことができる  
 学べる場所がたくさんある (再)  
 郡山市独自の教育アプリを開発する  
 子どもが好きなことを伸ばせる  
 子どもが自分の適性を見つけられる  
 職業体験がたくさんできる  
 子どもが読書に親しめる  
 きれいで充実した図書館がある  
 色々な場所で読み聞かせが行われている

学力テストの向上  
 学校独自の課外授業が充実している  
 子ども一人ひとりに合わせて教える  
 子どもの興味に応じた指導ができる  
 教員のレベル向上を図る  
 親子で参加できる色々なイベントがある  
 スポーツや文化活動の専門指導ができる  
 博物館などの様々な施設がある  
 企業がオープンな勉強会を開く (再)  
 自然を生かした体験ができる (再)

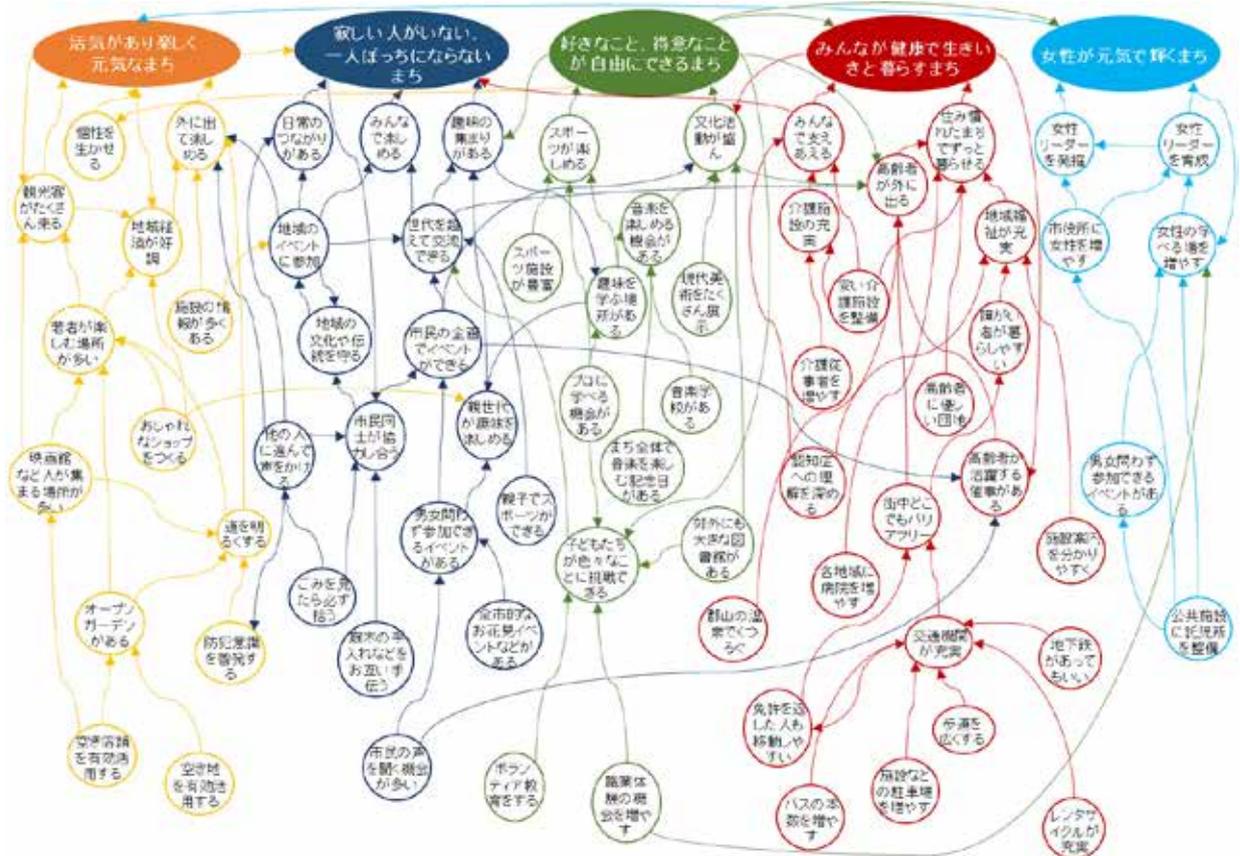
## 4 学びたいことを楽しく学び地域で輝けるまち

学んだことを地域で生かし活躍できる  
 学校以外でも集中して学べる場がある  
 お金をかけなくても学びたいことを学ぶことができる  
 働きながら通える学校などがある  
 学校以外にも学べる場がたくさんある  
 楽器などを無償で借りることができる

図書館の蔵書(寄贈)を充実させる  
 各分野での集まりや勉強会がたくさん開催される  
 色々な分野のスペシャリストがいる  
 自然を生かした体験ができる (再)  
 企業がオープンな勉強会を開く (再)  
 町内会をみんなの知識を教えあう場にする

市民の皆さんの  
 お一人おひとりのご意見

# IV 誰もが地域で輝く未来



## 1 活気があり楽しく元気なまち

一人ひとりの個性を生かした社会参加ができる  
 住む人・訪れる人がたくさん交流している  
 誰もが健康で、外に出てやりたいことを楽しめる  
 地域経済が好調である  
 若者が楽しむ場所が多くある  
 映画館など人が集まる場所が多くある  
 各施設の情報が豊富である

おしゃれなショップをたくさん作る  
 オープンガーデン<sup>81</sup>がある  
 道を明るい雰囲気にする  
 防犯意識を啓発する  
 空き地や空き店舗を有効活用する  
 他の人に進んで声をかける(再)  
 地域のイベントに積極的に参加する(再)

## 2 寂しい人がいない、一人ぼっちにならないまち

日常生活のなかで人とのつながりがある  
 地域のみんなで楽しめることがある  
 みんなで支えあえる関係が構築されている  
 地域のイベントに積極的に参加する(再)  
 地域の文化や伝統を守る

市民同士が協力し合う  
 他の人に進んで声をかける(再)  
 ごみを見たら必ず拾う  
 庭木の手入れなどをお互い手伝う

81 オープンガーデン：個人の庭を一定期間一般公開する取り組み。

世代を超えた交流がある  
市民の企画でイベントができる  
親世代が趣味を楽しめる  
男女問わず参加できるイベントがある

全市的なお花見イベントがある  
親子でスポーツができる  
子どもたちが色々なことに挑戦できる(再)  
市民の声を聞く機会を拡充する

### 3 好きなこと、得意なことが自由にできるまち

生涯を通じてスポーツを楽しめる環境がある  
趣味の集まりがたくさんあり、習い教えあうことができる  
様々な文化活動を許容する自由な雰囲気がある  
趣味を学ぶ場がある  
スポーツ施設が豊富にある  
音楽を楽しめる機会がたくさんある  
現代美術が市内にたくさん展示してある

音楽学校がある  
音楽やスポーツなどをプロに学べる機会がある  
まち全体で音楽を楽しむ記念日がある  
子どもたちが色々なことに挑戦できる(再)  
郊外にも大きな図書館がある  
職業体験の機会を増やす  
ボランティア教育をする

### 4 みんなが健康で生きいきと暮らすまち

無理せず自然にみんなで支えあうことができる  
住み慣れたまちでずっと暮らすことができる  
高齢者が気軽に外出できる  
介護施設が充実している  
地域福祉が充実している  
安価に利用できる介護施設がある  
介護従事者を育成する  
高齢者に優しい団地を整備する  
高齢者が活躍できる催し物がある  
街中どこでもバリアフリーになっている

認知症への理解を深める  
各地域に病院を増やす  
郡山の温泉でみんなくつろぐ  
交通機関が充実している  
免許を返納した人でも移動しやすい  
バスの本数を増やす  
施設などの駐車場を増やす  
歩道を広くする  
レンタサイクルが充実している  
地下鉄があってもいい

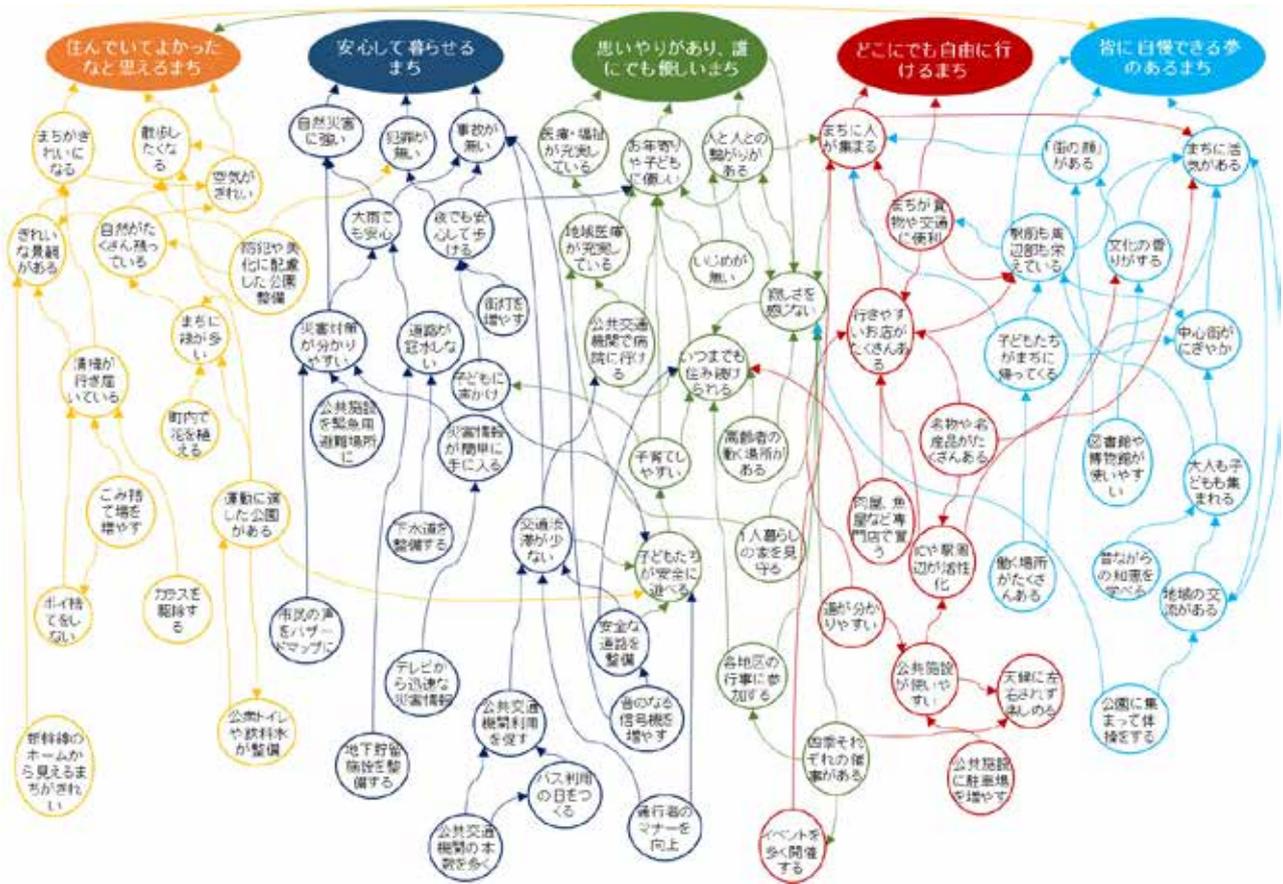
### 5 女性が元気で輝くまち

女性リーダーを発掘、育成する体制がある  
男女問わず参加できる学習機会やイベントがある  
市役所にもっと女性を増やす  
女性の学べる環境を整備する

男女問わず参加できるイベントがある(再)  
公共施設に託児所を整備する  
職業体験の機会を増やす(再)

市民の皆さんの  
お一人おひとりの  
ご意見

# V 暮らしやすいまちの未来



## 1 住んでいてよかったなと思えるまち

魅力的な景色や街並みが日常的にある  
 散歩したくなる安全で清潔な道路や公園がある  
 水や空気がきれいで清々しい  
 きれいな景観がある  
 自然がたくさん残っている  
 防犯や美化に配慮した公園が整備されている  
 まちに緑が多い  
 清掃が行き届いている

町内で花を植える  
 街角にごみ箱を増やす  
 ポイ捨てをしない  
 カラスを駆除する  
 運動に適した公園がある  
 公衆トイレや飲料水が整備されている  
 新幹線のホームから見えるまちがきれい  
 下水道(汚水)を整備する

## 2 誰もが安心して快適に暮らせるまち

自然災害に強く防災体制が整っている  
 治安が良く犯罪防止に向けた市民の助け合いがある  
 事故防止に向けてハード・ソフト両面で取り組んでいる  
 大雨でも安心  
 夜でも安心して歩ける  
 災害対策が分かりやすい

道路が冠水しない  
 街灯を増やす  
 子どもに声をかける  
 交通渋滞が少ない(再)  
 下水道(雨水)を整備する  
 雨水貯留施設を整備する

市民の声をハザードマップ<sup>82</sup>に盛り込む  
 公共施設を緊急用避難場所として整備する  
 災害情報が簡単に手に入る  
 テレビから迅速な災害情報が得られる  
 公共交通機関利用を促す  
 公共交通機関の本数を多くする

バス利用の日を作る  
 安全な道路を整備する(再)  
 音のなる信号機を増やす  
 歩行者のマナーを向上させる(再)  
 子育てしやすい(再)  
 子どもたちが安全に遊べる(再)

### 3 思いやりがあり、誰にでも優しいまち

地域での医療や福祉が充実している  
 お年寄りや障がい者、子どもに優しい文化が育まれている  
 日常的に人と人とのつながりがある  
 地域医療が充実している  
 公共交通機関で病院に行ける  
 いじめが無い  
 寂しさを感じない  
 いつまでも住み続けられる  
 子育てしやすい(再)

子どもたちが安全に遊べる(再)  
 交通渋滞が少ない(再)  
 安全な道路を整備する(再)  
 歩行者のマナーを向上させる(再)  
 高齢者の働く場所がある  
 1人暮らしの家を見守る  
 各地区の行事に参加する  
 四季それぞれの催事がある(再)  
 イベントを多く開催する(再)

### 4 どこにでも自由に行けるまち

地域に人が集まる場所があり自由に行き来できる  
 買物や交通の利便性が高い  
 行きやすいお店がたくさんある  
 駅前も周辺部も栄えている(再)  
 子どもたちがまちに帰ってくる(再)  
 名物や名産品がたくさんある  
 肉屋、魚屋など専門店で買物をする

道路が分かりやすい  
 イベントを多く開催する(再)  
 公共施設が使いやすい  
 ICや駅周辺が活性化  
 天候に左右されず楽しめる施設がある  
 公共施設に駐車場を増やす

### 5 みんなに自慢できる、夢のあるまち

郡山市のシンボルとなる「まちの顔」がある  
 まちなかに活気があり人が集まる  
 郡山駅周辺も周辺部もそれぞれ栄えている  
 文化の香りがする  
 子どもたちがまちに帰ってくる(再)  
 働く場所がたくさんある

中心街がにぎやかである  
 大人も子どもも集まれる機会がある  
 地域の交流がある  
 昔ながらの知恵を学べる  
 公園に集まってみんなで体操をする

市民の皆さんの  
 お一人おひとりの  
 ご意見

82 ハザードマップ: 被害予測値図。自然災害による被害を予測し被害範囲や避難経路等を表示するもの。

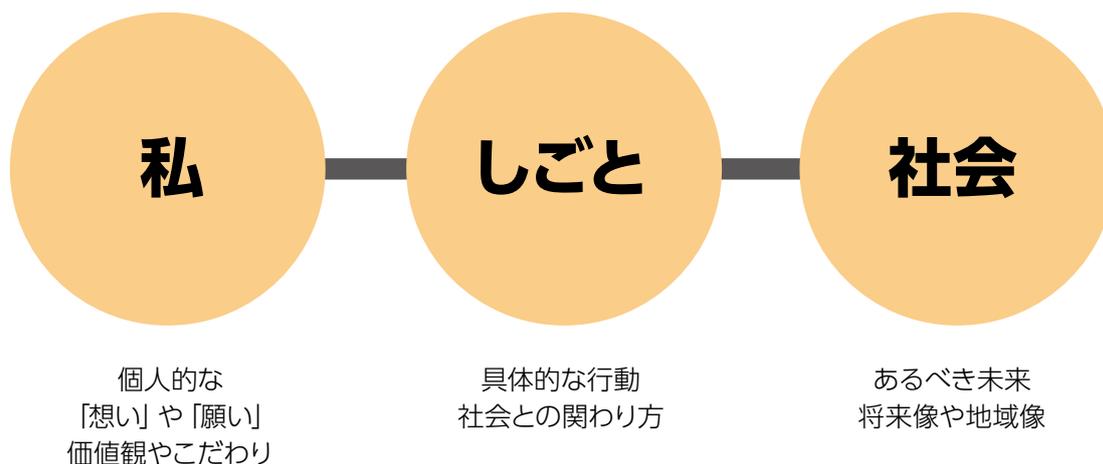
## (2) あすまち会議こおりやま参加者の「マイ・プロジェクト」

### 「マイ・プロジェクト」とは？

「マイ・プロジェクト」は、他の誰かから与えられた社会や地域の課題ではなく、自分自身の「想い」や「願い」と社会との関わり方を整理し、心から望む社会を実現する

ために「自分事」として具体的なアクション（プロジェクト）を考え、実践する手法として導入しました。

### 【マイ・プロジェクトの全体概要】



今回の市民会議「あすまち会議こおりやま」では、18歳から80代の方まで、多様な年代、ご職業の方々にお集まりいただき、同じテーマで地域の未来を考えていくというワークショップでした。ともすれば行政の考える課題に沿って意見をいただく会議になってしまいが、

「マイ・プロジェクト」の手法を導入することによって、社会的課題、地域の将来像というものが、一人ひとりの「想い」や「願い」と結びつき、それぞれの生活が地域を構成しているということに気付くことができます。だからこそ、自分自身の小さなアクションが、将来構想実現にとって欠くことのできない重要なものであるという「担い手意識」に目覚めることができるのです。

### 【マイ・プロジェクトのステップ】

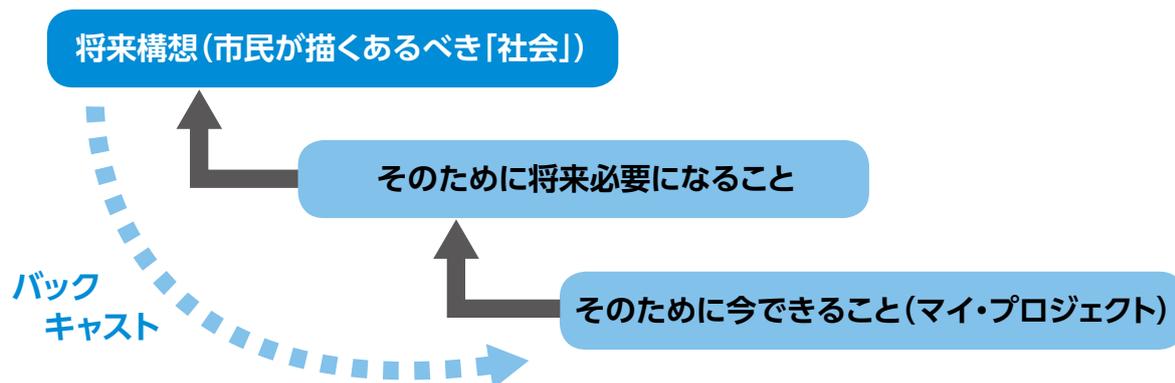
- ① 自分の生い立ちや気持ちを整理し、大切にしたい「私」を捉えなおす
- ② 「私」の「想い」や「願い」が実現する「社会」を明確に想い描く
- ③ その「社会」を実現するためのステップを段階を追って考える
- ④ 今できる具体的な行動(しごと)を考え、実践に移す

## 補足：システム思考によるバックキャスト

「マイ・プロジェクト」により、理想とする「社会」を実現するために必要なステップを考えるうえで、システム思考による論理的で分かりやすい整理法を用いました。

システム思考は、要素間の因果関係に着目して整理する手法です。今回は、その手法の一つである「ループ

図」により、「将来構想が実現する一歩手前の状態はどんな状態だろう?」「さらにその一歩手前は?」と段階を追ってバックキャストすることにより、一人ひとりの「思い」や「願い」に基づき、今取り組むことができる小さなアクションを考えました。



本基本指針には、各分野の「ループ図」と併せて、その未来を実現するために参加者それぞれが挑戦する

「小さなアクション(マイ・プロジェクト)」を考えました。次のページからその一覧を示します。



# I 産業・仕事の未来

- 自分の意見とは違う発見をするために、郡山市に住む**友達とまちづくりについてちょっとした会話を**する。
- **何度もチャレンジできる社会**、人材を育てたいので、世界に誇れる郡山に向けて人材育成を進めたい。
- みんなが笑える会社にするため、人に笑われる人になる。**笑いで人と人を繋ぐ**ことができる。
- 6次産業の発展は新たな仕事を生み出す可能性があると思う。まずは自分が郡山について知らないことが多いことに気づいたので、能動的に郡山市の理解を深めて行きたい。
- 同じメンバーだと新しい考え方が出てこないと思うので、**積極的に年代や性別の違う人の話を聞く**。親や子どもの話もちょうんと聞くようにする。
- 地域の人に郡山の企業が何をしているのか知ってもらいたいので、毎年実施している工場フェアの情報を飲み屋であった人に伝える。
- 子どもの進路に広がりを持たせたいので、**子どもに様々な経験**をさせたい。
- **誰にでもやりがいがある環境**が必要だと思うので、安全に働ける社会づくりに何ができるか考える。
- 郡山に行きたいなと思える場所にしたいので、まずは都会の大学に行った友達に、そこでできた友達を誘って郡山に来てもらう。
- 新しい会社や店舗を作れば選べる仕事も増えると思うので、**自分たちで新たな仕事を作れるような環境**をつくりたい。
- 地元で暮らしていくためには**地元の人たちとの交流**が大切だと思うので、農業の手伝いやイベントへの参加を積極的にしたい。
- **みんなが楽しく仕事をできる地域**にしたい。そのために自分の職場を楽しくして、同僚が他人と関わりたくなるようにしていきたい。
- 子どもが近くの学校や会社で過ごしてほしい。**自信を持って好きなことをやっていける**ような地域にしたい。
- 働くことはとても大変なことだと感じたので、**思いやりを持って人に接する**ようにする。
- 将来の仕事や郡山のまちについて子どもたちに興味を持ってもらうため、今日の会議のことを子どもに話す。
- マスコミなどで聞いた情報が全てではないと感じたので、全ての情報を受身ではなく**自ら知ろうと行動に移していきたい**。
- **家族に食の大事さと楽しさを伝えたい**ので、子どもたちと農業体験をしたい。
- 農業や街並みの作り方をもっと掘り下げて考えたい。
- 少しでも若者に**地域での出会いの場**を設けてあげたいので、まずは娘のお手伝いをしたい。

## II 交流・観光の未来

- 市内の演奏会を見に行く。仲間を誘って郡山市民オーケストラを結成できれば。
- 身近な観光地である磐梯熱海温泉で、**自分のお気に入りの温泉**（行きつけの温泉宿）を見つけて皆にアピールする。
- 郡山の観光地がよく分からないので1年に1回は見に行くようにする。
- 知らないことを知ることが大事だと思うので、**新たな場所にどんどん行ってみる**。
- 昔の人達がどんなまちにしたかったのか調べたい。ガイドブックを見て観光地めぐりをやりたい。
- 郡山のことをあまりよく知らない県外から来ている友達が多いので、**長期休みなどに一緒に観光地に行く**。
- 郡山市が**高齢者や若者にとって楽しい町**になって欲しい。
- 地域の歴史が浅いと誤解されている郡山をアピールし、子どもたちの未来に守っていきたくて、**お祭りを盛り上げていきたい**。
- 色々な人が楽しいことを見つけるお手伝いをしたい。そのため、**まずは外に出よう**と皆に言いたい。
- **自分の体験を子どもに教えていくことが大事**だと思うので、家族と観光地に行ったりイベントに参加したりする。
- 音楽イベントには興味があり、**郡山の観光地やイベントを自分の目で見て大学の友人にも魅力を伝えていく**。
- **家族や知らない人と盛り上がるのが大事**だと思う。四季を通してアウトドア活動やスポーツ観戦をする。
- イベントに参加することでより郡山への愛着が深まると思うのでもっと**色々なイベントに参加**する。
- 今まで受身だったので、自分で色々な観光地について調べて、実際にも行ってみる。
- 音楽が好きでライブやフェスに行っていたが、郡山でもそういうイベントがあればいいと思う。まずは**友達と郡山で音楽を楽しむ**。
- 色々郡山のことを知ってもらえれば友達がまた別の人に伝えてどんどん広がっていく。**身近な友達に市内の有名なスポットや食べ物をPR**する。
- きれいで気持ちの良い環境を感じて欲しいので、まずはゴミの日に**進んで掃除**をする。

市民の  
マイ・  
プロジェクト

## Ⅲ 学び育む子どもたちの未来

- **自分の子どもだけではなく他人の子どもも叱れるような関係**をつくりたい。
- **子どもたちが地域の大人に守られていることを実感**して欲しいので、町内の子どもたちに声をかけをしたい。
- **子どもたちが安心して暮らせる**ように暗いところなどをチェックする。
- 社会性を持った大人になって欲しいと思うので **地域のつながりを深める**ために近所の人たちに挨拶をする。
- 孫たちの話を良く聞いてあげて、**少しでも母親が子育てに悩まないように**援助したい。
- **テレビや本ばかりではなく身近な人からの知識をたくさん持って欲しい**ので、誰とどんな話をしたか子どもに話すようにしたい。
- 明るく元気だった子どもたちがある年齢に達するとスマホ片手に表情の無い顔で歩くようになるのを見るとすごく悲しい。でもこちらから挨拶をすると答えてくれるので、**自分から笑顔で挨拶**するようにしたい。
- **学べる場所がたくさんあるまちが素敵**だと思うので、図書館を充実させるために今よりもっと図書館を利用する。
- **子どもたちが様々な人たちとのかかわりを通して色々な考え方の共有**ができればいいなと思います。子どもの話を聞きながら学校や地域で意見交換していきたい。
- 身近な子どもたちから情報をしっかり取ることが必要で、そこから**大人たちが地域ぐるみで考えていく場**ができると思う。家族との会話から自分の子どもや近所の子どもを知ることが怠らない。
- 積極的に人との関わりを持っていきたいので、**人とすれ違ったら挨拶**をする。
- 人と話す機会が少なくなってきていて他人に関心を持つことが大事だと思うので、**大人でも子どもでも挨拶をちゃんとする**ようにする。
- スポーツを通して学ぶことはたくさんあると思うので、**地域のスポーツイベントを手伝いたい**。
- 大学で教育や地域のことを考える機会が多いので、**友人たちと郡山、福島の教育問題について考えていきたい**。
- **自分が経験してきた苦労や失敗、成功体験などを子どもに話し**、子どもの夢に向けた応援をする。
- 幼児教育を短大で学んでいるが、**地域の方や保護者への援助もできる保育士になりたい**です。
- **子どもに自分の適性を見つけて欲しい**ので、様々な経験ができる機会を作っていきたい。
- 地域の防犯やコミュニケーションをしっかりとるためにも、**地域で子どもたちに会ったらまず挨拶**をする。
- 塾講師のバイトをしているが、生徒たちの良い相談相手として**積極的にコミュニケーション**をとっていきたい。
- 人との出会いやコミュニケーションを学ぶことが大切だと思うし、幅広い人と関わることで考えの幅が広がると思うので**地域の人との集まりに積極的に参加**したい。
- 生徒たちの安全のために少しでも自分ができたいと思うので、子どもを送っていった時に**学校の外での見守り活動を地域の方と一緒に**したい。
- 日々の子どもの成長を言葉にすることで親として子育ては大変だけどがんばろうと思って欲しいので**子育て中の職場の人に声をかける**。
- 兄弟が少なくけんか慣れしていなかったり叱られることも少なくなっているように思えるので、**大人としてしっかり叱ったり褒めたり**できるようになる。

## IV 誰もが地域で輝く未来

- 健康でいるために自分ができるべく病院のお世話にならないように、**なるべく長くスポーツを続ける**。
- 色々な主体が積極参加することが大事なので**様々な人達が理解しあいつながりを作るためのサロン**をつくる。
- 様々な年代の人への**思いやりを持つ**ことが大事だと思うので信頼関係を作るためにも**明るく元気に挨拶**する。
- 元気で他の人々と交流できる楽しい生活を送るため、**日々普通の生活**を続ける。
- 地域に活気を出すために、**様々なイベントにボランティアや参加者として参加**する。
- 来てくれたお客さんに喜んでもらいたいので、基本的に催し物で裏方作業をしっかりやる。
- 将来は福祉関係の仕事をしたいと思っており、ボランティア活動やイベントを通して**様々な人々と交流し人間性の向上**を図っていきたい。
- 誰もが地域で楽しく生活できるよう、**興味のあることにどんどん挑戦**して行ってほしいので、困っている人には一声かけたい
- 災害時に連絡がとれなくて困らないように、公衆電話がある場所をメモしておく。
- 一人ひとりが自分にあったスポーツに取り組むことで生活を改善していく。
- **女性が元気になる**ことで家族や地域も元気になるべいいと思うので、日々**責任と挑戦とやりがい**を感じながら色々なことに取り組んでいく。
- **もっと知識を得る**ことが大事だと感じたので、まずは1冊文庫本を読んでみる。
- **地域の問題を見つけ、解決**していく能力を身に付けたいので大学で地域に関することをより勉強する。
- 気楽に菜園を楽しみ収穫の時期には**孫たちとも一緒に芋ほりや収穫**を楽しみたい。
- 高齢でもあるので**運動不足を解消**するため歩くことに努める。
- 健康な体作りを行い、生活習慣病にならないために**スポーツを続けたい**。
- 基本をしっかりすれば戦争の無い世界につながる。**個人対個人**の関係を大事にする。それが理想です。
- 仕事を理由にして家にいることが多くなってきたが**少しでも外に出よう**と思う。
- 一人ひとりがそれぞれの楽しみを見出して生きいきと生きるためには健康な体が必要。**労働ではなく運動**を続けていきたい。
- **一人ぼっちにならない**よう、健康に生活するために家族を連れて外に出たい。

市民の  
マイ・  
プロジェクト

## V 暮らしやすいまちの未来

- 独りはやっぱり寂しいと思うので**孤独死の無い町**になるよう勉強して役に立ちたいです。
- 住みよい町の基本に戻り**ゴミ拾いを実行**する。**悲観は気分であり楽観は意思にある**という信条で生きていく。
- **身近な人とのつながり**を持って活動したい。そのために家族とともに地域に参加する。
- 地域デザインに興味を持っていて、大学でもまちづくりについてより学んでいきたい。**情報発信の重要性**を伝えられるようになりたい。
- 自動車での移動は渋滞や事故などのリスクや環境負荷などの問題がある。快適できれいな町にするためにも**なるべく移動は自転車を使う**。
- 住みやすい環境づくりのため、道路のどこぼこや街灯が消えている時などは**行政にしっかりと通報**するようにする。
- **自分たちの住む町を知り好きになる**ことで子どもたちに安心して暮らせる場を残すことができると思う。散策し歴史を知ることに取り組む。
- **家周辺の掃除や危険箇所の点検**などを散歩の時にでも行えたらきれいで暮らしやすいまちになるのかなと思う。
- 町の中で挨拶をしあえる人がいるのは寂しさを感じないし地域全体も明るい雰囲気になるので、**近所の人などに挨拶をする**ようにしたい。
- 人生は助け合い、自分の目線で生活するためには良い友人をつくること。**人の真似をしなくて身の丈にあった生活を続ける**ことが大事。
- 子どもの頃のように賑やかで人が集まるうすい通りや駅前になって欲しい。**駅前でのイベントに足を運んだり、たまにはゆっくりとうすい通りを歩いてみたり**する。
- 安全・安心なまちにするため自転車でまちを走って**危険な場所を見つけたり気になる店を見つけたりする**。
- できるだけ公共施設を利用し、単に批判するのではなく、利用者間のコミュニティを作ることで**施設運営をサポートできるような「良き利用者」となる**。
- 福祉の充実が家族のつながりの基礎になると思います。**家族同士が助け合って暮らしていくこと**。
- 通学中に怖い思いをしたことがあり、子どもたちにそんな思いをさせないために**通学路を通る時はスピードを落とす**。
- 暮らしやすいまちにするためには環境からだと思いません。**清掃活動のボランティアなどに参加**し誰もが気持ちよく過ごせるまちづくりを手伝いたい。
- 変化が激しい世の中、**流されず一人ひとりが相手に寄り添う**こと、「和」が一番だと思う。世の中も、歩いてみることで新発見が必ずある。
- 最近の住宅開発で道が分かりにくくなっていると思う。**徒歩や自転車でもちを見て回り**、道路の不具合をチェックしたい。

- 交通事故の心配が無く、**外に安心して出かけようと思えるまち**だとみんな穏やかに優しくなれる。住民として地域の見守りや危険箇所の発見、避難時を想定した状況確認などを心がける。
- 新しいものをどんどん作るのではなく、**今あるものの中でいいものを見つけていきたい**。自慢できるものを探し、それを伝えていく。
- 地方は車社会だが、例えば**週に1回だけでも車利用をやめて歩く**ことで自然とのふれあいや健康、車では気づかない危険箇所などに気づく。
- 安全・安心な町にするために**基本的なルールを守ることは大事**。交通ルールや駐車場所など守って誰にでも優しいまちを目指す。
- **人と人が集まってまちになっている**。だから身近なところで人とのふれあいを持つように、いつも行く飲み屋さんで郡山のことをわいわいがやがや話す。
- 高齢なので**楽しく歩く**ことに努めたい。
- 高齢になり、震災で家を失った父の喪失感を思う。どこに住んでも災害は起こり得る。**便利すぎる生活に甘んじることなく根本的なことを見つめなおしたい**。
- 施設を利用する人が増えれば交通の便もよくなるのではないかと思うので、**公共施設をなるべく利用**する。



市民の  
マイ・  
プロジェクト

### (3) あすまち会議こおりやまでの相互インタビューでの感想一覧

最終日には、参加者が相互インタビューをすることで、お互いの考えを共有しました。

今回実施した市民会議「あすまち会議こおりや

ま」は、郡山市としても初めての試みであり、参加者からのフィードバックを今後の市政運営に反映させるため、市民の率直な感想を掲載します。

#### ① あすまち会議こおりやまに参加しようと思った理由は何ですか？

- 地元に住む大学生。せっかくのチャンスなので、**いろいろな人の意見を聞いてみたい**と思った。
- 興味本位。なかなかこういった機会がないので。
- 一通の封筒から存在を知り、**郡山の活性化に向けて役立ちたい**と思った。
- 仕事柄いろいろな方の意見を聞きたかったから。
- 親に相談した。人との関わりはあまり好きじゃないが親に勧められたので参加してみた。
- **郡山が好き**。住みよい街になればと思い。会議にも興味があった。
- 生活が改善できればと思った。
- 話すチャンスがなかなか無いので、**学生の視点で地域について興味があった**。
- 人の関わりが好きで。通知が来て面白そうだったから。
- 家にいるので、外に一步出てみたかった。
- **市民の立場で気づいたことを意見として言える**機会だから。
- 自分ができることがあれば。退職したばかりなので、なにかしたいとも思っていたので。
- 今の暮らしから考えてみようと思った。
- **郡山は大都市だと言われているのに、生活していきまじちだと思うので**参加してみた。
- 郡山に興味を持って、参加してみようと思った。
- 今まで市政に踏み込もうと思わなかったで、今回がチャンスだと思ったから。
- 自分の考えを伝えたい。
- **大学で地域の勉強をしているので**参加しようと思った。
- 郡山に18年間住んできたが、少しでも役に立てばよいと思った。**人とふれあえる機会ができる**と思った。
- せっかく選ばれたので是非参加したいと思った。
- 引きこもり気味の自分を変えるきっかけになると思った。自分と同じような境遇の人を引っ張ってあげたいと思ったから。
- 市民の立場で意見をし、参考になればいいなと思った。
- 自宅に届いた封筒がきっかけ。**郡山が好きだから**参加した。
- いつもは家庭と仕事。**市民との交流に参加しようと思った**。
- あまり外出する機会が少なかったで、**いろいろな方の考えを聞きたい**と思った。
- **郡山が好きだから**。今後も郡山に住みたい。
- このような会議に参加したことがなかったので参加した。
- 面白そうだと思ったから。
- 抽選で当たったので。
- 郡山のまちが良くなるといいなと思ひ。

## ② あすまち会議こおりやまに参加してみてもの率直な感想は？

- 一人ひとりの意見がばらばらでも、最終的につながることがすごいと思った。
- なかなか話すことのない方々とお話のできたのでよかった。なおかつ市民の方々といろいろな意見交換ができてよかった。
- いろいろな意見があって、自分は東京の大学生なので、初めから参加したかった。
- 意見が聞いて良かった。
- いろいろな意見を聞いて勉強になった。
- 若い人たちとお話できてよかった。
- いろいろな方の話が聞いて良かった。
- よかった。これを続けてほしい。
- いろいろな意見を聞いて勉強になった。
- 各層、若い人のスピードがあって、若い人もいろいろと考えていることを知った。
- 若い方～高齢の方というさまざまな年齢層の意見を聞いて、新鮮な感じだった。
- 老若男女のグループの意見や他人の話の聞けるのが楽しい。
- 安全・安心な老後を望んでいたが産業を中心に進めていきたいと思った。大切なことが分かった。
- 郡山がこうなってほしいという願いは共通していると分かった。
- 年齢の幅が大きいのにみんなしっかりと意見を出し合っているところに驚いた。
- 皆、郡山をよりよい街にしたいと思っていることが伝わってきた。
- いろいろな年代の意見が聞けたことがよかった。
- 地域について学べたことが良かった。皆さんと楽しく話せたことが良かった。
- 郡山について、意見を持っている人が思っていた以上にいたので驚いた。
- 良かった。色々なことが分かった。実生活に則している。実現可能なことも多い。
- 色々な意見がある。それを聞いてつないできっかけを作る。絵空事に見えるかもしれないが、根本にあるのは身近なもの。
- 若い人も参加されていて、新鮮な意見を聞くことができた。
- このような機会が増えればいい。まだまだ足りないなと思った。
- 大人の色々な考えがあり、いいなと思った。話し合いの場が楽しいと思った。
- 様々な年齢層により、色々な考え方があるなあと考えた。
- さまざまな世代の人と話が出来た。
- いろいろな意見が出た。
- 色々な人の意見がおもしろかった。
- 意見をたくさん出したが実際活かされるのか不安。
- さまざまな意見も、下地にあるものはみんな一緒だと思った。

市民の  
相互インタビュー

### ③ 特に印象に残っていることは？

- 一見突拍子もないような意見でも実際に実現可能では？と納得できたのが目からうろこだった。
- 年齢（高齢）の方にとって交通移動がどれほど大変か分かった。
- ディスカッションがいろいろな場面であり、面白かった。
- じゃんけんやつながりのゲームで仲良くなれた。
- 年代の幅が広く、それぞれの考えが楽しい。
- 屋内で遊べる施設が欲しいという意見。
- ウォーミングアップのゲームが楽しかった。
- 思いがけない意見にたくさん出会えたことが何よりも良かった。
- 年齢の幅が広くて面白かった。色々な考えがあって楽しかった。
- 参加者がみんな郡山の特色を生かしての都市像を言っていたことに驚き、すごい発想だなと思った。
- ポジティブに考えて明るい未来像を作るという発想。
- 好きなことに夢中になれるまちがいいと思う。若い人もシニアの方も一歩進んで楽しんでいこう。
- 役所の方も若い人が中心になって進めている。誰かのために何をするか考えさせられた。
- 年代を問わず、まちが安全になってほしい、駅前がにぎわってほしいという願いはみんな一緒。
- 個人の経験から得た意見が印象に残った。
- 天才が生まれるまちという発想に驚いた。
- いろいろな年代の方がいて、様々な視点の話が聞けたこと。
- 郡山で音楽イベントをできないかで盛り上がって、楽しかった。
- 参加者の笑顔が多かった。
- 今日のミーティングやすべてのワークショップの意見を聞いて、「なるほどな」「そうなのか」と思えることが多かった。
- ポジティブにももの考えると、明るい未来が見えてくるということ。
- 音楽、スポーツ、祭りなど楽しいことが一番。そこが原点。皆さん郡山市が好きなのだと思った。
- どのグループもよくまとめて発表するものだと感心した。
- みんなで話し合ったことが、実現できればいいなと思った。
- 郡山が楽しく安全なまちになれるように少しずつでも努力する。福祉にかかわる人に若者が増えればよいと思った。
- 天才の生まれるまちや、働かなくても暮らせるまちなど、自分には無い発想がおもしろかった。
- 普段あまり出てこない方の意見が貴重だと思う。個人の身近なところから意見が出ていた。
- 構想を話し、その先にあるものについて話した時はワクワクした。

#### ④ マイ・プロジェクトの実行に向けた意気込みは？

- **まずは自分で行動** してみて、まわりもまきこむことでみんなで行動できると思う。
- **近所の方々とまず挨拶** をしたい。
- 将来、東京オリンピックに向けて郡山が会場になれば、自分も手伝いをして参加したい。
- 何にでも参加して、**自分にできることを始める**。
- 祖父兄のことを外へ連れ出して元気を取り戻してあげたい。旅行（一日温泉）を考案中。
- **自分からできることを** 行っていきたい。
- これからがんばります。
- 将来に向けて**市のことをもっと知りたい**。
- 自分の健康を考えてラジオ体操を始めた。（郡山の人たちのためにもなるかも）
- **いろいろなアイデアがあっ**てこれからが**楽しみ**。これだけの労力、お金、時間をかけてのマイ・プロジェクトに期待します。ありがとうございました。
- 近所とのあいさつ、声かけを持続していきたい。
- 努力、時間をこんなにたくさんかけてくれていて、すごいことだと思ったが、それを現実の市政に活かしてくださるよう大いに期待したい。
- 対象者が何を求めるか受け取り、生きていきたい。
- **イベントに積極的に参加したい**。
- 身近なところで「あすまち会議」など、郡山のことを話して広めること。
- **もうすこし市政に興味をもってみたい** と思った。
- 今後も郡山市民として、新たなまちづくりに協力していきたい。
- まだ大学一年生なのでここで学んだことを今後の勉強に活かしていきたい。
- マイ・プロジェクトを実現できるよう、サポートしたい。
- **まずは自分にできることを一つ一つする**。一歩足を踏み出すために頑張る。
- 近所の方々に声かけをしたい。
- 祭りを通して人が集る街を目指したい。安積国造神社の運営に携わっていく中で、郡山のレベル（低さ）に気付いた。
- **身近なところから挑戦** します。
- 自分の思いが実現できれば、本望です。
- 自分にできるあいさつ。近所の通学路の草むしりを続けていきたい。
- 日々、実行していきます。
- **参加しよう。やってみよう**。
- **日々平凡に過ごすことがまちづくりに重要だ**という言葉に感銘を受けた。
- 一つ一つの積み上げが大切だと思います。

市民の  
相互インタビュー

## 2.あすまちエリアディスカッションでの意見一覧

### ・昔と現在の地域を比べて変わったもの

全体として、道路の整備により通勤や他の地域へのアクセスが良くなったことがほぼ全ての地域で生活実感として感じられており、また、公園や防犯灯、子どもの遊び場や地域子ども教室など公共施設の整備により、子どもの安全・安心、子育て世代が安心して働ける環境が整備されたことが挙げられました。地域によっては新たな宅地造成（区画整理・民間開発）による若い住民の増加や商業施設などの整備により便利になったとの声が聞かれる一方、その周辺地域からは人口の流出、小規模店舗の閉店などの意見も聞かれ、特に人口減少局面が拡大する今後においては、これまでのまちづくりについて見直しをしなければならない側面もあると思われ

ます。

道路整備についても、広域での移動は便利になったと多くの市民が実感している一方、地域によっては、通学路の交通量増加に対する不安や、従来の町内会が分断されるなど、地域の安全やコミュニティに対しマイナスの影響も与える恐れがあることを認識する必要があります。

また、少子高齢化の影響や人口の偏在といったマクロな社会情勢変化に加え、世帯構成や個人のライフスタイルの変化により、地域活動や近所との交流が疎遠になる傾向があり、子ども神輿や神社の例大祭などの地域行事が実施できなくなっている地域も見られます。



## 各地区での意見一覧

	好ましい変化	好ましくない変化
安積	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路の整備により通勤や市外への旅行などが便利になった。</li> <li>地域の公園も整備されて子どもたちが安全に遊べるようになった。</li> <li>住宅地が増えて子どもたちの成長が楽しみ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近所の駄菓子屋やコロッケ屋などが無くなって寂しい。</li> <li>道路は便利になったが子どもたちの通学路は危険な場所も増えた。</li> <li>地域行事への参加者が減少。</li> </ul>
田村	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路が整備されて周辺での商業発展も著しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども育成会の神輿がなくなってしまったことは残念。</li> <li>農家が減り耕作放棄地が多くなった。</li> </ul>
中田	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路や農道が整備されて農機具の移動や搬入など高齢者でも楽になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近くに大型店舗が出来て地域の商店が閉店した。</li> <li>大滝根川の燈籠流しが無くなった。</li> </ul>
逢瀬	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路の整備や自家用車の普及で地域外への通勤が楽になり交流も盛んになった。</li> <li>新しい宅地開発で地域に変化を期待。</li> <li>逢瀬ワイナリーの整備で観光・農業振興が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちや近隣との触れ合いが減った。</li> <li>商店が無くなって買物が困難になった。</li> <li>若者の農業離れが進み休耕田が増えた。</li> </ul>
三穂田	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域子ども教室ができて安心して働けるようになった。</li> <li>道路が拡幅されて便利になった。</li> <li>防犯灯が増えて安全になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもが減って神輿も難しくなった。</li> <li>地元の商店が閉店し、特に高齢者にとっては買物が不便になった。</li> <li>世代間の交流が疎遠になった。</li> </ul>
湖南	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地へのアクセス道路が整備されて通勤通学が便利になった。</li> <li>学校が統合されたことで地区全体での交流が盛んになった。</li> <li>地域発展のためのボランティアなどによる行事が増えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元商店だけではなくコンビニやスーパーが閉店するなど買物が不便になった。</li> <li>高齢化により草刈などの共同作業ができなくなっている。</li> <li>空き家や遊休農地が増加している。</li> </ul>
富久山	<ul style="list-style-type: none"> <li>宅地化や道路整備により便利になった。</li> <li>スポーツ施設など公共施設ができて暮らしやすくなった。</li> <li>大型店舗が増えて買物が便利になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世帯数は増えているが人間関係は希薄になっている。</li> <li>少子化により子ども育成会のイベントが無くなってきている。</li> <li>個人商店が無くなり、歩いて買物にいけなくなった。</li> <li>交通量が増えていて子どもや高齢者の安全確保が課題となっている。</li> </ul>
日和田	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路や橋の新設により交通の利便性が高まった。</li> <li>区画整理により良好な市街地が形成され、店舗や住宅が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通量が増えて事故の危険が増えた。</li> <li>子どもたちが地元や自然を知る学習機会が減少した。</li> </ul>

	好ましい変化	好ましくない変化
西田	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路が整備されて便利になり、商店も増えた。</li> <li>各地域に集会所ができて地域活動がしやすくなった。</li> <li>デコ屋敷にトイレや駐車場が整備されて便利になった。</li> <li>子どもたちが遊べる公園や施設が増えた。</li> <li>東部開発事業や三春ダムの水利により農業の効率性が向上した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校登下校も親が送迎するようになり、子供同士で遊ぶことがなくなっている。</li> <li>少子化により地域の祭りや子ども神輿などが無くなった。</li> <li>昔はたくさんいた虫や生き物が減少し、夏の景色が変わった。</li> <li>交通量が増えて通学路が危険になった。</li> </ul>
喜久田	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路の整備により便利になった。</li> <li>区画整理により、近隣地域も含めて大型商業施設や医療施設の増加など生活の利便性が向上した。</li> <li>一部の地域ではあるが人口も増加しまちに活気がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝夕の道路渋滞が悪化し交通事故も増えた。</li> <li>少子化により秋祭りを取りやめるなど地域活動にも影響が出ている。</li> <li>地域の商店街が無くなって寂しい。</li> </ul>
片平	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路整備が進み便利になった。</li> <li>一部地区では世帯数が増加し、子どもたちも増えている。</li> <li>隣接するハイテクプラザへの勤務者など若い世帯も増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1人暮らしの高齢者が増加している。</li> <li>子どもが減少し、地域の祭りや大会への参加者が減少している。</li> <li>コンビニは増えたが地元商店は減少した。</li> <li>交通渋滞が激しく迂回した車が生活道路を通り通学路が危険になった。</li> </ul>
熱海	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光地に相応しい道路整備が進んだ。</li> <li>道路整備により温泉利用者も広域化。</li> <li>ウインタースポーツ施設の整備により冬でも地域が活性化している。</li> <li>多目的施設やフットボールセンターなどの建設が決まり、今後の発展に期待できる。</li> <li>熱海駅前が地域住民により美化されるなど各種団体や地域の方の活動が活発化している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口が減少している。</li> <li>旅館や商店が減少しており、空き店舗対策が必要である。</li> <li>路線バスの本数が減ってしまい不便。</li> <li>若者が減少しており、地域で開催していた運動会も無くなった。</li> </ul>
旧市内	<ul style="list-style-type: none"> <li>幹線道路の整備により市内外のアクセスが楽になった。</li> <li>区画整理により商業施設や医療機関が充実し生活が便利になった。</li> <li>中央公民館など公共施設の整備により社会教育が充実してきた。</li> <li>子どもの遊び場が各地に整備された。</li> <li>クリーン作戦や企業の奉仕活動が増え、街並みがきれいになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心市街地の空洞化が進み、駅前通りの歩行者が減少している。</li> <li>慢性的な渋滞が発生しており道路の危険箇所が増えている。</li> <li>個人商店が廃業し空き店舗が増えている。</li> <li>バスの便数が減っている。</li> <li>小学校の鼓笛パレードが無くなったのは楽都こおりやまとして寂しい。</li> </ul>

	好ましい変化	好ましくない変化
富田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店舗やクリニックタウンの増加により暮らしやすい地域になった。</li> <li>・道路網などインフラ整備により急激に人口が増加している。</li> <li>・郡山富田駅により活気ある地域になるものと期待している。</li> <li>・住民が増えて地域の祭りを再開できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アパートが増えて、誰が住んでいるか分からず近所付き合いも無くなった。</li> <li>・少子化で地域の盆踊りが出来なくなった。</li> <li>・幹線道路の渋滞で生活道路に車が流入しており危険になった。</li> <li>・近所の肉屋や八百屋など個人商店が無くなってしまった。</li> <li>・開発が進み身近な自然が無くなった。</li> </ul>
大槻	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幹線道路整備や西部体育館、スポーツ広場など多くの公共施設が整備され便利になった。</li> <li>・ふれあいセンターが整備された。</li> <li>・防犯灯やカーブミラー、横断歩道の整備など安全な環境になっている。</li> <li>・スマートインターにより地域の利便性向上に期待できる。</li> <li>・子育て支援センターや公園遊具整備など子どもたちの遊び場が充実した。</li> <li>・住宅や店舗が増えて生活が便利になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが減っており地域の行事が出来なくなっている。</li> <li>・近所づきあいや行事が少なくなり、参加する顔ぶれも固定化されている。</li> <li>・地域団体の世代交代が進んでいない。</li> </ul>

市民が感じる  
地域の変化

■ 地域資源マップ

■ あすまちエリアディスカッションによる地域資源マップ

片平町

- ・うねめ公園等からの眺望
- ・うねめ太鼓
- ・冬花火

熱海町

- ・果物（なし）
- ・萩姫、つるりんこ祭り
- ・けやきの森、足湯

逢瀬町

- ・〇〇さん家のトマト
- ・きれいな山、空、星
- ・消防団活動

湖南町

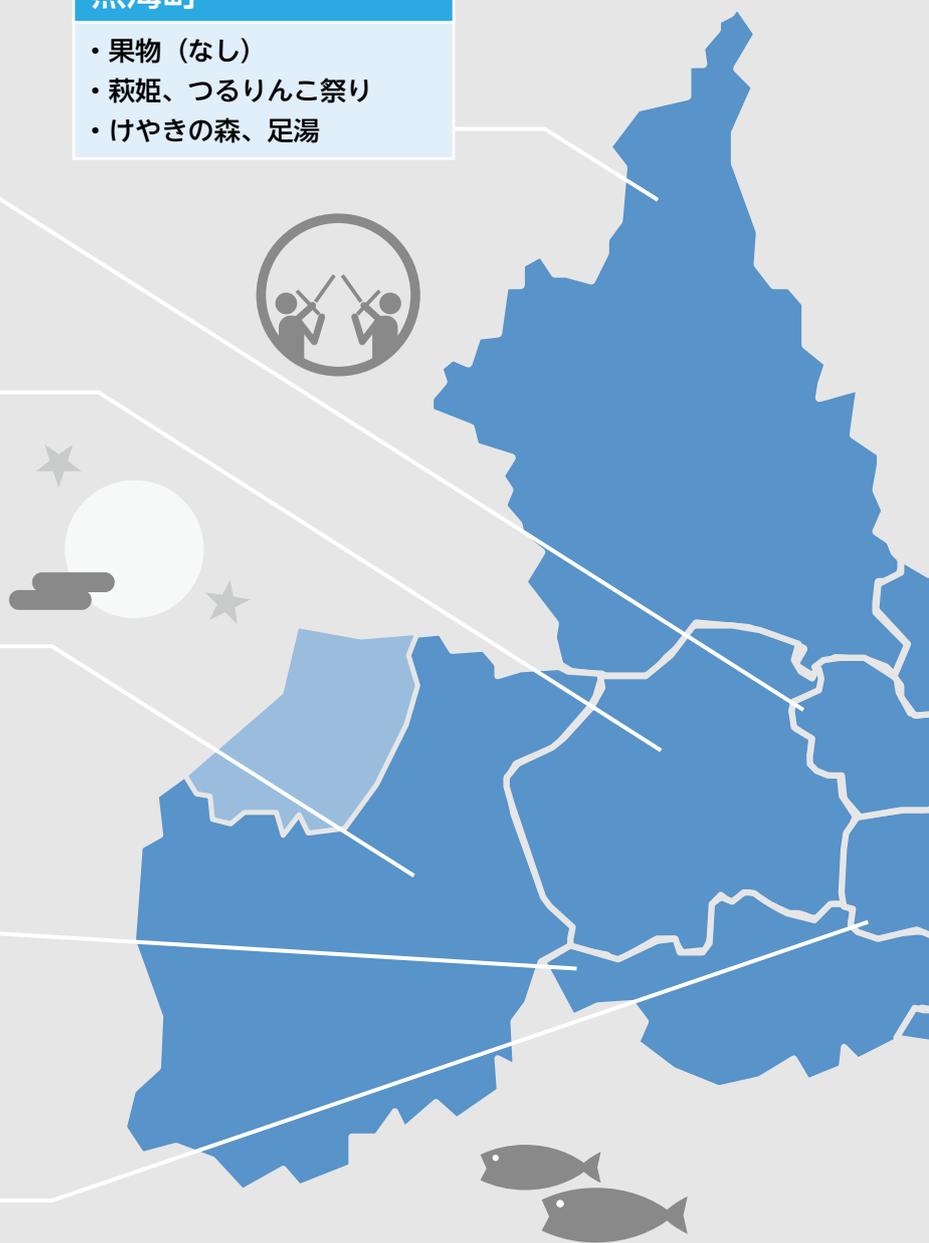
- ・猪苗代湖の美しさ
- ・イワナ、蛭
- ・郷土料理（かりんとう等）

三穂田町

- ・笹原川の桜並木
- ・アヤメロード
- ・子ども神輿

大槻町

- ・子育て支援センター
- ・大槻賛歌
- ・鯉養殖の文化



地区懇談会（あすまちエリアディスカッション）では、みんなに自慢できる地域の誇り、未来に残したい地域資源についても話し合いました。

各地域とも、地域住民の参加や協力により継続して

いる伝統行事や子ども神輿などについては大切に次の世代に残していきたいと考えており、併せて近年になって新たに始まった桜祭りなどのイベントも季節の風物詩として盛り上げていきたいとの意見が多く見られまし



た。また、これらの地域行事を担っている地域団体の活動についても自慢できるものであり、活動を継続できるよう取り組んでいきたいとの意見も多く見られました。

自然が豊かに残る本市では、各地域の山や河川な

ど、身近な自然環境もまた地域資源として大きな魅力を持っており、未来の市民にとっての憩いの場として残していきたいとの意見も各地域で見られました。



# 資料集

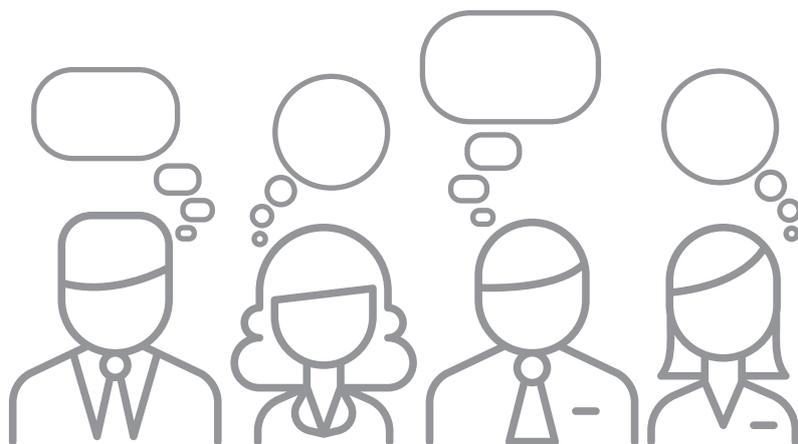
## 基本指針策定の手法

郡山市まちづくり基本指針の策定は、市民一人ひとりが地域の将来を創る担い手・プレーヤーとして参加できるよう、様々な新しい手法を取り入れました。今後、地域活動や企業での事業立案などにおいて、今回の手法がきっと参考となるものと思います。

### (1) 市民討議会プランクス・ツェレ(あすまち会議こおりやま)

ドイツ発祥の民主的な市民参加手法で、既に40年以上実践されてきた歴史を持ちます。その特徴は概ね次のとおりです。

- ・社会的かつ公益的な課題をテーマとする
- ・参加者は地区の住民から無作為で抽出する
- ・有償で一定期間、責任ある主体として参加する
- ・中立的な機関がファシリテーション<sup>83</sup>を担当する
- ・専門家などからの情報提供により学習する
- ・少人数グループでの、参加者のみによる討議で意思決定する



83 ファシリテーション:会議などの場で参加者の発言を促したり、話の流れを整理したりするなどして、会議の合意形成や活性化を促進させること。

## (2) ワークショップの基本的な手法

行政が主催する会議特有の堅苦しさを主催者と参加者との見えない壁を極力無くすため、以下のようなことに気を付けてワークショップを開催しました。

- ・ 行政側の参加者も全員私服(半そで短パンもあり)
- ・ 各グループは参加した市民のみで構成(行政は入らない)
- ・ お菓子ブースを用意し、くつろげる場をつくる
- ・ オシャレなBGMを流して雰囲気づくり
- ・ 一人で考える時間とみんなで話す時間を交互に繰り返すことで、意見がまとまらず発言できない参加者が出ないように注意
- ・ 模造紙と付箋と水性マーカーを大量に準備
- ・ アイスブレイクや事務局による寸劇など、リラックスできる仕掛け
- ・ 発言の基本ルール(前向きな意見、参加者は平等、意見はみんなのもの等)は厳守

## (3) アイスブレイク<sup>84</sup>(チェックイン) カタログ

あすまち会議こおりやまで、参加者の肩をほぐし、発言しやすい雰囲気にするため、毎回の会議冒頭に次のようなアイスブレイクを実施しました。

### ①本気ジャンケン

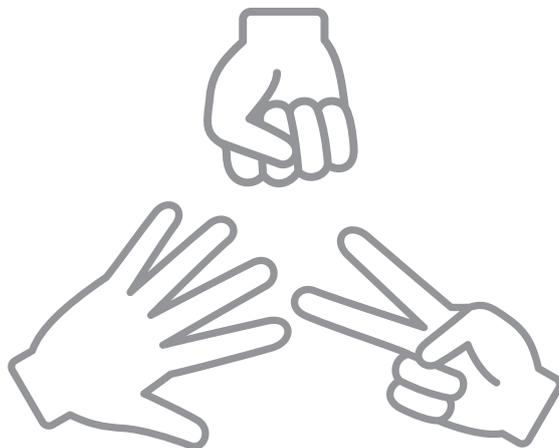
隣の人と本気でジャンケンし、勝ったら本気で喜び、負けたら本気で悔しがる。これを30秒くらい何度も続ける。とにかく声を出す練習になるので、話し合いの活気が増します。

### ②本気ジャンケン+ハイタッチ

本気ジャンケンを繰り返し、あいこになったらハイタッチをして他のグループと合流する。どんどんグループが大きくなって最後には……。全体が1つになって大いに盛り上がるので、アイスブレイクだけでは無く、会議の最後に実施するのも効果的です。

### ③似顔絵自己紹介

10秒間で隣(向かい)の人の似顔絵を書く。書いたら交換し、見せ合いながら自己紹介をする。10秒間で上手に書ける人はまずいないので、お互いの似顔絵を見て笑いあえる。気持ちがリラックスしたうえで自己紹介ができます。



84 アイスブレイク:ワークショップの冒頭などで初対面の人同士の緊張をほぐすための手法。

#### ④ 上乗せ自己紹介

グループで一言ずつ順番に自己紹介をし、前の人までの発言に自分の自己紹介を上乗せし、何周出来るか競う。覚えなくてはいけないので、真剣にメンバーの自己紹介を聞くことができる。ゲームの要素もあるのでグループの団結力が増します。

例：一周目は名前、二周目は好きな食べ物、三周目は参加理由…など

一人目「がくとです。」

二人目「がくとです。おんぷです。」

三人目「がくとです。おんぷです。環太郎です。」

一人目に戻り「がくとです。おんぷです。環太郎です。焼肉です。」

二人目「がくとです。おんぷです。環太郎です。焼肉です。ミックスパフェです。」

以下失敗するまで続ける！

#### ⑤ 嘘っこ自己紹介

グループの中で一人ずつ自己紹介をするが、その中で一つだけ嘘をつく。自己紹介が終わったら、どの部分が嘘かをみんなで当てあう。嘘を探すため真剣に自己紹介を聞くことができる。

#### ⑥ 全員手が挙がるかな？

グループの中で一人ずつみんなに「〇〇な人は手を挙げて！」という質問をし、全員の共通点を探す。お互いの共通点や違いに気付き、グループの親近感が増す。

例：今日の朝ごはんがパンだった人！



#### (4) システム思考による整理

システム思考は、様々な要素間の因果関係に着目して整理する手法であり、社会で発生している現象を巨大なシステムと捉えて分析・整理する考え方です。今回のあすまち会議こおりやまでは、システム思考の手法の一つである「ループ図」を作成することで、理想とする将来像からバックキャストして今の私たちにできることを考えました。

#### (5) マイ・プロジェクトによる「自分事」化

マイ・プロジェクトは、個人の「想い」や「願い」と社会との関わり方を整理し、今すぐに取り組むことのできる小さなアクションを考える手法です。また、実践を繰り返すことで、失敗を許容し、挑戦を讃え合う社会を生み出そうとする試みでもあり、近年、教育の現場や企業研修等での導入が進んでいます。

#### (6) ストーリーテリング<sup>85</sup>、プロトタイピング<sup>86</sup>、ロールプレイング<sup>87</sup>

デザイン思考という考え方に基づく手法。デザイン思考とは、課題解決にあたり、実践的かつ創造的な解決を志向する考え方であり、発散と収束を繰り返すことで多くの可能性の中から最適解を発見するなど、今日では一般的となっているワークショップの手法などの元となる考え方です。

今回は、あすまち会議こおりやま2で、各分野別の将来構想を具体的なストーリーとして描くため、特にこれらの手法を導入。ストーリーテリングでは、具体的な未来の登場人物を想定し、場面やセリフなどによりイメージしやすいストーリーを描きました。また、一連のストーリー作成を短期間に集中して行い、他のグループと相互に意見交換をして修正を重ねるなど、ラピッドプロトタイピングの考え方も導入しました。会議の最終日には、市への提言として、参加者自らがストーリーの登場人物を演じるロールプレイングにより、あえて現実の自分とは異なる登場人物になりきり、実践による相互理解を深めることができました。

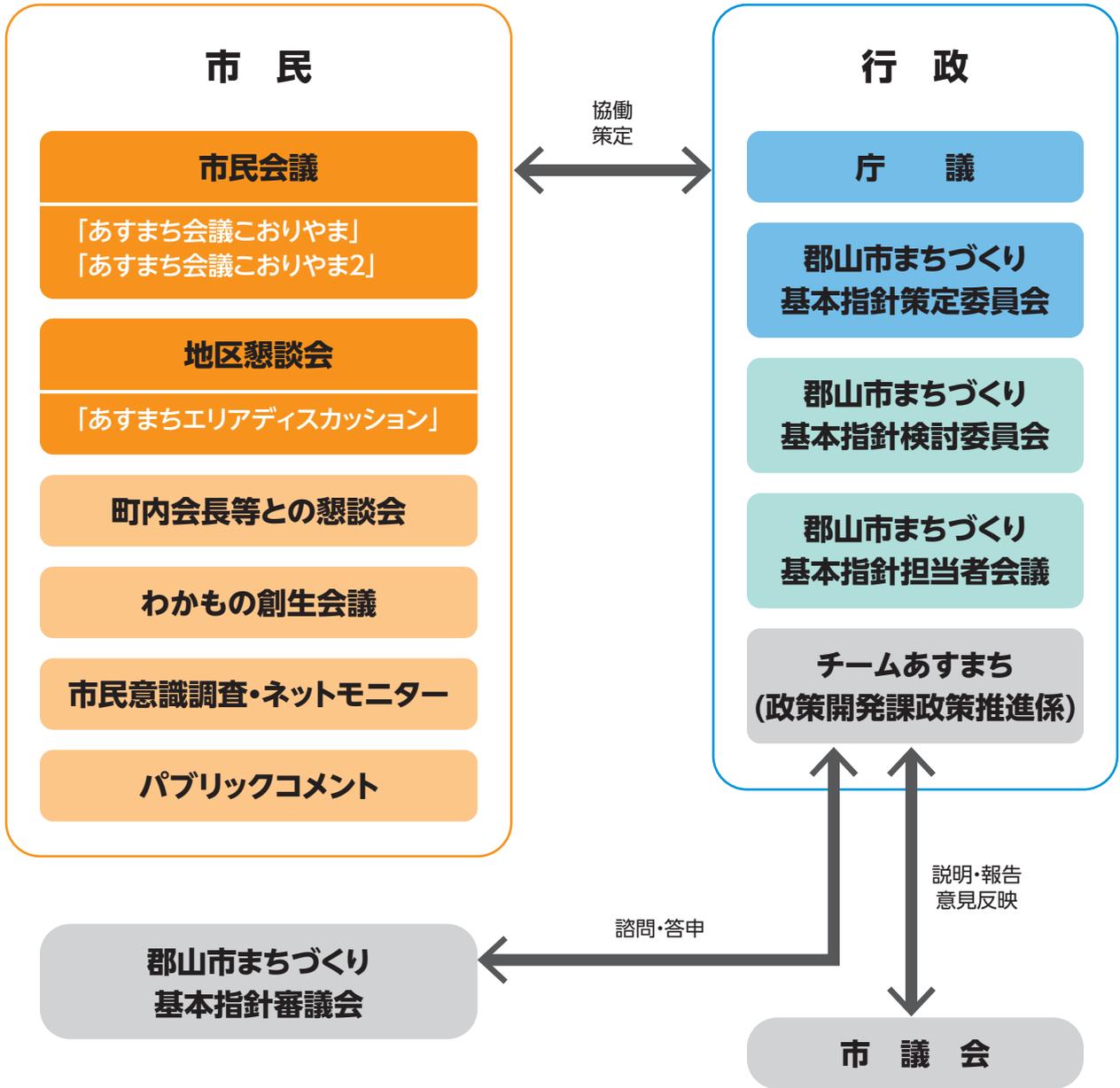


85 ストーリーテリング：伝えたいことを印象的な体験談やエピソードなどの物語により伝える手法。

86 プロトタイピング：製品開発で用いられる試作手法。試作とテストを繰り返し速やかなフィードバックを得るもの。

87 ロールプレイング：ストーリーの役割を想定し演じることで深い理解を得る手法。

# 郡山市まちづくり基本指針策定体制



策定経緯や、市民会議「あすまち会議こおりやま」、「あすまち会議こおりやま2」及び地区懇談会「あすまちエリアディスカッション」の詳細については、本基本指針のプロローグ「3. 市民が描いた『公共計画』としての共通指針」に掲載しています。

# 郡山市まちづくり基本指針策定経過(2016(平成28)年4月～)

年度	月	市民参加	議 会	庁 内
2016 (H28)	4月			・策定方針決定
	5月			・庁内担当者会議
	6月			
	7月			・分野別計画調整
	8月			
	9月	(わかもの創生会議)	・会長会説明	・庁内担当者会議・庁議
	10月	↓ あすまち会議こおりやま		
	11月	↓ (市民意識調査)	・会長会説明	
	12月		・会長会説明	・庁内担当者会議・庁議
	1月		・会長会説明	・庁議
	2月	↓ あすまちエリアディスカッション	・会長会説明	
	3月			・フレーム案作成
2017 (H29)	4月		・会長会説明	
	5月		・会長会説明	・担当者会議・検討委員会 ・策定委員会
	6月			・担当者会議
	7月	↓ あすまち会議こおりやま2	・会長会説明	
	8月	(わかもの創生会議)		・素案作成
	9月		・議員説明会	・担当者会議・検討委員会 ・策定委員会
	10月	↓ 郡山市まちづくり 基本指針審議会		
	11月			(全庁調整)
	12月	↓ パブリックコメント	・議員説明会	・策定委員会
	1月	↓		・策定委員会 ・庁議
	2月	<b>郡山市まちづくり基本指針 完成</b>		
3月				

## あすまち会議こおりやま（詳細は本誌9～10ページ参照）

### ①設置目的

郡山市まちづくり基本指針の策定にあたり、公平な市民参加により、市民の「想い」や「願い」に基づいた将来都市像を設定するため設置

### ②参加者

無作為抽出で選定された18歳以上の市民3,000名から応募のあった延べ208名

### ③会議開催経過

2016(平成28)年10月2日(日)～11月6日(日)

開催概要	開催日	参加者数
キックオフミーティング(事務局説明)	10月 2日(日)	58名
第1回ワークショップ「産業・仕事の未来」	10月 6日(木)	21名
第2回ワークショップ「交流・観光の未来」	10月13日(木)	18名
第3回ワークショップ「学び育む子どもたちの未来」	10月16日(日)	24名
第4回ワークショップ「誰もが地域で輝く未来」	10月22日(土)	20名
第5回ワークショップ「暮らしやすいまちの未来」	10月30日(日)	25名
ラップアップミーティング(市長への報告)	11月 6日(日)	42名

## あすまちエリアディスカッション（詳細は本誌11ページ参照）

### ①設置目的

各地域の歴史や特色を住民自らが再認識し、未来の地域を担う世代のために解決すべき地域課題などを話し合うため設置

### ②参加者

小学生や中学生を含む地域住民延べ341名



### ③ 会議開催経過

2017(平成29)年2月7日(火)～2月16日(木)

開催地域(会場)	開催日	参加者数
安積(安積行政センター)	2月 7日(火)	22名
田村(田村行政センター)		21名
中田(中田ふれあいセンター)		11名
逢瀬(逢瀬コミュニティセンター)	2月 9日(木)	19名
三穂田(三穂田ふれあいセンター)		25名
湖南(湖南行政センター)		29名
富久山(富久山行政センター)	2月10日(金)	30名
日和田(日和田地域交流センター)		11名
西田(西田ふれあいセンター)		24名
喜久田(喜久田ふれあいセンター)	2月15日(水)	28名
片平(片平ふれあいセンター)		12名
熱海(熱海行政センター)		25名
旧市内(郡山市役所)	2月16日(木)	39名
富田(富田公民館)		21名
大槻(大槻ふれあいセンター)		24名

## あすまち会議こおりやま2 (詳細は本誌12ページ参照)

### ① 設置目的

郡山市まちづくり基本指針の策定にあたり、公平な市民参加により、市民の「想い」や「願い」に基づいた将来都市像を設定するため設置

### ② 参加者

あすまち会議参加者に加えて、公募で募集された延べ259名

### ③ 会議開催経過

2017(平成29)年7月1日(土)～7月22日(土)

開催概要	開催日	参加者数
キックオフミーティング(特別講義)	7月 1日(土)	57名
第1回ワークショップ	7月 8日(土)	42名
第2回ワークショップ	7月11日(火)	40名
第3回ワークショップ	7月14日(金)	44名
ラップアップミーティング(寸劇による市長への報告)	7月22日(土)	76名

# 郡山市まちづくり基本指針審議会

## ① 設置目的

郡山市まちづくり基本指針の策定にあたり、市長の諮問に応じて必要な事項について審議を行うため設置

## ② 委員

各団体の代表者、学識経験者、郡山市へのIターン者、公募で選任された委員等40名

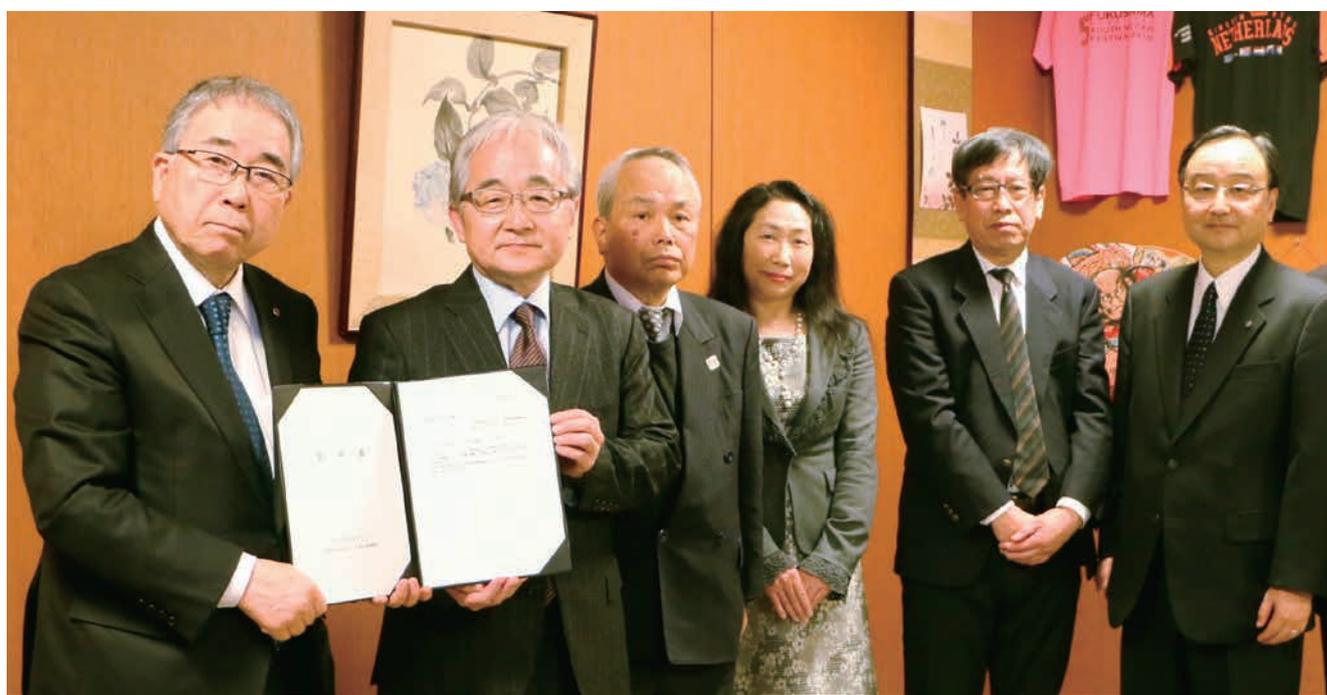
	役職	氏名	所属団体・役職等
① 産業・仕事の未来		伊藤 清郷	郡山商工会議所 副会頭
	分科会会長	岩瀬 次郎	公立大学法人 会津大学 理事
		熊田 耕治	東北税理士会郡山支部
		佐藤 研一	株式会社福島民報社郡山本社 取締役郡山本社代表
		中岩 勝	国立研究開発法人産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所 所長
		森 淳	ランスタッド株式会社郡山オフィス アシスタントマネージャー
		箭内 孝仁	連合福島郡山地区連合 事務局長
② 交流・観光の未来		結城 政美	福島さくら農業協同組合 代表理事組合長
		有馬 賢一	郡山信用金庫 理事長
		五十嵐 浩	東日本旅客鉄道株式会社 郡山駅 駅長
		伊東 孝弥	公益社団法人福島県宅地建物取引業協会郡山支部 副支部長
		川村 瞳	公募委員
		菅野 篤	福島民友新聞株式会社 取締役郡山総支社長
		菅野 豊	一般社団法人 郡山市観光協会 会長
③ 学び育む子どもたちの未来	分科会会長	中潟 亮兵	郡山逢瀬ふじみ野net文京スマイル 代表
		増田 聡	国立大学法人東北大学大学院 経済学研究科 教授
	分科会会長	影山 彌	学校法人郡山開成学園 郡山女子大学 副学長
		河田 卓司	株式会社福島中央テレビ 代表取締役社長
		菅家 元志	株式会社プレイノベーション 代表取締役社長
		國分 重信	福島県行政書士会郡山支部 支部長
		相樂 悦子	学校法人成田学園 希望ヶ丘こども園 園長
④ 誰もが地域で輝く未来		澤田 志帆	公募委員
	副会長	須藤 英穂	株式会社東邦銀行 常務取締役
		橘 文紀	郡山市PTA連合会 会長
		井上 雄光	福島県司法書士会郡山支部
	分科会会長	岩村 明憲	株式会社福島県民球団 福島HOPES 監督
		押尾 茂	学校法人晴川学舎 奥羽大学薬学部 教授
		佐藤 恵一	福島県立清陵情報高等学校 校長
⑤ 暮らしやすいまちの未来		須佐 喜夫	福島県商工信用組合 理事長
		滝澤 眞己	一般財団法人ふくしま医療機器産業推進機構 専務理事
		土屋 繁之	一般社団法人 郡山医師会 会長
		横山 宏	株式会社福島放送 代表取締役社長
		安達 一夫	公益社団法人福島県不動産鑑定士協会 理事
		稲田 一郎	株式会社エフエム福島 代表取締役社長
		佐久間 孝	公募委員
会長・分科会会長		渋谷 重二	郡山地区商工会広域協議会 会長
		鈴木 孝雄	株式会社大東銀行 取締役社長
		鈴木 光二	郡山市自治会連合会 会長
		土持 敏裕	弁護士法人 滝田三良法律事務所 弁護士
		堀井 雅史	学校法人日本大学工学部 教授

(敬称略・分科会別五十音順、所属団体及び役職等は委嘱時点)

### ③ 設置期間及び審議経過

2017(平成29)年10月10日(火)～2017(平成29)年12月5日(火)

開催回次	開催日	主な審議内容
第1回全体会	10月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委嘱状交付</li> <li>・会長及び副会長の選出、分科会の設置</li> <li>・市長から審議会へ素案を諮問</li> <li>・策定経緯など全体概要説明</li> </ul>
第1回分科会	10月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会会長の選出</li> <li>・分野別の素案について説明、審議</li> </ul>
第2回分科会	10月23日(月) ～25日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回分科会及びその後の意見への対応状況説明</li> <li>・第五次総合計画と基本指針の施策体系対応説明</li> <li>・第五次総合計画の評価と検証について審議</li> <li>・分野別将来構想及び施策の展開について審議</li> <li>・基本指針全体について審議</li> </ul>
第3回分科会	11月6日(月) ～10日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回分科会及びその後の意見への対応状況説明</li> <li>・行政計画の構成及び概要について説明</li> <li>・分野別将来構想及び施策の展開について審議</li> <li>・基本指針全体について審議</li> <li>・分科会意見集約について審議</li> </ul>
第2回全体会	11月27日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回分科会及びその後の意見への対応状況説明</li> <li>・各分科会意見・提言報告及び審議</li> <li>・基本指針への反映状況について審議</li> </ul>
答 申	12月5日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会から市長へ答申</li> </ul>



## ④ 郡山市まちづくり基本指針審議会からの答申

平成29年12月5日

郡山市長 品川 万里 様

(仮称)郡山市まちづくり基本指針審議会  
会 長 堀井 雅史

(仮称)郡山市まちづくり基本指針について(答申)

平成29年10月10日付け29郡政第517号で諮問のありましたこのことについて、当審議会において慎重に審議した結果、本書のとおり取りまとめましたので答申します。

なお、基本指針策定及び今後の事業推進に当たっては、本答申の内容を十分尊重されるよう要望します。

### (仮称)郡山市まちづくり基本指針(素案)の諮問に対する答申

(仮称)郡山市まちづくり基本指針審議会においては、本市の総合的かつ計画的な行政の運営を図るための最上位指針である(仮称)郡山市まちづくり基本指針(以下「基本指針」という。)の策定にあたり、少子高齢・人口減少社会にあっても、市民誰もが将来に渡り安全・安心に暮らし、活力に満ちた地域社会や産業が発展することを旨とするための官民共通の指針となることを目指し審議を重ねてきたところです。

そのため、本市が目指す将来都市構想「みんなの想いや願いを結び、未来(あす)へとつながるまち 郡山」の実現に向け、以下の内容に配慮するよう求めます。

#### 1. 基本指針全体に関する意見

全国的な少子高齢・人口減少社会の進展に伴い、本市においても、既に「郡山市人口ビジョン」等で示されているように、長期的な人口減少局面を迎えています。特に生産年齢人口及び年少人口については、首都圏等への人口流出の影響もあり、現実的な将来推計人口を見据えた段階的改善に向けた取組が喫緊の課題として求められています。

そのような状況の中、基本指針をより実効性の高いものとし、効果的かつ効率的な事業の推進及び官民連携による社会課題解決に向けた施策展開を図るため、以下の項目に留意するよう提言します。

### (1) 基本指針策定後の市民参画について

基本指針に基づき、市民が市政に参加するにあたり、より具体的な取組を市民に分かりやすく示すとともに、町内会等地域団体や市民一人ひとりの意見を聞く機会を設けるなど、積極的な市民参画機会の拡充を図ること。

### (2) 「まち」自体の魅力向上について

各分野に特化した大綱別の施策展開はもちろん重要であるが、市民自らが暮らす本市の歴史や文化、市民の人間性に基づく「まち」自体の魅力を向上させることが必要であること。

### (3) 基本指針及び市政の情報発信について

基本指針は長期的なものであり即効性はないと思われるが、時代の流れに合った具体的な施策展開により、市民に届くようPRしていく必要がある。基本指針をはじめとした行政が示す計画や具体的な施策等については、ただ実施するだけでは市民まで届かないため、積極的な情報発信に努めるとともに、どの程度行き届いているのかモニタリングにより把握する必要があること。

### (4) 官民連携による将来構想の具現化について

基本指針の特徴でもある、市民自身が描いた将来構想としての「未来ストーリー」を具現化できるよう、基本指針に基づく具体的な施策や事業を、各分野の専門家等との官民連携により効果的に推進すること。

### (5) 少子化を核とし、現実的な将来人口に対応した課題の解決について

全ての政策分野において、根本となる課題は「少子化・人口減少」であり、その対応を先送りにすることなく、あらゆる視点から要因や関連性を分析し、分野横断的に効果的な課題解決策を推進すること。また、実際の施策展開にあたっては現実的な人口推計に基づく合理的な対策を講じる必要があること。

### (6) 成果指向型の施策推進について

ICT活用などによる、限りある行政資源の有効活用及び費用対効果の最大化のため、事業が成果を上げるための要素を体系化し、数値化して分析する手法であるロジックモデル等の新たな考え方に基づき、地域社会に対して与える具体的な成果を意識した成果指向型の施策推進を図ること。

### (7) 広域的な事業展開について

本市は、近隣自治体も含めた広域的な地域中核拠点として、医療体制の確保や、圏域全体の少子高齢化や人口流出問題への対応を積極的に推進し、地域全体の課題として取り組む必要があること。

## (8) 「品格ある郡山」の実現について

子どもから高齢者まで、一人ひとりの人権と多様性を認め合い、誰もが気持ちよく暮らせるまちの実現のためには、市民及びまちの「品格」を高めることも目標とする必要があること。

## (9) 市民ニーズの適確な把握について

基本指針策定にあたり、多様な市民の意見を取り入れたように、今後の施策展開にあたっては社会経済情勢の変化に適切に対応するとともに、市民や企業の意見を聞く機会を積極的に設け、市民ニーズに寄り添った展開とすること。

## 2. 各政策分野に関する意見

### ①「産業・仕事の未来」

#### (1) 市民自身が地域を知ることの必要性について

本市には誇れるものが無いのではなく、農業・商業・工業・観光などあらゆる分野において恵まれた環境にある。まずは市民自身が本市の魅力を正しく認識し地域に対する誇りを醸成する必要があること。

#### (2) 生涯活躍できる未来志向の人材育成について

本市で育ち学んだ市民はもちろん、市外からの人材還流を受け止める環境づくりに取り組むとともに、多くの経験を持つ高齢者が活躍できる仕事づくりや、未来の新しい技術や環境の変化にも対応できる長期的な人材育成に取り組む必要があること

#### (3) 寛容で柔軟な市民性を生かした産業振興について

地域の強みを生かした産業育成に加えて、入植者による安積開拓をはじめとした、人材流入や新たな産業の受け入れに対し寛容で柔軟な本市の地域性についても、本市の特性であり強みであると認識する必要があること。

#### (4) コメを基盤とした地力のある農業と6次産業化の展開について

恵まれた自然環境により、本市の農業、特にコメの収穫量や品質は全国に誇れるものである。更にもその品質に磨きをかけるとともに、若手農業従事者を中心とした野菜等の特産品づくりなど、農産物の高付加価値化や6次産業化についても積極的に取り組む必要があること。

## ②「交流・観光の未来」

### (1) 郡山の歴史や文化を生かした交流・観光の推進について

安積開拓・安積疏水開さく事業の日本遺産認定をはじめ、本市には古くからの歴史や伝統があり、また、音楽によるまちづくりなどの文化的魅力も多く存在しているので、それらを市民一人ひとりが学び、誇りを持つとともに、魅力を内外に広く伝える仕組みの構築が「交流・観光」の推進にとって重要なものであること。

### (2) 経済県都としての強みを生かした積極的なコンベンション誘致について

国立研究開発法人産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所や、ふくしま医療機器開発支援センターなどを核とした産業集積が進展する本市においては、産業や医療、スポーツ等の多彩なコンベンション誘致、さらにはこれらを起点としたアフターコンベンションに積極的に取り組む必要があること。

### (3) 世界を視野に入れた広域的な連携について

世界を視野に入れた観光誘客のためには、本市を中核とした近隣市町村との広域連携、更には東北の玄関口として、より広範囲な自治体と連携した周遊性の高い観光コンテンツにより、海外からの観光誘客(インバウンド)に対する魅力向上に向けた取組を推進する必要があること。

### (4) 「人」の魅力を生かした移住・定住の推進について

訪れたひとが、「また来たい」「住んでみたい」と思える、地域の「人」の魅力を生かした「おもてなし」と「つながり」により移住・定住の促進に取り組む必要があること。

## ③「学び育む子どもたちの未来」

### (1) 家庭や地域が乳幼児教育や学校教育等と連携した学び合いについて

家庭や地域における教育が子どもたちの成長にとって大きな影響を及ぼすことから、乳幼児教育や学校教育等との交流・ネットワーク化を図ることで、地域全体が「自分事」として子育て及び教育に主体的に関与できる体制を整備する必要があること。

### (2) 地域の歴史や文化、産業や人を大切にした教育について

日本遺産にも認定された、安積開拓・安積疏水をはじめとした本市の歴史や、各地域に残る祭りや伝統芸能などの文化、地域で子どもたちの生活を支える様々な職業や人との触れ合いにより、地域に対する誇りを醸成する「本市のアイデンティティ」を大切にした教育に取り組む必要があること。

(3) 未来を担う人材を育てる、専門的な外部人材や高等教育機関等との連携について

子どもたちの個性を伸ばし、社会において必要とされるコミュニケーション能力やイノベーション能力など、グローバルに活躍できる能力を身に付けるため、小・中学校において広い分野について学習するとともに、専門的な外部人材の活用や高等教育機関、企業等との連携にも積極的に取り組む必要があること。

(4) 小・中学校におけるキャリア教育について

ICTやAI技術の進展などにより職業の多様性が加速的に進展しており、子どもたちが社会で必要とされる資質や能力を育み、主体的に将来像を構築できるよう、多様で具体的な情報提供や体験の機会拡充に取り組むとともに、変化する社会の動きを学校教育に取り入れる必要があること。

④「誰もが地域で輝く未来」

(1) 町内会活動に対する取り組みについて

第五次総合計画で掲げている基本指標を見ても、町内会加入率は減少傾向にあり、地域コミュニティの基盤的な組織として、町内会活動を支える効果的な取り組みについて検討する必要があること。

(2) 本市の特色でもある「楽都」を生かした生涯学習について

これまでの取り組みにより「楽都郡山」の都市イメージ形成や音楽によるまちづくりについては一定の成果があるものと思われるので、今後は生涯学習分野における音楽の活用を一層推進する必要があること。

(3) 市民が互いに支え合い、健康で生きいきと暮らせる地域福祉の推進について

健康で生きいきと暮らせる地域福祉の実現に向けて、より具体的な対象や取組を明示するなど、分かりやすく効果的な事業推進に配慮する必要があること。

(4) 女性が元気で活躍できるまちについて

地域の企業や家庭などの連携により、女性の活躍、社会参加を一層推進する必要があること。

⑤「暮らしやすいまちの未来」

(1) 「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の実現について

中長期的な視点から、医療・福祉・商業等の生活機能確保と地域公共交通ネットワークの再編を連携させた「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」について検討する必要があること。

## (2) 公共交通システムの拡充について

高齢化の進展に対応するためには公共交通システムの充実が必要不可欠であり、タクシー等の自動配車システムやコミュニティバスの運行など新たな公共交通システムの導入に向けて、社会実験等による実証も踏まえて積極的に検討する必要があること。

## (3) 空き家、空き地対策について

少子高齢化や首都圏等への人口流出により、郊外だけではなく中心市街地においても空き家、空き地の問題が顕在化することが予想されるため、計画的な対策を進める必要があること。

## (4) 本市の「地域の拠点」としての位置付けについて

広い市域を持ち、近隣市町村も含めた地域の拠点都市である本市として、連携中枢都市圏の形成を視野に入れた都市基盤の整備を図る必要があること。

## (5) 災害に強い強靱なまちづくりについて

特に近年頻発するゲリラ豪雨などの都市型災害を含め、市民生活や企業の経済活動に重大な影響を及ぼす様々な災害への対策を積極的に推進する必要があること。



# 郡山市民の意見公募に関する手続（パブリックコメント）

## ①目的

郡山市まちづくり基本指針の策定にあたり、市民の皆さんの意見により必要に応じて案の修正を行うため実施

## ②意見公募期間

2017(平成29)年12月20日(水)～2018(平成30)年1月19日(金)

## ③案の閲覧

市ウェブサイト、市政情報センター、各行政センター及び各市民サービスセンターで閲覧

## ④実施結果

2名の方から3件のご意見をいただきました。

## 庁内策定体制

### ①郡山市まちづくり基本指針策定委員会

目的：「郡山市まちづくり基本指針」を策定するため設置

組織：市長、副市長、教育長、上下水道事業管理者、総務部長、政策開発部長、財務部長、税務部長、市民部長、文化スポーツ部長、生活環境部長、保健福祉部長、保健所長、こども部長、農林部長、産業観光部長、建設交通部長、都市整備部長、会計管理者、議会事務局長、教育委員会事務局教育総務部長、教育委員会事務局学校教育部長、上下水道局長(25名)

委員長：市長

副委員長：副市長

### ②郡山市まちづくり基本指針検討委員会

目的：「郡山市まちづくり基本指針」の案を調整するため設置

組織：政策開発部次長、総務部総務法務課長、政策開発部政策開発課長、財務部財政課長、税務部市民税課長、市民部市民・NPO活動推進課長、文化スポーツ部文化振興課長、生活環境部生活環境課長、保健福祉部保健福祉総務課長、保健福祉部保健所総務課長、こども部こども未来課長、農林部農業政策課長、産業観光部産業政策課長、建設交通部道路建設課長、都市整備部都市計画課長、会計課長、議会事務局総務議事課長、教育委員会事務局教育総務部総務課長、教育委員会事務局学校教育部学校管理課長、上下水道局総務課長(20名)

委員長：政策開発部次長

副委員長：政策開発課長

### ③郡山市まちづくり基本指針担当者会議

目 的：「郡山市まちづくり基本指針」について調査研究するため設置

組 織：政策開発課長、政策開発課長補佐、政策開発課職員、個別計画を所管する所属の担当職員及びその他各所属の担当職員等

委 員 長：政策開発課長

副委員長：政策開発課長補佐



## 総合計画の変遷

名 称	計画期間(策定時) ●基本構想 ○基本計画	将来都市像	市長名(策定時) (在任期間)
郡山市 総合計画	●1971(昭和46)年度 ～1985(昭和60)年度 (15年間) ○1971(昭和46)年度 ～1980(昭和55)年度 (10年間)	美しく 明るく 栄える郡山	秀瀬 日吉  1959(S34).5.1 ↓ 1977(S52).4.26
郡山市 新総合計画	●1979(昭和54)年度 ～1993(平成5)年度 (15年間) ○1979(昭和54)年度 ～1988(昭和63)年度 (10年間)	心豊かで 活気あふれるまち	高橋 堯  1977(S52).4.27 ↓ 1985(S60).4.26
郡山市 第三次総合計画	●1987(昭和62)年度 ～2000(平成12)年度 (14年間) ○1987(昭和62)年度 ～1996(平成8)年度 (10年間)	人間が人間として 生きがいのある 活力に満ちた “近代福祉都市”	青木 久  1985(S60).4.27 ↓ 1993(H5).4.26
郡山市 第四次総合計画 (郡山きらめき21)	●1995(平成7)年度 ～2009(平成21)年度 (15年間) ○1995(平成7)年度 ～2004(平成16)年度 (10年間) ○2005(平成17)年度 ～2009(平成21)年度 (5年間) [後期基本計画]	水と緑がきらめく 未来都市 郡山	藤森 英二  1993(H5).4.27 ↓ 2005(H17).4.26
郡山市 第五次総合計画	●2008(平成20)年度 ～2017(平成29)年度 (10年間) ○2008(平成20)年度 ～2012(平成24)年度 (5年間) ○2013(平成25)年度 ～2017(平成29)年度 (5年間) [後期基本計画]	人と環境のハーモニー 魅力あるまち 郡山	原 正夫  2005(H17).4.27 ↓ 2013(H25).4.26

## 郡山市まちづくり基本指針用語集（五十音順）

用語	意味
ICT (アイ・シー・ティー)	・ Information and Communications Technology。情報処理や通信に関する技術、サービス等の総称。
アイスブレイク	・ ワークショップの冒頭などで初対面の人同士の緊張をほぐすための手法。コミュニケーションを取りやすい雰囲気を醸成するために行う。
アウトカム指標	・ 取り組みによる成果を示す指標。どのような活動をしたかを示すアウトプット指標とは区別される。
アクティビティ	・ 遊び、体験、レジャーなどのうち、特に体を動かすものを指すことが多い。
アグリテック	・ 農業における課題をIoTやAIなどにより解決しようとする取り組み。
アフターコンベンション	・ コンベンション終了後の行事。個人的な観光等も含む。
インターンシップ	・ 特定の職の経験を積むため、企業や組織において労働に従事させる制度。
イノベーション	・ 社会的意義のある新たな価値を生み出し、経済発展を促すための技術革新。
インバウンド	・ 入ってくるものという意味から転じて、外国(区域外)から訪れる旅行を指す。
インフラ	・ インフラストラクチャー。下部構造という意味であり、産業や生活の基盤として整備される施設(道路、上下水道、送電網、鉄道、通信網など)。
AI (エー・アイ)	・ Artificial Intelligence。人工知能。コンピュータ上で人間と同様の知能を実現させるための技術。
AET (エー・イー・ティー)	・ Assistant English Teacher。英語教師などとチームで授業を行う外国人講師。
エコシステム	・ 元々は「生態系」を示す言葉だが、比喩的に、社会経済が循環するシステムを示す。
SNS (エス・エヌ・エス)	・ Social Networking Service。人と人のつながりを促進するコミュニティ型のサービス。
エリアディスカッション	・ 地区別懇談会のこと。川越市など先進自治体でも「エリアインタビュー」などと言い換える事例あり。
OECD (オー・イー・シー・ディー)	・ Organization for Economic Co-operation and Development。経済協力開発機構。ヨーロッパ諸国を中心に、日米を含む35の先進国が加盟する国際機関。
オープンガーデン	・ 個人の庭を一定期間、一般公開する取り組み。
観光コンシェルジュ	・ コンシェルジュとはホテルで宿泊客の様々な要望に応える担当者のこと。そのことから、観光コンシェルジュとは、観光客に対して様々な情報提供、案内を担う人材を指す。
観光地再生ファンド	・ 観光産業の成長に向けた変化を支援するためのファンド。

用語	意味
キックオフミーティング	・新たなプロジェクトを始動させる際、顔合わせのために行う最初の会議。プロジェクトの目的や内容を参加者が共有し意識を統一するために必要。
キャリア教育	・広義では、経験を活かした教育として、インターンシップや社会人大学など生涯学習全般にわたるが、特に学校教育において学校と社会の円滑な接続を図るために、職業観や職業に関する知識技能を身に付け、主体的に進路を選択する能力を育てる教育として導入された。
行政計画	・行政が計画の策定主体となり、目指す地域社会像とその実現に向けて行政が実施することを明示したものの。計画目標の実現に行政が責任を負う。
グローバルスタンダード	・世界標準、国際標準規格。国際的に共通している理念やルール。特に日本は国内独自のルールや基準があり、独特の文化、慣習が発達していることから、独自の進化を遂げる離島に例えて「ガラパゴス」と呼ばれることもある。
健康寿命	・健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。
公共データオープン化	・いわゆるオープンデータ化として国を挙げて取り組んでおり、行政が有するビッグデータを二次利用が可能なルールで公開すること。
公共計画	・地域社会全体が計画の策定主体となり、住民も含めた地域の総意に基づいて策定し、地域が進むべき方向性とその実現に向けた関係主体の役割を示したものの。計画目標の実現に地域社会全体が責任を負う。
合計特殊出生率	・15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したものの。
郡山市 新たな広域連携促進事業 成果報告書	・少子高齢・人口減少社会にあっても、地域を活性化し経済を持続可能なものとし、住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるようにするため、本市が2015(平成27)年度に総務省委託事業「新たな広域連携促進事業」を活用し、連携中枢都市圏の形成に向けた調査・検討を行った成果報告書。
郡山市人口ビジョン	・2040年を目標年次とする本市人口の将来展望を示すとともに、これを実現するために本市が目指すべき方向性を示すもの。
郡山市総合戦略	・2015(平成27)年度から5年間における本市の「まち・ひと・しごと創生」の目標や施策の基本的方向性、具体的な施策を示すもの。
国土のグランドデザイン 2050	・国土交通省が定める、2050年を見据え、未来を切り開いていくための国土づくりの理念や考え方を示すもの。
5G (5ジー)	・第5世代移動通信システム。現在規格化が進んでいる次世代の無線通信システム。
コレクティブ・インパクト	・集合知による課題解決。社会課題解決に向けて、立場の異なる主体(行政、企業、NPO、財団、市民など)が、組織の壁を越えてお互いの強みを出し合いながら解決を目指す手法。
コンテンツ	・いわゆる内容のこと。
コンパクトシティ ・プラス・ネットワーク	・地域の生活機能を確保し、地域公共交通と連携したコンパクトなまちづくりを目指す手法。
コンベンション	・企業の展示会や学会などの学術会議、国内外の研究者が集う国際会議等。

用語	意味
再生可能エネルギー	・太陽光、地熱、水力、風力など自然界のサイクルにより循環・補充されるエネルギーとして近年利用が高まっている。
財政健全化	・国や地方公共団体などの公的機関が歳入と歳出の差である財政収支を改善すること。
サイバー空間	・コンピュータやネットワークの中に広がるデータ領域を示す仮想的な空間であるが、現在では物流やサービス供給や距離を越えたコミュニティなどが形成されており、既に新たな社会領域として認識されている。
サイレント・マジョリティ	・物言わぬ多数派、声無き多数派などと訳される。公の場で声高に発言することは無いが、実は世論の多数を占める勢力。特に高度に民主化が進んだ社会においてはサイレント・マジョリティへの配慮が重要といわれている。
システム思考	・問題となっている対象を、構造を持ったシステムとして捉え、問題解決を行おうとする考え方。要素間の因果関係に着目して原因究明を行う。目標と活動の関係を整理する手法としてバックキャストの具体的手法として活用されている。
シティプロモーション	・地域のイメージを高め、知名度の向上や地域への愛着を醸成する手法。
自分ごと (自分事・我が事)	・他人事ではない、「まさに自分に関わりのあることから」。当事者意識を持つこと。
市民意識調査	・本市が毎年実施している市政全般に対する市民アンケート。本市が実施する施策の満足度や重要度等を調査している。
市民活動ガイドブック	・市民が利用可能な助成制度等をまとめたガイドブック。
市民討議会	・ドイツで考案された市民参加の手法である「プラーヌクス・ツェレ」。直訳すると「計画細胞」とも。参加者を母集団から無作為抽出で選ぶ、参加者に報酬を支払い責任ある立場として参加してもらう、専門的な情報を提供する、少人数グループによる討議で結論を出す、会議の過程や結果を公表する、などの特徴がある。今回開催した市民会議「あすまち会議こおりやま」はこの手法で実施。
集約型都市構造	・市街地の無秩序な拡大を抑制し、公共交通と連携した生活サービス機能を集積させる都市構造。過度に自家用車に頼ることなく生活できる都市。
集落生活圏	・一体的な日常生活圏を構成していると認められる集落及びその周辺地域。
主体的・対話的で深い学び	・子どもたちの興味や関心に応じ、他者との協働により課題発見・解決に至る学習。
純移動率	・特定の時期、場所における移入民と移出民の差を表す人口統計学の用語。
循環型社会	・製品等の廃棄抑制、適正な循環的利用等により、資源の消費を抑制し、環境負荷低減が図られている社会。
新エネルギー	・「新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法」において定義されているバイオマス、太陽光等の再生可能エネルギーを指す。
人口フレーム方式	・市街化区域面積の設定において、人口、世帯数や産業活動の将来見通しを根拠とする方式。

用語	意味
ストーリーテリング	・将来ビジョンなどを描く際、具体的な登場人物や場面を想定し、物語として考えることで課題や矛盾点を明らかにする手法。さらにその物語を語り合うことで相互理解を促す。
セーフコミュニティ	・地域社会全体が協働し、けがや事故を予防する活動を行い、安全・安心なまちづくりを推進していると認められた地域のこと。WHO(世界保健機関) 地域安全推進協働センターが創設した国際認証制度である。
Society5.0 (ソサエティ 5.0)	・国の「新産業構造ビジョン」に描かれている第4次産業革命を経て実現される目指すべき将来像。サイバー空間と現実世界が高度に融合された技術により「超スマート社会」がもたらされるとしている。
ダイバーシティ	・多様性。人種、国籍、性別、年齢等の個人差にこだわらず人材を活用すること。
第4次産業革命	・ドイツ政府が推進する産業改革プロジェクト「インダストリー 4.0」として、インターネットやAIによる産業構造の変革を目指すもの。日本でも「第4次産業革命」として対応を進めている。
団塊ジュニア世代	・日本において1971(昭和46)年から1974(昭和49)年までに生まれた世代。第二次ベビーブーム世代とも呼ばれ、世代人口が他の世代に比べて多い。
団塊の世代	・日本において1947(昭和22)年から1949(昭和24)年までに生まれた世代。第一次ベビーブーム世代とも呼ばれ、世代人口が他の世代に比べて多い。
地域共生社会	・公的な福祉だけではなく、地域の多様な主体が「我が事」として参画し、互いに支え合う社会。
小さな拠点	・複数の集落が散在する地域で、生活機能を歩いて動ける範囲に集めた拠点。
チェックイン	・ワークショップ冒頭に参加者の状態や気持ちを共有する手法。アイスブレイクの一つ。
地方債	・都道府県、市町村など普通地方公共団体が発行する公債。
DMO (ディー・エム・オー)	・Destination Management( Marketing) Organization。地域の観光資源に精通し、地域住民や団体と協働して観光振興を担う法人。日本でも、「日本版DMO」として、地域の稼ぐ力を引き出すとともに、誇りと愛着を醸成する観光地作りを実現するための団体と位置づけられている。
デザイン思考	・定義、研究、アイデア出し、プロトタイプ化、選択、実行、学習の7段階からなる思考法。一般に発散と収束を繰り返すことで多くの可能性の中から最適解を発見する方法であり、ワークショップ等に用いられる。
特定財源	・用途について制限が設けられる財源。国庫支出金など。
トレンド	・時代の趨勢、潮流。
インターネット テレビ会議システム	・遠隔地での対面コミュニケーションを可能とする情報システム。本市でも本庁と行政センター等を繋ぐ会議等で活用。
農地所有適格法人	・農地法で規定された農地に関する権利の取得が可能な法人。

用語	意味
パートナーシップ	・複数の者が協働して事業を営む関係。
ハザードマップ	・被害予測地図。自然災害による被害を予測し被害範囲や避難経路等を表示したもの。
働き方改革	・一億総活躍社会の実現に向け、誰もが納得できる働き方を実現するもの。
バックキャスト (バックキャストイング)	・将来構想や課題、目標から振り返って何をすべきか考える手法。未来からの発想法。特に環境分野を中心に導入されてきた考え方であり、市民主体のまちづくりを誘導する方法として近年広がりを見せている。
パブリックコメント	・国や地方自治体などが規則あるいは計画等を策定する際、広く公表した上で意見を求める手続き。
PFI (ピー・エフ・アイ)	・Private Finance Initiative。PPPの手法の一つであり、公共サービスを提供する際、施設の整備やサービス提供を、民間資金を利用して実施する方法。
PPP (ピー・ピー・ピー)	・Public Private Partnership(公民連携)。公民が連携して公共サービスの提供を担う手法。
ビジネスコンテスト	・参加者が新たなビジネスのモデルを考案し、その完成度などを競うコンテスト。新規事業創出や起業支援の一環として開催される。
ビジョン	・将来どのような成長・発展を遂げていきたいかなどの構想や未来像を描いたもの。
ビッグデータ	・従来のソフト等では処理不可能なほど膨大なデータ。総務省では特に事業に役立つデータとしている。
頻出用語分析	・ビッグデータの情報解析手法の一つ。会議等で出された意見のうち、どのような言葉が多く語られていたかを分析することで、潜在的なものも含めて参加者の関心を分析する手法。
ファールボール	・野球やソフトボールで打球がフェアゾーンに入らなかったもの。観客に当たることもあるので注意が必要。
ファシリテーション	・会議などの場で参加者の発言を促したり、話の流れを整理したりするなどして、会議の合意形成や活性化を促進させること。
ファンドレイジング	・事業実施に必要な資金を、個人、法人、政府などから集める行為の総称。
フィジカル空間	・現実世界。我々の肉体が日々暮らす物理的な世界のこと。
付加価値額	・企業等の事業活動によって、どれだけ新しい価値が生み出されたかを表す指標。
プライマリーバランス	・基礎的な財政収支。一般会計の歳入総額から公債の発行(借金額)を除外し、歳出総額から過去の債務に係る元利払い(借金の返済)を除外した収支額。このバランスが取れていれば、借入金に頼らない財政運営であると評価できる。
プレゼン	・プレゼンテーションの略。一般に多数の聴衆に対して情報を提示し理解、納得を得るための行為全般を指す。
プロトタイピング	・製品開発で用いられる施策手法。試作とテストを繰り返し、速やかなフィードバックを得るもの。

用語	意味
フロンティア・スピリット	・進取、自由の精神。開拓者魂。安積原野を切り拓いた郡山市民に脈々と息づいている気性。
ベンチャーキャピタル	・主に高い成長率を有する未上場企業等に対して投資を行い、資金投下と同時に経営コンサルティングを行い、投資先企業の成長、価値向上を図る。
マイ・プロジェクト	・社会(地域)と仕事と私(個人的な問題意識)の因果関係を整理し、個人の想いと社会課題解決を結び付け「自分事」にする手法。システム思考とデザイン思考に基づいた実践的手法として教育や企業研修への活用が進んでいる。
民泊	・旅行者が一般の民家に対価を支払って宿泊すること。近年のニーズの高まりを受け、旅館業法が規制緩和されるなど利用に当たっての法整備や特区による規制緩和など環境整備が進んでいる。
メタボリックシンドローム	・内臓脂肪型肥満に高血糖・高血圧・脂質異常症のうち2つ以上の症状が一度に生じている状態。
ユニバーサルデザイン	・文化、言語、老若男女といった差異に関わらず多くの人々が利用しやすいような施設、製品、情報等のデザイン。
ラップアップミーティング	・プロジェクトを終了させること。打ち上げ。これまでの会議の内容を総括し確認するための会議。
ループ図	・システム思考を図示するための手法の一つ。個人の想いと社会課題解決を結びつけ「自分事化」する手法。ある目標達成に至るまでの因果関係を整理することで、今何ができるのかを明確にすることができる。
レバレッジポイント	・てこの原理でいう「力点」のこと。ループ図から導かれた要素の因果関係のうち、実行することにより目標達成への影響が最も大きいポイント。これを明確にすることで、事業の優先順位付けを参加者全員で共有することができる。
連携中枢都市圏構想	・一定要件を満たす連携中枢都市と、近隣市町村との連携協約により圏域の活性化を図る構想。
6次産業化	・農業や水産業などの第一次産業が加工・流通への展開により付加価値を図るもの。
ロードマップ	・事業推進など物事を展開させていく過程を示した行程表。
ローリング	・複数年度にまたがる計画を作成した後、社会経済情勢など環境変化に対応して計画内容を見直すこと。いわゆるPDCAサイクルに則って行われることが多い。
ロールプレイング	・ストーリーテリングで描いたストーリーを参加者が登場人物を演じることで実感を持って共有・伝達する手法。
ワークショップ	・主催者からの一方的な情報伝達ではなく、参加者が主体的に学びあい議論しあうことで結論を導き出す会議の手法。

## 参考文献

- 「市民自治」…………… 著：福嶋浩彦（株）ディスカヴァー・トゥエンティワン）
- 「みんなでつくる総合計画 高知県佐川町流ソーシャルデザイン」…………… 著：チームさかわ（株）学芸出版社）
- 「地方は活性化するか否か」…………… 著：こばやしたけし（株）学研プラス）
- 「つぶやきの育て方Ⅱ」…………… 著：畠中智子（株）わらびの）
- 「地域を変えるデザイン」…………… 著：筧裕介（英治出版株）
- 「幸せに向かうデザイン」…………… 編著：永井一史、山崎亮、中崎隆司（日経BP社）
- 「討議デモクラシーの挑戦」…………… 編：篠原一（岩波書店）
- 「出現する未来から導く」…………… 著：C・オッター・シャーマー、カトリン・カウファー（英治出版株）
- 「未来の年表」…………… 著：河合雅司（株）講談社）
- 「デザイン思考ファシリテーションガイドブック」  
…………… 編著：（一社）デザイン思考研究所 監修：イトーキオフィス総合研究所
-

# あすまちこおりやま 2018-2025

The Plan for the Future of Koriyama

## 郡山市まちづくり基本指針 [公共計画編]

2018年 2月

編集・発行 郡山市

お問い合わせ

TEL.024-924-2021 FAX.024-924-2822

Mail:seisaku-kaihatsu@city.koriyama.lg.jp

あすまちこおりやま

検索

表紙衛星写真データ：©2018 Google、DigitalGlobe

